

ユーザーズマニュアル

オフィスシリーズ Type-HA • User's Manual

オフィスシリーズ Type-HA

本機を使用開始するまでの手順を説明しています。
必ずお読みください。

標準装備されている装置や機能と、
取り付け可能な装置について説明しています。
添付されているソフトウェアの使用方法や
インストール方法について説明しています。



ご使用の前に

ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



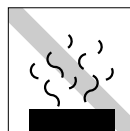
警告

煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

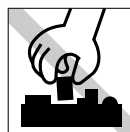
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。



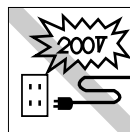
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。

けがや感電・火災の原因となります。



表示されている電源(交流100V)以外では使用しないでください。

指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。



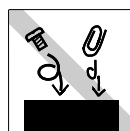
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。



通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。

感電・火災の原因となります。



⚠ 警告

異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスセンター
または修理センターにご相談ください。

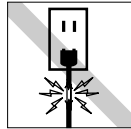


破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。

電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- ・ 電源コードを加工しない。
- ・ 無理に曲げたり、ねじったり、引っばったりしない。
- ・ 電源コードの上に重いものを載せない。
- ・ 熱器具の近くに配線しない。

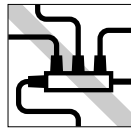
電源コードが破損したら、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談
ください。



電源コードのたこ足配線はしないでください。

発熱し、火災の原因となります。

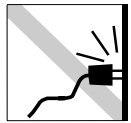
家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。



電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。

取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。

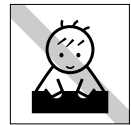
感電・火傷の原因となります。



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでくださ
い。

飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

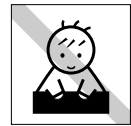
万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。



⚠ 注意

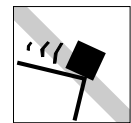
小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。

落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。

落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



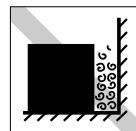
⚠ 注意

湿気やほこりの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。

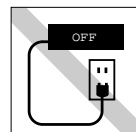


本製品の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
次のような場所には設置しないでください。

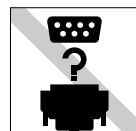
- ・押し入れや本箱など風通しの悪いところ。
- ・じゅうたんや布団の上
- ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。



連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



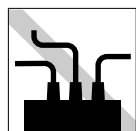
各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、火災の危険があります。



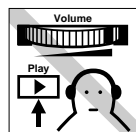
拡張カードやメモリの交換・増設などは、本製品の内部が高温時には行わないでください。内部が高温になるため火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



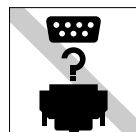
ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量で聴覚障害の原因となります。



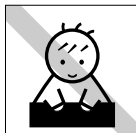
長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの危険があります。



ゲームポート/MIDIコネクタの形状が、日本電気（株）製PC-9801シリーズ用ディスプレイコネクタと同じ形です。
誤ってこれらのディスプレイを接続しないでください。接続すると、火災の危険があります。



イジェクトピンは、小さなお子様の手の届くところには保管しないでください。
目をついたり、口に入れたりして、けがをする危険があります。
(光磁気ディスクドライブ内蔵機種)



使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやフロッピーディスクなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

システムの拡張

コンピュータに内蔵オプション装置を装着して機能を拡張する方法を説明します。

BIOSの設定

BIOS Setupユーティリティを使用し、BIOSの設定を変更する方法について説明します。

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

こんなときは

困ったときに

警告メッセージが表示されたら

付録

お手入れ方法、CMOS RAMの初期化、リチウム電池の交換、ハードディスク領域の変更方法、仕様などについて説明します。

目次

マニュアル中の表記について (7)

製品保護上の注意 (9)

使用・保管時の注意	(9)
記録メディア	(10)
マウス	(11)

使い始めるまでの準備

ご使用の前に	2
コンピュータを使い始めるまでの手順 ..	2
システムの特長	3
添付ソフトウェアの概要	4

各部の名称と働き 7

コンピュータの設置 9

電源の入れ方とWindowsのセットアップ ..	13
電源を入れる前に	13
電源の入れ方とWindowsの起動	15
セットアップ終了後の確認事項	16

Windows98インストールモデルの セットアップ 18

Windows98のセットアップ	18
バックアップディスクの作成	20
Windows98起動ディスクの作成	21

WindowsNT4.0インストールモデルの セットアップ 22

WindowsNT4.0のセットアップ	22
バックアップディスクの作成	25

Windows2000インストールモデルの セットアップ 26

Windows2000のセットアップ	26
バックアップディスクの作成	29
セットアップブートディスクの作成	31

電源の切り方 33

Windows98の終了と電源の切り方 ...	33
WindowsNT4.0の終了と電源の切り方	34
Windows2000の終了と電源の切り方 ...	34
リセット	35

コンピュータの基本操作

キーボードを使う 38

キーの種類と役割	38
----------------	----

マウスを使う 41

マウスの操作	41
マウスの設定変更	41

フロッピーディスクドライブ (FDD) を使う 42

FDのセットと取り出し	43
FDのフォーマット	44
データのバックアップ	45
ライトプロテクト (書き込み禁止) ..	45
1.25MBのFDを使用する	46

ハードディスクドライブ (HDD) を使う 47

データのバックアップ	47
HDDのフォーマット	48
購入時のHDD領域について	48

CD-ROMドライブを使う 49

CD-ROMのセットと取り出し	49
強制的なCD-ROMの取り出し	50

光磁気ディスクドライブを使う 51

MOのセットと取り出し	51
MOのフォーマット	52
ライトプロテクト (書き込み禁止) ..	52
強制的なMOの取り出し	53

解像度や表示色を変更する	54
Windows98の場合	54
WindowsNT4.0の場合	56
Windows2000の場合	57

省電力機能	59
省電力機能の種類	59
実行方法	61
復帰方法	62

その他の機能	63
サウンド機能	63
ネットワーク機能	63
パラレルコネクタ	63
シリアルコネクタ	64
USBコネクタ	64
コンピュータウィルスの検索・駆除	64

システムの拡張

拡張できる装置	66
作業時の注意	67
本体カバーの取り外し・取り付け	68
本体カバーの取り外し・取り付け ..	68
フロントパネルの取り外し・取り付け ...	70
フェイスプレートの 取り外し・取り付け	72

DIMMの増設	73
DIMMの仕様	73
DIMMの取り付け	74

拡張カードの装着	77
拡張スロットの仕様	77
拡張カードの装着	78

ドライブベイへのドライブの装着	80
5.25型ドライブ装置への装着	80
HDDベイへの装着	82

ドライブ装置の装着	85
ドライブ装置の種類	85
IDE装置の設定	86
SCSI装置の設定	89
ドライブ装置の接続例	90

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に	94
BIOS Setupユーティリティの操作	95
BIOS Setupユーティリティの起動	95
BIOS Setupユーティリティの操作	95
設定値をもとに戻すには	97
BIOS Setupユーティリティの終了	98
BIOS Setupユーティリティの設定項目	99
Mainメニュー画面	99
Passwordの設定	101
Advancedメニュー画面	103
Powerメニュー画面	106
Bootメニュー画面	108
Exitメニュー画面	109
BIOSの設定値	109

ソフトウェアの再インストール

Windows98のインストール	114
インストールの準備	114
インストールの順番	115
インストール時の注意	116
基本MS-DOS領域のフォーマット ...	117
Windows98のインストール	118
デバイスの設定 (Intel i815Eチップ セット用ドライバの設定)	119
DAM転送の設定	120
ディスプレイドライバのインストール ...	121

サウンドドライバのインストール ..	122
ネットワークドライバのインストール ..	123
マウスドライバのインストール	124
3モードFDDドライバのインストール .	125
各種ドライバのインストール	126

WindowsNT4.0のインストール 127

インストールの準備	127
インストールの順番	128
インストール時の注意	129
基本MS-DOS領域のフォーマット ..	130
WindowsNT4.0のインストール	132
ネットワークドライバのインストール .	134
WindowsNT4.0のアップデート	135
ディスプレイドライバのインストール .	137
サウンドドライバのインストール ...	138
マウスドライバのインストール	139
3モードFDDドライバのインストール .	140
各種ドライバのインストール	141

Windows2000のインストール 142

インストールの準備	142
インストールの順番	143
インストール時の注意	144
基本MS-DOS領域のフォーマット ..	145
Windows2000のインストール	146
デバイスの設定 (Intel i815Eチップ セット用ドライバの設定)	148
DMA転送の設定	149
ディスプレイドライバのインストール .	150
サウンドドライバのインストール ...	151
マウスドライバのインストール	152
3モードFDDドライバのインストール .	153
各種ドライバのインストール	153

こんなときは

困ったときに 156

起動時の不具合	156
キーボードの不具合	159

マウスの不具合	160
ディスプレイの不具合	160
FDDの不具合	162
HDDの不具合	164
CD-ROMドライブの不具合	165
省電力機能に関する不具合	166
アプリケーションソフトの不具合	167
メモリの不具合	168
拡張カード、周辺機器の増設に 関する不具合	168
プリンタの不具合	169
スピーカの不具合	169
その他の不具合	169

警告メッセージが表示されたら 170

付録

お手入れ 174

本機のお手入れ	174
マウスのお手入れ	174

リチウム電池の交換 176

CMOS RAMの初期化 178

HDD領域の変更 179

MS-DOS領域の種類	179
HDD領域の変更	180
既存領域の削除	181
MS-DOS領域の作成	184
MS-DOS領域のフォーマット	187

コンピュータ内部のケーブル接続 188

コネクタ仕様 189

機能仕様一覧 192

用語集 193

索引 199

マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



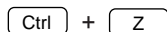
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



1 2



制限事項です。

機能または操作上の制限事項を記載してあります。

参考事項です。


覚えておく便利なことを記載してあります。




説明文が次ページに続くことを示します。



参照ページを示します。

操作手順です。

ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。

で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。

はEnterキーを表します。また、は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、実際のキートップの表示とは異なる場合があります。

+ の前のキーを押したまま + の後のキーを押します。
この例では、 を押したまま  を押します。

オペレーションシステムに関する記述

本書では、オペレーションシステムの名称を次のように略して表記します。

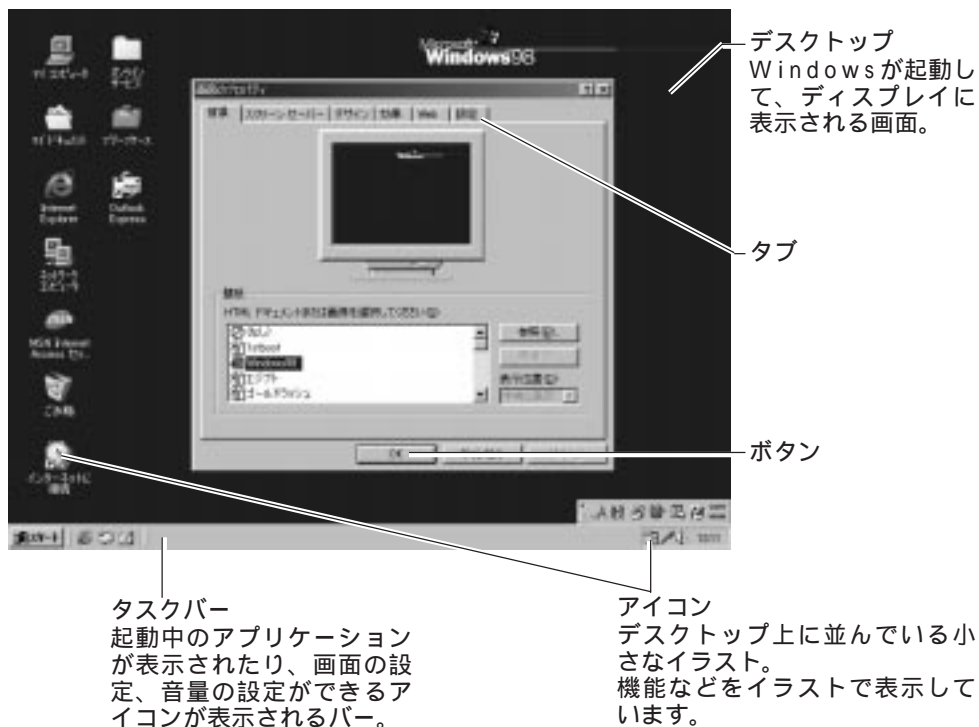
Windows 98
Windows NT 4.0

Windows 2000
MS-DOS

Microsoft® Windows® 98 Operating system
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating system
Version 4.0
Microsoft® Windows® 2000 Professional
Microsoft® MS-DOS® Operating system Version 6.2/V

Windowsの画面表示に関する記載

本書では、Windows画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



Windows画面操作の記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を簡略化して記載しています。

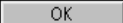
記載例 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」をクリックします。

実際の操作 : ① 「スタート」をクリックします。

② 現れたメニューから「設定」をクリックします。

③ 横に現れるサブメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

記載例 : [OK]

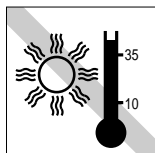
実際の操作 : 



製品保護上の注意

使用・保管時の注意

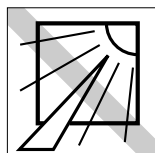
コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱いってください。



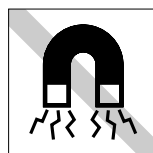
温度が高すぎる所や、温度が低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10 ～35 です。



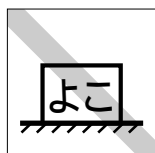
他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



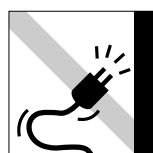
直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



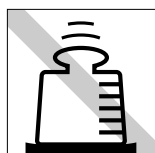
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、フロッピーディスクなどのデータが破壊されることがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



コンピュータ本体を横置きにしないでください。
故障、誤動作の原因になります。本機は縦置き専用に設計されています。



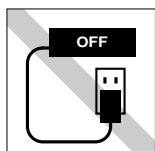
電源ケーブルが抜けやすい所（ケーブルに足が引っかかりやすい所や、ケーブルの長さがぎりぎりの所など）にコンピュータを置かないでください。
電源ケーブルが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



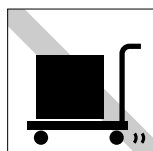
コンピュータ本体の上には重い物を載せないでください。
重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。



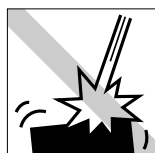
本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。
変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
電源をオフにしても、コンピュータ内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



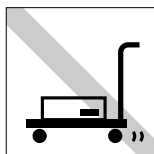
遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。
衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



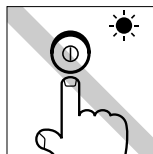
移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。
内蔵の周辺機器（ハードディスクドライブ、CD-ROMドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



コンピュータは一般ゴミとして廃棄しないでください。
廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。



輸送や保管をするときは、付属物を
セットしたままにしないでください。
配線ケーブル、フロッピーディスク、
CD-ROMなどは取り外してください。



アクセスランプが点灯中は、コン
ピュータの電源スイッチを押したり
、リセットしないでください。

記録メディア

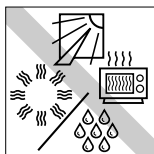
以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。
記録メディアの種類は、次のとおりです。

フロッピーディスク・スーパーディスクなど **FD**

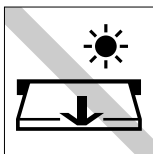
CD-ROM・DVD-ROMなど **CD**

光磁気ディスク **MO**

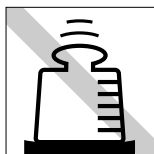
記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



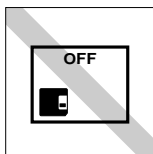
直射日光が当たる所、暖房器具の
近くなど、高温・多湿となる場所には
置かないでください。



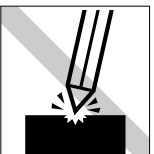
アクセスランプが点灯中は、記録メ
ディアを取り出したり、コンピュータの
電源スイッチを押したり、リセットをし
ないでください。



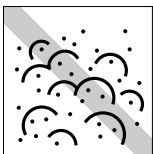
上に物を載せないでください。



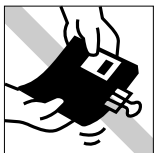
使用後は、コンピュータにセットした
ままにしたり、裸のまま放置したりしな
いでください。
専用のケースに入れて保管してくだ
さい。



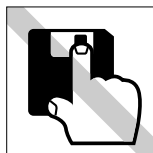
キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用
や保管しないでください。



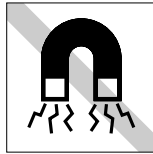
クリップではさむ、折り曲げるなど、無
理な力をかけないでください。



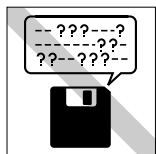
アクセスカバーを開けたり、磁性面
に触れたりしないでください。
FD MO



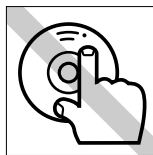
磁性面にホコリや水を付けないでく
ださい。
シンナーやアルコールなどの溶剤類
を近づけないでください。 **FD MO**



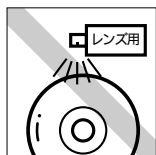
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。
FD MO



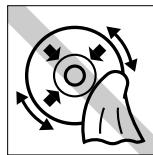
何度も読み書きしたフロッピーディスクは使わないでください。
磨耗したフロッピーディスクを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。 **FD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。 **CD**



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。 **CD**



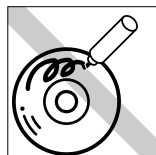
レコードのように回転させて拭かないでください。
CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。 **CD**



CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。 **CD**



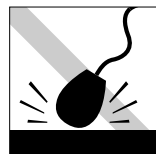
CD-ROMなどのメディアにシールを貼らないでください。 **CD**



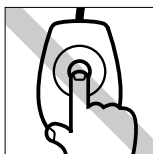
信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないでください。 **CD**

マウス

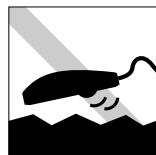
マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



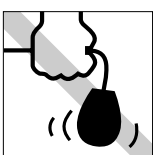
落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



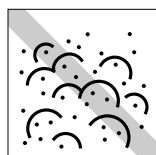
マウスボールを素手で触らないでください。



平らな場所で使用してください。でこぼこのある場所ではマウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。



持ち運びはマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。



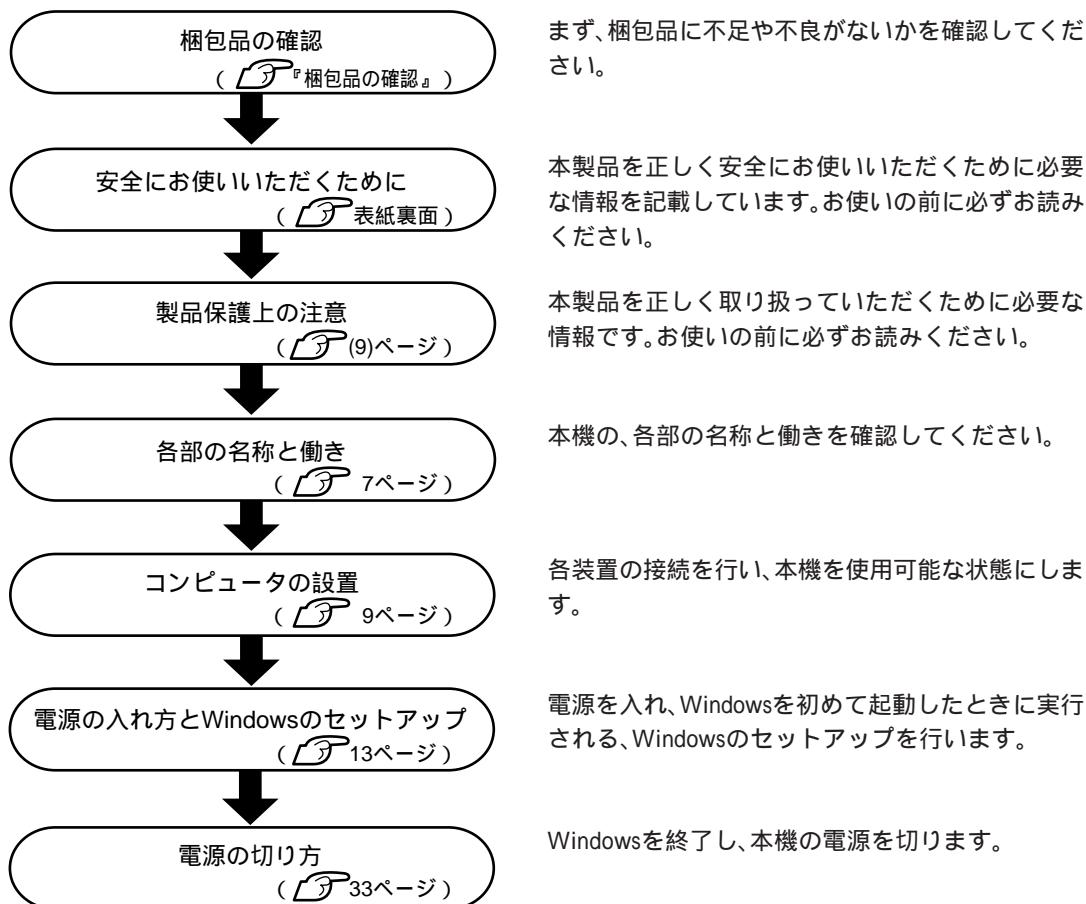
使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

ご使用前に

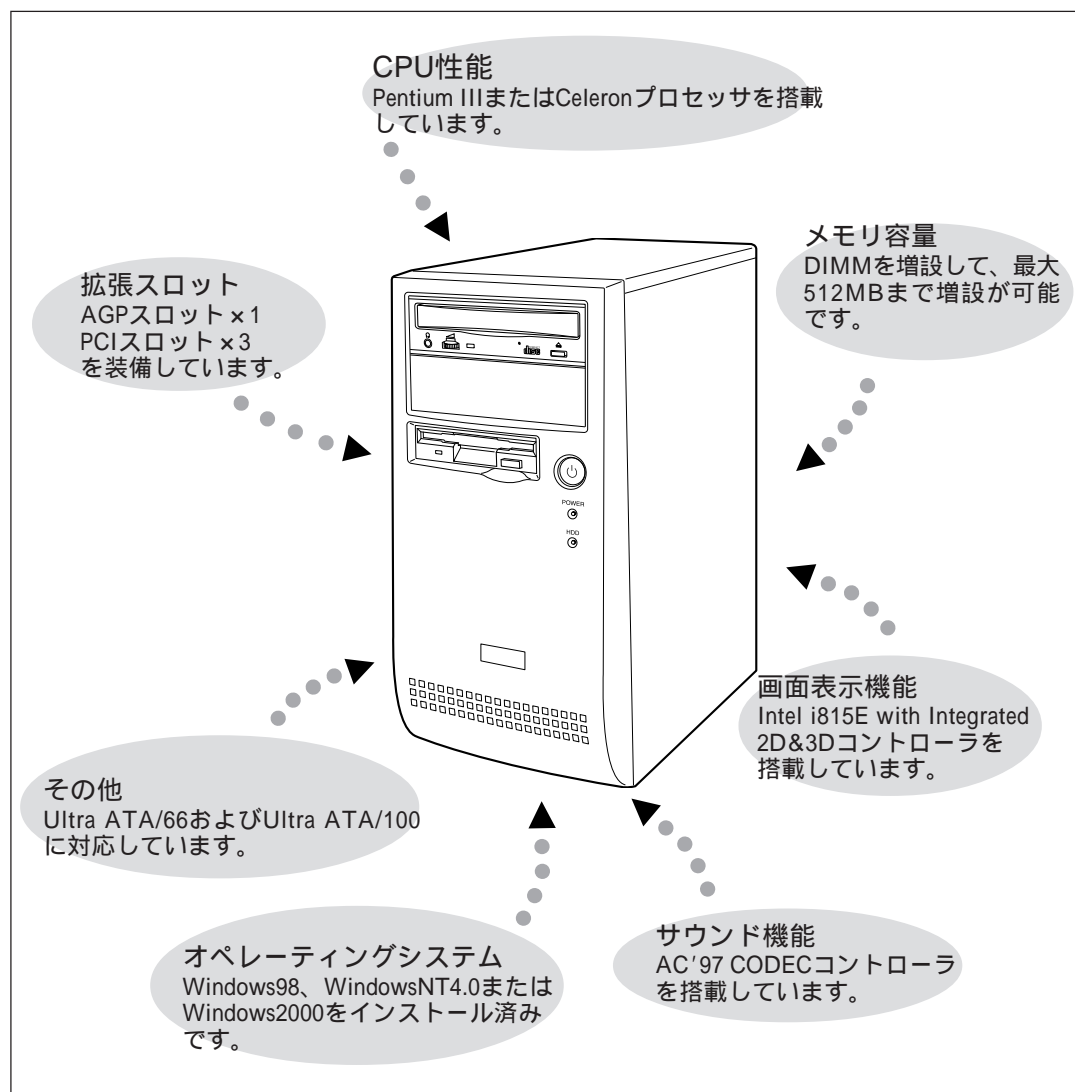
コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。







システムの特長

本機のシステムの特長は、次のとおりです。



添付ソフトウェアの概要

本機に標準で添付されているソフトウェアは、次のとおりです。購入時の仕様によっては、このほかにも添付されているソフトウェアがあります。また、添付状態が異なる場合があります。

記号の見方	
インストール状態	添付状態
 : 内蔵ハードディスクにプレインストールされています。	 : ディスクが添付されています。
 : インストールされていません。必要に応じてインストールしてください。	(B) : バックアップディスクの作成が必要です。  p.13「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」

Windows98インストールモデル

Windows98 Windowsは、最新のものがインストールされています。  『Windows98ファーストステップガイド』	
Windows98 CD-ROMセットアップ用プログラム Windows98インストール時に使用します。	
マウスドライバ ホイール付きマウスを使用するためのデバイスドライバです。	
ディスプレイドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのデバイスドライバです。	
サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのデバイスドライバです。	
Intel i815Eチップセット用ドライバ メインボード上のデバイスが正常に使用できるようにするドライバです。	
ネットワークドライバ ネットワーク機能を使用するためのデバイスドライバです。	
3モードFDDドライバ 1.25MBフォーマットのフロッピーディスクを読み書きするためのデバイスドライバです。	 (B)
Virus Scan for Windows 最新マクロウィルスに対応し、ウィルス駆除もできる高機能なウィルス対策プログラムです。  『Virus Scan for Windowsユーザーズガイド(電子マニュアル)』	
Adobe Acrobat Reader 様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。	
マニュアル(PDFファイル) 「ユーザーズマニュアル(本書)」が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。	 (B)

WindowsNT4.0インストールモデル

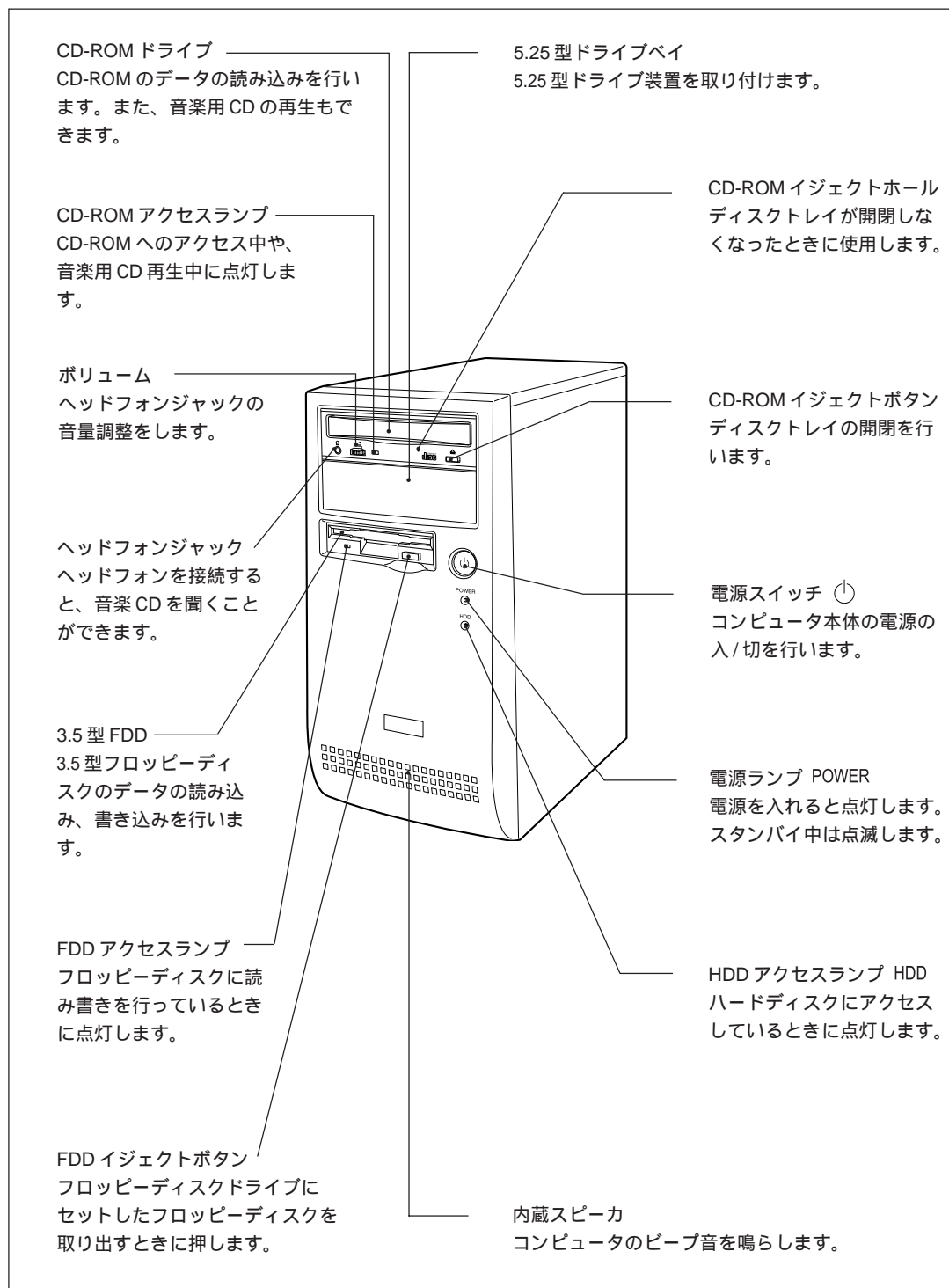
<p>WindowsNT4.0</p> <p>WindowsNT4.0は、最新のものがインストールされています。</p> <p>『WindowsNT4.0ファーストステップガイド』</p>	
<p>WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ用プログラム</p> <p>WindowsNT4.0のインストール時に使用します。</p>	
<p>マウスドライバ</p> <p>ホイール付きマウスを使用するためのデバイスドライバです。</p>	
<p>ディスプレイドライバ</p> <p>Windowsを高解像度・多色で表示するためのデバイスドライバです。</p>	
<p>サウンドドライバ</p> <p>音を鳴らしたり、録音するためのデバイスドライバです。</p>	
<p>ネットワークドライバ</p> <p>ネットワーク機能を使用するためのデバイスドライバです。</p>	
<p>3モードFDDドライバ</p> <p>1.25MBフォーマットのフロッピーディスクを読み書きするためのデバイスドライバです。</p>	
<p>Virus Scan for Windows</p> <p>最新マクロウイルスに対応し、ウイルス駆除もできる高機能なウイルス対策プログラムです。</p> <p>『Virus Scan for Windowsユーザーズガイド(電子マニュアル)』</p>	
<p>Adobe Acrobat Reader</p> <p>様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。</p>	
<p>マニュアル(PDFファイル)</p> <p>「ユーザーズマニュアル(本書)」が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。</p>	

Windows2000インストールモデル

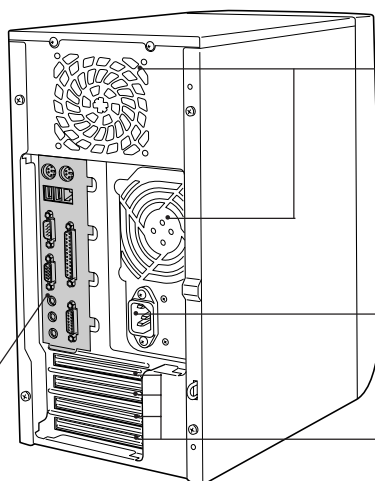
Windows2000 Windowsは、最新のものがインストールされています。 📖『Windows2000クイックスタートガイド』	
Windows2000リカバリCD-ROMセットアップ用プログラム Windows2000のインストール時に使用します。	
マウスドライバ ホイール付きマウスを使用するためのデバイスドライバです。	
ディスプレイドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのデバイスドライバです。	
サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのデバイスドライバです。	
Intel i815Eチップセット用ドライバ メインボード上のデバイスが、正常に使用できるようにするドライバです。	
3モードFDDドライバ 1.25MBフォーマットのフロッピーディスクを読み書きするためのデバイスドライバです。	
Virus Scan for Windows 最新マクロウィルスに対応し、ウィルス駆除もできる高機能なウィルス対策プログラムです。 📖『Virus Scan for Windowsユーザーズガイド(電子マニュアル)』	
Adobe Acrobat Reader 様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。	
マニュアル(PDFファイル) 「ユーザーズマニュアル(本書)」が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。	

各部の名称と働き

本体正面



本体背面





冷却ファン
内部で発生する熱を逃がしたり、冷ましたりします。


電源コネクタ
添付の電源コードを接続して電気を供給します。


拡張スロット
拡張カードを装着します。


コネクタ類


シリアルコネクタ ¹
モデムなど、RS-232C インタフェースに対応した装置を接続します。


VGA (モニタ) コネクタ 
ディスプレイを接続します。


ライン出力コネクタ 
アンプ内蔵スピーカやヘッドフォンなどを接続します。


ライン入力コネクタ 
カセットデッキなどのオーディオ機器の出力信号線を接続します。


マイク入力コネクタ 
マイクを接続します。


キーボードコネクタ 
キーボードを接続します。

マウスコネクタ 
マウスを接続します。

ネットワークコネクタ 
ローカルエリアネットワーク接続用のコネクタです。

USB コネクタ 
USB 装置を接続します。

パラレルコネクタ 
プリンタや、スキャナなどを接続します。

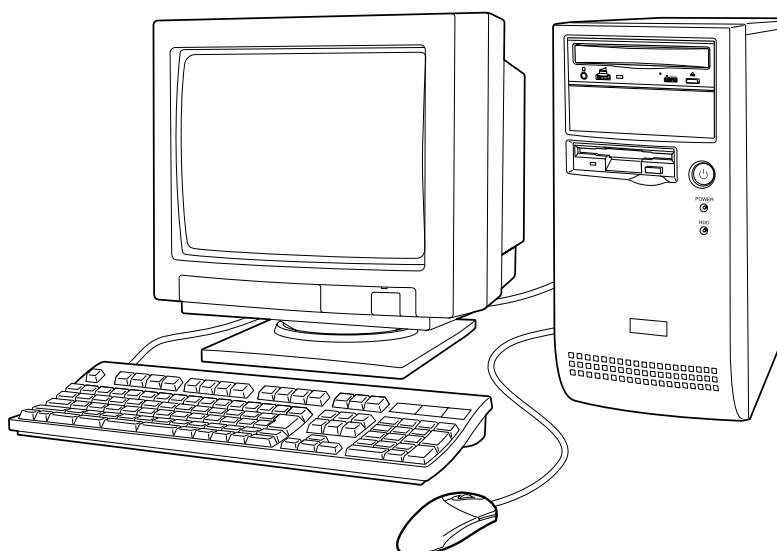
ゲームポート /MIDI コネクタ 
ジョイスティックなどを接続します。

日本電気(株)製PC-9801シリーズ用ディスプレイコネクタと同じ形です。
誤ってこれらのディスプレイを接続しないように注意してください。

コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は、標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺装置は、Windowsのセットアップ終了後に周辺装置に添付のマニュアルを参照して接続とセットアップを行ってください。



設置における注意



- 不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。次のような場所には設置しないでください。
 - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところ
 - ・じゅうたんや布団の上
 - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード(ケーブル)接続時の注意



警告

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・ 電源プラグは、ホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・ 電源プラグは、刃の根元まで確実に差し込む。



注意

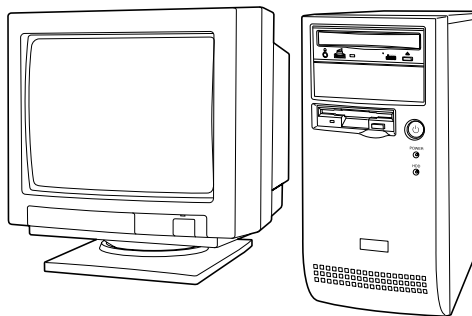
- 各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

設 置

1

本機を丈夫で水平な場所に置きます。

本機は横置きはできません。必ず縦置きに設置してお使いください。



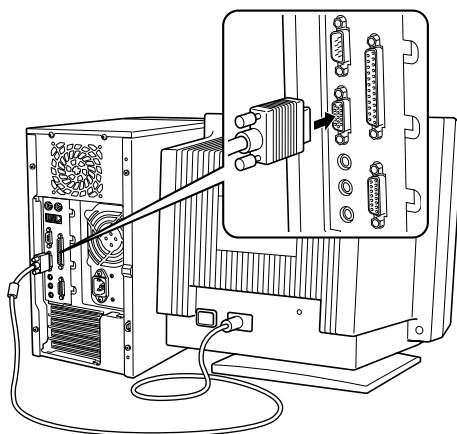
ディスプレイの接続

ここでは、一般的なディスプレイの接続方法を説明します。ディスプレイの取扱上の注意や詳しい使用方法是、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

2

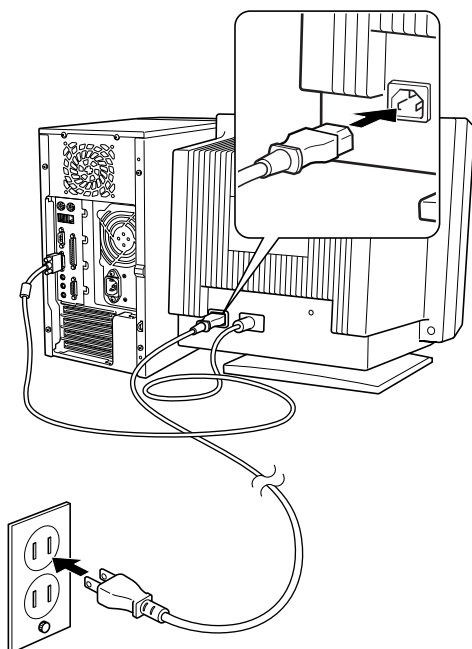
ディスプレイの接続コードを、本機背面のモニタコネクタに接続します。

ディスプレイの形状は、お使いになるモデルにより異なります。

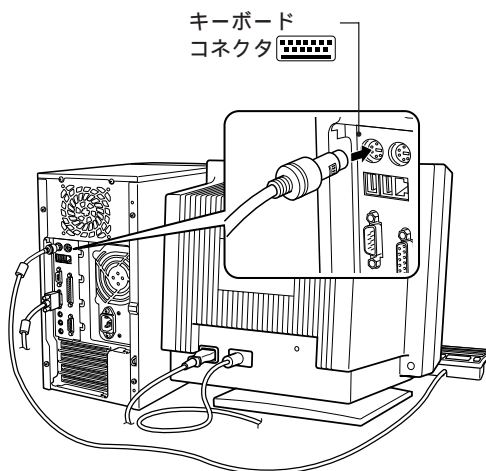


キーボードの接続

- 3** ディスプレイの電源コードをディスプレイの電源コネクタと家庭用電源コンセントに接続します。

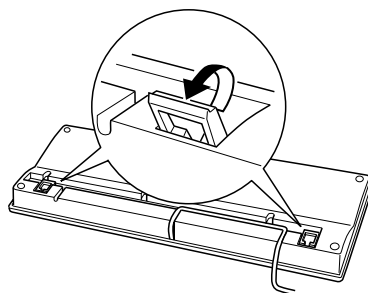


- 4** キーボードケーブルのコネクタのイラストを下図の方向に向けて、本機のコネクタに差し込みます。



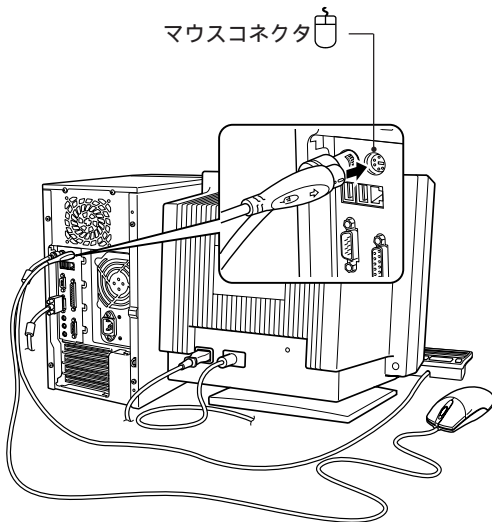
キーボードは操作しやすい位置に置き、次の調節をしてください。

- キーボードを傾斜させるときは両端の脚を起こします。
- キーボードコードを、左右どちらかの底面の溝から引き出します。



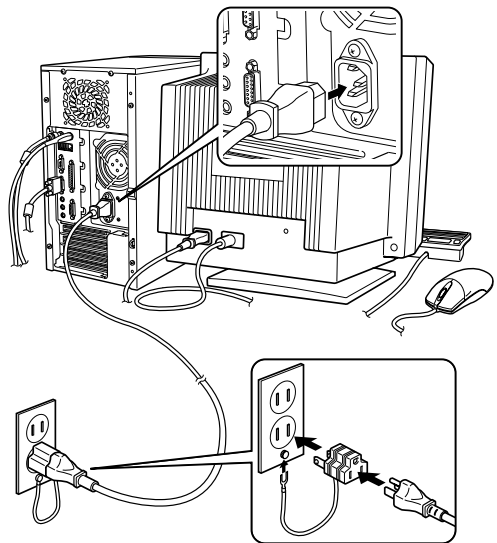
マウスの接続

- 5** マウスケーブルのコネクタの矢印を下図の方向に向けて、本機のマウスコネクタに差し込みます。



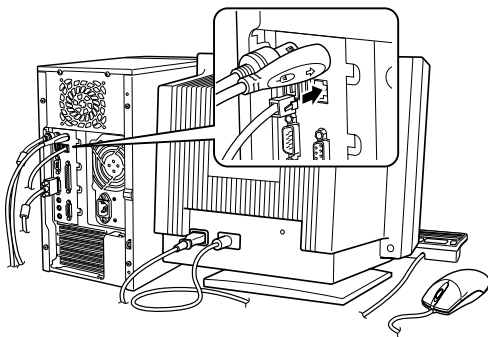
電源コードの接続

- 7** 家庭用電源コンセントに、添付の電源プラグ変換アダプタを接続してから、電源コードを接続します。



ネットワークへの接続

- 6** ネットワーク用ケーブルをネットワークのコネクタに接続します。
ネットワークの詳細は、ネットワーク管理者に確認してください。



電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、電源の入れ方と購入後に初めて電源を入れたときに行うWindowsのセットアップについて説明します。

電源を入れる前に

Windowsの セットアップ

コンピュータが届いてから初めて電源を入れた場合には、Windowsの起動後、自動的に「Windowsセットアップ」が起動します。これは、初めて電源を入れたときに、1度だけ起動するソフトウェアです。お使いになるお客様の情報を記録したり、お使いのシステム環境に合わせて設定を行います。画面に表示されるメッセージに従って対話式で簡単に実行できます。

COAラベル

購入時のコンピュータ本体には、『Windows Certificate of Authenticityラベル(以降COAラベル)』が貼付されています。『COAラベル』に記載されている「Product Key(Product ID)」は、Windowsのセットアップ時やWindowsの再インストール時に必要です。(Windows98インストールモデルは、Windowsのセットアップ時には使用しません。)

COAラベル



Product Key(Product ID)



制限

コンピュータから『COAラベル』を絶対にはがさないようにしてください。万一紛失された場合、『COAラベル』の再発行はできません。

フロッピーディスク Windowsのセットアップ時に作成する、「バックアップディスク」用にフォーマットの準備

ト済みのフロッピーディスク(以降FD)が必要です。後述の「バックアップディスクの作成」を参照してあらかじめFDを必要枚数用意してください。「バックアップディスク」を作成しないと、ソフトウェアをインストールすることができません。必ず作成してください。なお、すぐにFDを用意できない場合は、セットアップ終了後にバックアップディスクの作成を行うことができます。

Windows98インストールモデル  p.20「バックアップディスクの作成」

WindowsNT4.0インストールモデル  p.25「バックアップディスクの作成」

Windows2000インストールモデル  p.29「バックアップディスクの作成」



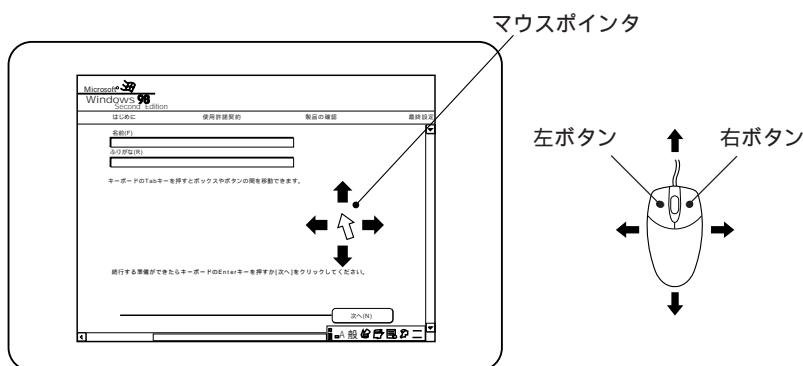
Windowsセットアップを行う前や、バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしてしまうと、バックアップディスクが作成できません。

マウスの使い方

Windowsのセットアップの操作は、マウスで行います。
以降の作業に必要なマウスの基本操作を説明します。

1


Windowsの画面では、次のようにマウスポインタが表示されます。マウスを机の上で前後左右に動かすと、動かした方向にマウスポインタが移動します。



2

画面に操作を選択するボタンなどが表示されています。

これから行いたい操作のボタン上にマウスポインタの先端を合わせます。マウスポインタを合わせたらマウスの左ボタンを1回「カチッ」と押して離します。これで、操作が選択され、実行します。以降このように左ボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。

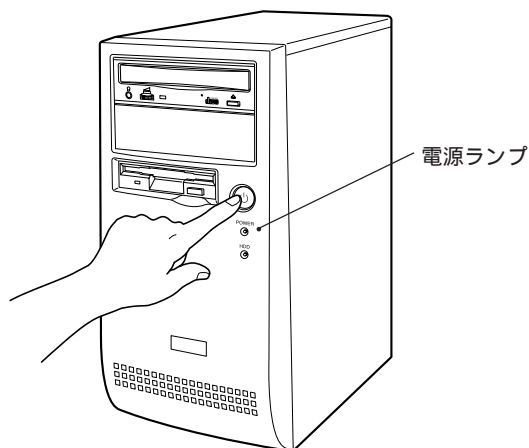
 p.41「マウスを使う」

電源の入れ方とWindowsの起動

本体の電源の入れ方は、次のとおりです。

はじめて
電源を入れる

- 1 ディスプレイの電源を入れます。
- 2 本体の電源スイッチを押します。電源ランプが点灯します。
電源ランプが点灯しない場合は、電源コードが正しく接続されているか確認します。




- 3 画面にコンピュータの仕様が表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

続けてWindowsのセットアップを行います。

Windows98インストールモデル

 p.18 「Windows98インストールモデルのセットアップ」

WindowsNT4.0インストールモデル

 p.22 「WindowsNT4.0インストールモデルのセットアップ」

Windows2000インストールモデル


 p.26 「Windows2000インストールモデルのセットアップ」

2回目以降に 電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータに電源を入れる時には、次の点に注意してください。

電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源ボタンを押す。

省電力機能が働き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまうないように注意しましょう。

 p. 59「省電力機能」

電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を開けてからスイッチを押す。
電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、ハードディスク(以降HDD)などの動作を安定させます。

周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。

周辺機器によっては、コンピュータよりも先に電源を入れておかないとコンピュータに認識されない機器があります。

セットアップ終了後の確認事項

Windowsのセットアップが終了するとWindowsが使用できる状態になります。また、次回より電源を入れるとWindows起動後すぐにWindowsが使用できます。Windowsの使用方法は、Windowsに添付の『ファーストステップガイド』(Windows2000は、『クイックスタートガイド』)や、『Windowsのヘルプ』をご覧ください。セットアップ終了後の確認事項や設定事項は、次のとおりです。

省電力機能

Windows98/Windows2000インストールモデルでは、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。この場合マウス、キーボードの操作でもとに戻ります。

 p.59「省電力機能を使う」

デバイスドライバ をインストールする ときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、添付の「Windows CD-ROM(リカバリCD)」をセットせずに、次のフォルダ名を指定してください。

Windows98インストールモデルの場合 : C:\%WINDOWS%\OPTIONS\CABS

WindowsNT4.0インストールモデルの場合 : C:\%1386 IIはアルファベット)

Windows2000インストールモデルの場合 : C:\%1386 IIはアルファベット)

上記フォルダは、工場出荷時には、Cドライブに保存されています。

これらのフォルダは、デバイスドライバのインストール時に必要なフォルダです。Windowsの再インストール時にMS-DOS領域のフォーマットを行って削除する以外は、絶対に削除しないでください。

購入時のHDD領域の設定について 購入時のHDDは、次のように設定されています。

	Windows98 インストールモデル	WindowsNT4.0 インストールモデル	Windows2000 インストールモデル
1 台目の HDD	すべての領域 : FAT32	先頭の 2GB : FAT16 残りの領域 : 未設定	すべての領域 : FAT32
2 台目の HDD	すべての領域 : FAT32	すべての領域 : 未設定	すべての領域 : 未設定

WindowsNT4.0インストールモデルの場合

WindowsNT4.0インストールモデルでは、HDDの先頭の2GBに基本MS-DOS領域(Cドライブ)を作成しWindowsをインストールしてあります。

WindowsNT4.0の未設定領域は、このままでは使用できません。「管理ツール」-「ディスクアドミニストレータ」を使用して、領域の作成を行ってください。

 「Windowsのヘルプ」

Windows2000インストールモデルの場合

Windows2000インストールモデルに2台目のHDDを装着している場合、2台目のHDDは、このままでは使用できません。「管理ツール」-「コンピュータの管理」-「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行ってください。

 「Windowsのヘルプ」



Cドライブがデータでいっぱいになったら

WindowsNT4.0インストールモデルのCドライブ(2GB)がデータでいっぱいになり容量不足になったときは、Cドライブの「I386」フォルダ(約450MB)をDドライブまたはそれ以降のドライブに移動すると空き領域を作成できます。

Windows98インストールモデルのセットアップ

本章では、Windows98インストールモデルの電源を初めて入れた後に行うセットアップ方法について説明します。

Windows98のセットアップ

Windows98インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows98セットアップ」が実行されます。セットアップの作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

ようこそ



日本語入力システムIMEの説明が表示されます。

情報の収集



ユーザー情報として名前とふりがなを入力します。
名前を入力後 **[Tab]** を押すとふりがなの欄にポインタが移動します。

モデムの接続



FAXモデムカードを装着している場合に、この画面が表示されます。ここでは接続を行いませんので**[スキップ]**します。

使用許諾契約への同意



画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

インストールの完了



Windowsが正常にインストールされました。**[完了]**をクリックし、セットアップを続けてください。

日付と時刻の設定


「タイムゾーン」で地域を指定し、「日付と時刻」で現在の日時を設定します。

お知らせの確認

本機をお使いになる前に知っておいていただきたい内容が表示されます。必ずお読みください。

バックアップディスクの作成

「EPSONドライバCD」に登録されていないソフトウェア類のバックアップディスクを作成します。必ず作成しておきましょう。

 p. 20 「バックアップディスクの作成」

2 セットアップが終了し、Windows 98が起動すると、Windows 98のデスクトップが表示されます。

3 Windows 98セットアップ終了後に、次の作業が必要です。

Windows 98起動ディスクの作成


MS-DOS領域をフォーマットする場合やWindows 98がHDDから起動しなくなった場合に使用するディスクを作成します。必ず作成しておきましょう。

 p. 21 「Windows 98起動ディスクの作成」

ネットワークへの接続

ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

FAXモデムの設定(FAXモデムカード装着時のみ)

 FAXモデムカードに添付のマニュアル

VirusScan for Windowsのインストール

本機のHDDには、「VirusScan for Windows」が、インストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。

 『VirusScan for Windowsをご使用前に』

以降は、添付の『Windows 98ファーストステップガイド』や「Windowsのヘルプ」をご覧ください。Windowsを使用してください。

バックアップディスクの作成

本機のHDDに登録されている各種ソフトウェアの一部は、「EPSONドライバCD」などに登録されていません。これらのソフトウェアは、バックアップを作成する必要があります。バックアップは、「バックアップFD作成ユーティリティ」で作成します。



バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしてしまうと、バックアップディスクが作成できません。
バックアップディスクを作成しないと、ソフトウェアを再インストールすることができません。必ず作成してください。

バックアップFD作成ユーティリティでは、次のプログラムのディスクを作成します。FDを必要枚数用意してください。

ディスクセット名	必要なFDの枚数
3モードFDDドライバディスク	1枚
マニュアルディスク	3枚*

*枚数が異なる場合があります。


購入時の仕様によっては、これらのディスク以外にディスクの作成が必要な場合があります。「バックアップFD作成ユーティリティ」画面に表示されるすべてのディスクセットのバックアップディスクを作成してください。



バックアップディスクをあとから作成するには
Windows98のセットアップ作業中に、ディスクを作成しない場合は、バックアップFD作成ユーティリティで「キャンセル」をクリックします。あとから作成するには、「プログラム」-「アクセサリ」-「システムツール」-「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 バックアップFD作成ユーティリティが実行されると「作成するディスクセットの選択」が表示されます。
- 2 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、[次へ]をクリックするとバックアップディスクの作成が始まります。画面の指示に従ってバックアップディスクを作成します。
- 3 1つのディスクセットの作成が終わったら、同様に次のディスクセットを作成します。作成したディスクには、ディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管します。

 p.45「ライトプロテクト」(書き込み禁止)

Windows 98 起動ディスクの作成

Windows98起動ディスクは、次のような場合に使用します。

MS-DOS領域をフォーマットする場合。

Windows98がHDDから起動しなくなった場合。

HDDの領域変更をする場合。




制限

Windows98起動ディスクを作成しないと、Windows98の再インストール時に、HDDのフォーマットを行うことができません。必ず作成してください。

Windows98起動ディスクは、次の方法で作成します。あらかじめFDを2枚用意しておきます。

- 1 「コントロールパネル」 「アプリケーションの追加と削除」の「起動ディスク」タブをクリックします。
- 2 FDDにFDをセットして、[ディスクの作成]をクリックします。
- 3 画面の指示に従って、2枚の起動ディスクを作成します。
- 4 「Windows 98 起動ディスク 1、2」と書いたラベルを貼り、ライトプロテクトをして保管します。

 p.45「ライトプロテクト」(書き込み禁止)

WindowsNT4.0インストールモデルのセットアップ

本章では、WindowsNT4.0インストールモデルの電源を初めて入れた後に行うセットアップ方法について説明します。

WindowsNT4.0 のセットアップ

Windows NT4.0 インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

- 1 電源を入れた後、しばらくするとWindowsNT Workstationの画面が表示され、Windowsが起動します。
- 2 WindowsNT4.0が起動すると、自動的に「WindowsNTセットアップ」が実行されます。
セットアップの流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

ソフトウェア使用許諾契約への同意

画面に表示された契約内容に同意するかどうかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

情報の収集

ユーザー情報として、次の項目を入力します。

- ① 名前・組織名
- ② Product ID ... 『COAラベル』に記載されている「Product ID」を入力します。
- ③ コンピュータ名
Tab を押すと次の欄にポインタが移動します。

WindowsNT4.0のアップデート

「Service Pack6aのセットアップ」が行われ、Windows NT4.0が更新されます。

「Windows NT4.00は正常にインストールされました。」と表示されたら、Windowsを再起動します。再起動時のオペレーティングシステムの選択では、[WindowsNT Workstation Version 4.00]を選択します。

さらに「Windows Update:Internet Explorerとインターネットツール」画面で、Windowsが自動的に再起動します。

NTにログオンする

ここで **Ctrl** + **Alt** + **Delete** キーを押し、ログオン情報入力画面が表示されたら、ユーザー名、パスワードには、次のように入力して **OK** をクリックします。

ユーザー名: administrator

パスワード: (何も入力しません。)

これらの設定は、**スタート**」 **プログラム**」 **管理ツール**」 **「ユーザーマネージャ」**または**「WindowsNTのヘルプ」**から変更できます。

- 3 ログオンに成功すると、次の画面が表示されます。
これで「Windows NT4.0インストールモデルのセットアップ」は、終了です。



- 4 WindowsNT4.0セットアップ終了後に、次の作業が必要です。

ネットワークドライバのインストール

本機のHDDには、ネットワークドライバがインストールされていません。p.134「ネットワークドライバのインストール」

インストール時には、ネットワークに関するさまざまな情報が必要になります。ネットワーク管理者の指示に従って作業を行ってください。ネットワークドライバのインストール後に「再起動しますか?」と表示された場合は、「いいえ」を選択し、「Service Pack6a」をインストールしてください。

次ページ「WindowsNT4.0 Service Pack6aのインストール」

マウスドライバのインストール

本機のHDDには、マウスドライバがインストールされていません。ホイール機能を使用する場合には、マウスドライバのインストールを行います。

p.139「マウスドライバのインストール」

FAXモデムの設定 (FAXモデムカード装着時のみ)

FAXモデムカードに添付のマニュアル

VirusScan for Windowsのインストール

本機のHDDには、「VirusScan for Windows」が、インストールされていません。「VirusScan for Windows」のインストールを行います。

 『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

WindowsNT4.0 Service Pack6aのインストール

本機にネットワークドライバをインストールした場合や、新しくデバイスドライバを追加した場合には、インストール後に「Service Pack6a」をインストールする必要があります。

Service Pack6aのインストールは、次の手順で行います。

- ① [スタート] 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- ② 「名前」に「C:¥SP6¥SP6I386」と入力して[OK]をクリックします。
(¥SP6I386 のIはアルファベット)
- ③ 画面の指示に従ってインストールを行います。
「WindowsNT Service Packセットアップ」画面では、「同意する」にチェックを付け、「後で Service Pack をアンインストールできるように...」のチェックを外します。
- ④ 「インストールは完了しました」と表示されたら[再起動]をクリックして、WindowsNT4.0 を再起動します。

WindowsNT4.0 Option Packのインストール

必要に応じて、「WindowsNT4.0 Option Pack」のインストールを行います。


HDDの領域設定

HDDの未設定領域を使用できるように設定します。

 p.48 「購入時のHDD領域の設定について」

バックアップディスクの作成

「EPSONドライバCD」に登録されていないソフトウェア類のバックアップディスクを作成します。必ず作成しておきましょう。

 p.25 「バックアップディスクの作成」

以降は、添付の『Microsoft WindowsNT4.0ファーストステップガイド』や「WindowsNTのヘルプ」をご覧ください。

バックアップディスクの作成

本機のHDDに登録されている各種ソフトウェアの一部は、「EPSONドライバCD」などに登録されていません。これらのソフトウェアは、バックアップを作成する必要があります。バックアップは、「バックアップFD作成ユーティリティ」で作成します。



バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしてしまうと、バックアップディスクが作成できません。
バックアップディスクを作成しないと、ソフトウェアを再インストールすることができません。必ず作成してください。

バックアップFD作成ユーティリティでは、次のプログラムのバックアップディスクを作成します。FDを必要枚数用意してください。

ディスクセット名	必要なFDの枚数
3モードFDDドライバディスク	1枚
マニュアルディスク	3枚*

*枚数が異なる場合があります。

購入時の仕様によっては、上記のディスク以外にもディスクの作成が必要な場合があります。「バックアップFD作成ユーティリティ」画面に表示されるすべてのディスクセットのバックアップディスクを作成してください。

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 [スタート]-「プログラム」-「バックアップFD作成ユーティリティ」をクリックします。
- 2 バックアップFD作成ユーティリティが実行されると「作成するディスクセットの選択」が表示されます。
- 3 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、[次へ]をクリックするとバックアップディスクの作成が始まります。画面の指示に従ってバックアップディスクを作成します。
- 4 1つのディスクセットの作成が終わったら、同様に次のディスクセットを作成します。作成したディスクには、ディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管してください。



p.45「ライトプロテクト」(書き込み禁止)

Windows2000 インストールモデルのセットアップ

本章では、Windows2000インストールモデルの電源を初めて入れたあとに行うセットアップの方法について説明します。

Windows2000のセットアップ

Windows2000インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

- 1 電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows2000 セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Windows2000セットアップウィザードの開始

↓ セットアップを続行するには、[次へ] をクリックします。

ライセンス契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかどうかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

ソフトウェアの個人用設定

↓ ユーザー情報として名前と組織名を管理者の指示に従って入力します。
名前を入力後 [Tab] を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

プロダクトキー

↓ コンピュータ本体に貼付されている『COAラベル』に記載されている「Product Key」を入力します。



コンピュータ名とAdministratorのパスワード



「コンピュータ名」「Administratorのパスワード」を管理者の指示に従って入力します。

日付と時刻の設定



「日付と時刻」で現在の日付を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。

Windows2000セットアップウィザードの完了

Windowsが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

2

Windows2000が再起動し、パスワードを入力すると、Windows2000のデスクトップが表示されます。これでWindows2000のセットアップは終了です。




3

Windows2000セットアップ終了後に、次の作業が必要です。

ネットワークへの接続

ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

FAXモデムの設定(FAXモデムカード装着時のみ)

 FAXモデムカードに添付のマニュアル


VirusScan for Windowsのインストール

本機のHDDには、「VirusScan for Windows」が、インストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。

 『VirusScan for Windowsご使用の前に』

バックアップディスクの作成

「EPSONドライバCD」に登録されていないソフトウェア類のバックアップディスクを作成します。必ず作成しておきましょう。

 p.29「バックアップディスクの作成」

セットアップブートディスクの作成

回復コンソールを実行する場合などに使用する「セットアップブートディスク」を作成します。必ず作成しておきましょう。

 p.31「セットアップブートディスクの作成」

以降は、添付の『Windows2000クイックスタートガイド』や「Windowsのヘルプ」を
ご覧になりWindowsを使用してください。

バックアップディスクの作成

本機のHDDに登録されている各種ソフトウェアの一部は、「EPSONドライバCD」などに登録されていません。これらのソフトウェアは、バックアップを作成する必要があります。バックアップは、「バックアップFD作成ユーティリティ」で作成します。



バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしてしまうと、バックアップディスクが作成できません。

バックアップディスクを作成しないと、ソフトウェアを再インストールすることができません。必ず作成してください。

未フォーマットFDをフォーマットする場合は、Windows2000のフォーマットユーティリティを起動したまま、2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットする場合は、p.44「FDのフォーマット」をご覧ください。

バックアップFD作成ユーティリティでは、次のプログラムのバックアップディスクを作成します。FDを必要枚数用意してください。

ディスクセット名	必要なFDの枚数
3モードFDDドライバディスク	1枚
マニュアルディスク	3枚*

*枚数が異なる場合があります。

購入時の仕様によっては、これらのディスク以外にもバックアップディスクの作成が必要な場合があります。「バックアップFD作成ユーティリティ」画面に表示されるすべてのディスクのバックアップディスクを作成してください。

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 [スタート]-「プログラム」-「バックアップFD作成ユーティリティ」をクリックします。
- 2 バックアップFD作成ユーティリティが実行されると「作成するディスクセットの選択」が表示されます。
- 3 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、[次へ]をクリックするとバックアップディスクの作成が始まります。画面の指示に従ってバックアップディスクを作成します。
- 4 1つのディスクセットの作成が終わったら、同様に次のディスクセットを作成します。作成したディスクには、ディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトして大切に保管してください。



p.45「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

セットアップブートディスクの作成

「セットアップブートディスク」は、回復コンソール*を実行する場合などに使用します。必ず作成しておきましょう。

* 回復コンソールとは、システム修復時に使用する特別な管理コマンドを持つプログラムです。

このディスクはコンピュータに関する詳しい知識を持つ方、およびネットワーク管理者の指示に従って使用してください。



制限

未フォーマットFDをフォーマットする場合は、Windows2000のフォーマットユーティリティを起動したまま、2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットする場合は、p.44「FDのフォーマット」の記述をご覧ください。

セットアップブートディスクの作成は、次の手順で行います。フォーマット済みのFDが4枚必要です。

- 1 [スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「コマンドプロンプト」をクリックします。
- 2 「コマンドプロンプト」が「C:¥>」と表示されたら、次のように入力して を押します。
 CD ¥BOOTDISK (¥ は、スペースを意味します。)
 「C:¥>」以外のコマンドプロンプトが表示された場合は、次の方法でコマンドプロンプトを「C:¥>」とします。
 ① 「C:」と入力して を押します。
 ② 「CD ¥」と入力して を押します。
- 3 コマンドプロンプトが「C:¥BOOTDISK>」と表示されたら、次のように入力して を押します。
 MAKEBT32
- 4 「コピー先のフロッピードライブを指定してください。」と表示されたら を押します。

5 画面の指示に従い、FDDに1枚目のFDをセットし、どれかキーを押します。
ディスクの作成が始まります。

6 1枚目のディスクの作成が終わったら、画面の指示に従い2枚目のディスク
セットを作成します。同様に4枚目まで作成します。作成したディスクは、ディス
ク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトして大切に保管してください。



p.45「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。



制限

電源をオフにしてからオンにする場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電氣的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。

HDDやFDDのアクセスランプ点灯中に電源をオフにすると、登録されているデータが破壊されるおそれがあります。

本機は、電源をオフにしてもコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

使い始めるまでの準備

Windows 98の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows98を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート] - 「Windowsの終了」をクリックします。
- 2 「Windowsの終了」画面で「電源を切れる状態にする」にマークが付いている状態で[OK]をクリックします。
- 3 Windows 98が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源をオフにします。

WindowsNT4.0の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindowsNT4.0を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-「シャットダウン」をクリックします。
- 2 「Windowsのシャットダウン」画面で「コンピュータをシャットダウンする」にマークが付いている状態で[はい]をクリックします。
- 3 「電源を切断しても安全です。」というメッセージが表示されたら、コンピュータの電源スイッチを押して電源をオフにします。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源をオフにします。

Windows2000の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows2000を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-「シャットダウン」をクリックします。
- 2 「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、[OK]をクリックします。
- 3 Windows2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源をオフにします。

リセット

コンピュータの電源がオンになっている状態で、コンピュータを再起動する場合には、「リセット」を行います。リセットは、次のような場合に行います。

使用しているソフトウェアで指示があった場合。

プログラムがハングアップ(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合。

リセットすると、メモリ上のデータはすべて消失します。万一データを消失してしまった場合に備えて、日頃からデータをHDDなどに保存しておくことをお勧めします。

ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源をオフにしてください。

Windowsの リセット方法

リセット方法には、次の2種類があります。

「電源の切り方」を参照して、[スタート]からWindows上でリセットする。

(プログラムハングアップ時は、使用できません。)

キーボードの **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押し、画面の指示に従ってリセットする(プログラムハングアップ時に使用します。)

リセットできない ときは

プログラムがハングアップしてしまい、リセットできなくなってしまった場合は、慌てず次のように対処します。

Ctrl + **Alt** + **Delete** を押してリセットする

↓ コンピュータをリセットできないときは...

コンピュータの電源スイッチを押す

↓ コンピュータの電源が切れないときは...

コンピュータの電源を5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。



コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやFDDなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

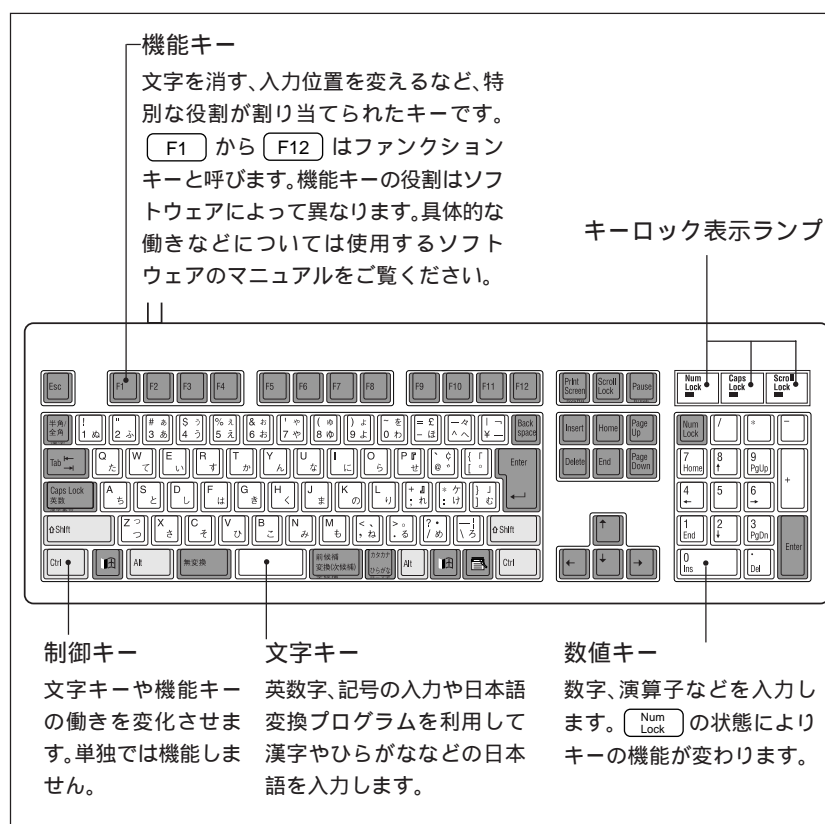
キーボードを使う

本機のキーボードは、日本語対応109キーボードです。キーボードの接続方法は、p.9「コンピュータの設置」をご覧ください。

キーの種類と役割

109個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられていますが、大きく4つのグループに分けられます。








入力キー



キートップに表示された文字と実際に入力される文字が異なる場合もあります。

キーロック 表示ランプ

キーボード右上には、次の3つのランプがあります。

- NumLock** :  の状態を示します。
 を押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。数値キーの役割を切り替えます。点灯状態で、数値キーを押すと、キーの上側に印刷された数字が入力されます。消灯状態では、数値キーの下側に印刷された矢印などの機能キーの役割になります。
- CapsLock** :  の状態を示します。
 +  を押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。文字キーで入力される文字の種類を切り替えます。点灯状態では大文字が入力され、消灯状態では小文字が入力されます。
- ScrollLock** :  の状態を示します。
 を押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。このキーはソフトウェアによって機能が異なります。
 詳しい内容は、ご使用のソフトウェアのマニュアルをご覧ください。






日本語の入力

ひらがなや漢字などの日本語の入力や£、¢、→などの特殊の記号の入力には、日本語変換プログラムを使用します。本機では、Windowsに添付のMS-IMEを使用しています。

日本語や特殊記号の詳しい入力方法は、『ファーストステップガイド』（Windows2000は、『クイックスタートガイド』）または「MS-IMEのオンラインヘルプ」をご覧ください。



記号の入力

インターネットでURLやメールアドレスを入力する際に頻繁に使う記号は、次のキーを押して入力します。（日本語変換プログラムをOFFにした状態）



















入力記号	入力方法	入力記号	入力方法
{ コロン }		@(アットマーク)	
{ セミコロン }		(チルダ)	SHIFT+ 
{ ハイフン }		_ (アンダーバー)	SHIFT+ 
{ スラッシュ }			

Windowsキー
と組み合わせて
使うキー

2つのWindowsキーは、次の働きをします。

Windowsキー	機 能
	画面左下の[スタート]ボタンをクリックするのと同じ働きをします。
 (アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。

Windowsキーとほかのキーを組み合わせて使うことにより、Windowsをより効率的に使うことができます。

キーの組み合わせ	機 能
 + 	Windowsのヘルプが表示されます。
 + 	エクスプローラを起動します。ファイルやフォルダの内容が表示されます。
 + 	「検索:条件 = すべてのファイル」ウィンドウが表示されます。
 +  + 	「検索:コンピュータ」ウィンドウが表示されます。
 + 	表示されているウィンドウをすべて最小化します。
 +  + 	最小化されているウィンドウをすべてもとのサイズに戻します。
 + 	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。
 + 	タスクバーに表示されているボタン(アプリケーションやファイル)の選択を切り替えます。

マウスを使う

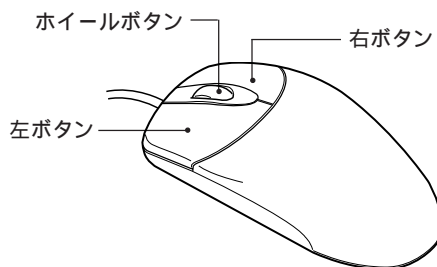
本機に標準で添付されているマウスには、左右のボタンのほかにホイールボタンがあります。

ホイール機能を使用するには、「マウスドライバ」のインストールが必要です。Windows98/Windows2000インストールモデルの「マウスドライバ」は、工場出荷時にあらかじめインストールされています。

マウスの操作



アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

- クリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを1回カチッと押します。
- ダブルクリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
- ドラッグアンドドロップ : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを押したままの状態をマウスを移動し、離します。
- スクロール : ホイールボタンを指先で回転させます。縦スクロール操作を行うことができます。

マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境を変更するときは、「コントロールパネル」から「マウスのプロパティ」を開いて、設定変更します。詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

フロッピーディスクドライブ(FDD)を使う

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。FDには、記憶できる容量の違いによって2HD、2DDの種類があります。内蔵FDDでは、次のどちらのFDも使用できます。

3.5型2HD : 1.44MBまたは1.25MBの記憶容量のメディアとして使用できます。

3.5型2DD : 720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



制限

FDは消耗品です。読み書きを繰り返すことで、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。



参考

1.25MBのFD

1.25MBフォーマットのFDを読み書きするためには、「3モードFDDドライバ」をインストールする必要があります。「3モードFDDドライバ」は、工場出荷時にあらかじめインストールされています。

 p. 46「1.25MBのFDを使用する」

FDのセットと取り出し



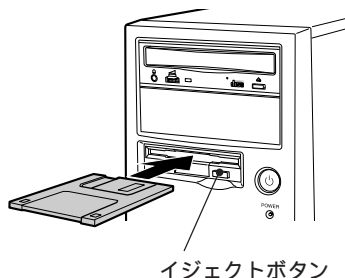
制限

アクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

コンピュータの電源をオフにする場合は、必ずFDを取り出してください。

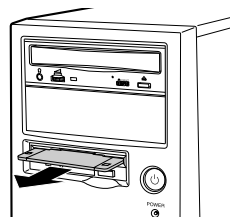
セット方法

- 1 ラベル面を上にして、アクセスカバー側からFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。
- 2 正しくセットされると、イジェクトボタンが飛び出します。



取り出し方法

- 1 FDDアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。
- 2 FDが飛び出しますので、静かに引き抜きます。



FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。

メディアの種類に合ったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。



制限

FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

本機には、1.25MB FD用のフォーマットユーティリティは添付されておられません。

フォーマット方法 Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマットは、次の方法で行います。

- 1 「マイコンピュータ」をダブルクリックします。
- 2 「3.5インチFD」を右クリックし「フォーマット」をクリックします。
- 3 フォーマットの種類などを設定して「開始」をクリックします。「警告」が表示された場合は、「OK」をクリックします。
- 4 「フォーマットが完了しました」と表示された場合は、「OK」をクリックします。
続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順3～4を繰り返します。
- 5 「閉じる」をクリックし、フォーマットユーティリティを閉じます。



制限

Windows2000では、Windowsのフォーマットユーティリティを起動したまま、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを連続して2枚以上フォーマットする場合は、上記手順2～5を繰り返してください。

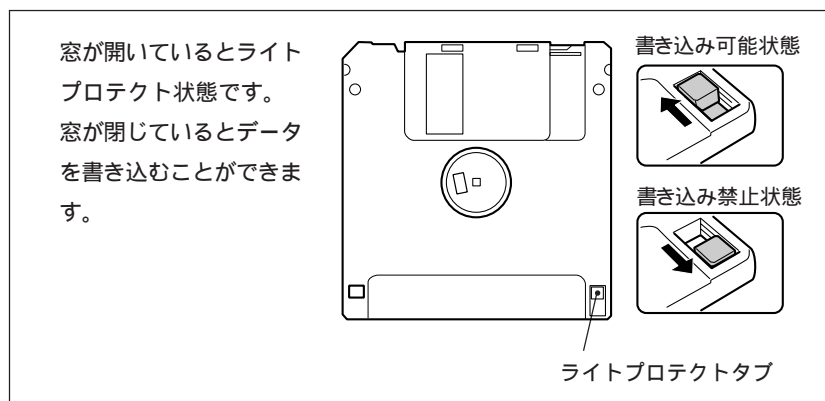
データのバックアップ

大切なデータは、別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万データが消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDは、データの書き込み、削除、フォーマットができなくなります。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておくとう安心です。

ライトプロテクトするには、FD裏面のライトプロテクトタブを操作します。



1.25MBのFDを使用する

本機のWindowsには、あらかじめ専用の「3モードFDDドライバ」がインストールされており、1.25MBフォーマットのFDを使用することができます。1.25MBフォーマットは、EPSON PCシリーズや日本電気(株)製PC-9801シリーズのコンピュータで標準的に使用されていたフォーマットです。

3モードFDD ドライバ

1.25MBフォーマットのFDは、1.44MBフォーマットのFD同様に、Aドライブで使用することができます。

「3モードFDDドライバ」は、1.25MBのFDの読み書きのみをサポートします。1.25MBのフォーマットやディスクコピーなどは行えません。

512バイト/セクタでフォーマットされた1.25MBフォーマットのFDの読み書きは行えません。これは、日本語MS-DOSのFORMATコマンドで/Eオプション(EQUITYフォーマット)でフォーマットされたディスクです。1.25MBのフォーマットのFDで提供されているアプリケーションソフトをインストールすることはできません。

ハードディスクドライブ(HDD)を使う

本機には、HDDが内蔵されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。



制限

誤った操作で重要なデータを破壊しないように次の点に注意してください。

- ・ HDDを分解しないでください。
- ・ HDDアクセスランプ点灯中に、電源をオフにしたり、リセットしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破壊されるおそれがあります。

HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできませんので注意してください。

本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが破壊される恐れがあります。ショックを与えないように注意してください。

データのバックアップ

HDDの重要なデータは、別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておきます。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

バックアップには、次のような方法があります。

重要なファイルを作成したら、必ずFDなど別のメディアにも登録しておく。専用のバックアップソフトウェアを使用して複数のファイルを一度にバックアップする。Windowsには、バックアップソフトウェアが添付されています。



参考

バックアップのためのソフトウェア

Windowsには、バックアップソフトウェアが添付されています。

Windows98/Windows2000 : 「アクセサリ」-「システムツール」-「バックアップ」

WindowsNT4.0 : 「管理ツール」-「バックアップ」
(テープドライブのみ)

HDDのフォーマット

HDDを交換するなどして初めて使用する場合には、そのHDDの領域作成とフォーマットが必要です。また、登録されているデータをすべて消去する場合にもフォーマットします。購入時に装着されている内蔵HDDにはソフトウェアがあらかじめインストールされていますので、フォーマットの必要はありません。

 p.179「HDD領域の変更」、 p.187「MS-DOS領域のフォーマット」



すでにデータが登録されているHDDをフォーマットすると、そのHDDに登録されていたすべてのデータが消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

購入時のHDD領域について

購入時のHDD領域は、次のように設定されています。

	Windows98 インストールモデル	WindowsNT4.0 インストールモデル	Windows2000 インストールモデル
1台目のHDD	すべての領域：FAT32	先頭の2GB：FAT16 残りの領域：未設定	すべての領域：FAT32
2台目のHDD	すべての領域：FAT32	すべての領域：未設定	すべての領域：未設定

WindowsNT4.0
インストールモデルのHDD構成

WindowsNT4.0インストールモデルでは、HDDの先頭の2GB(Cドライブ)に基本MS-DOS領域を作成して、Windowsをインストールしてあります。残りの領域は未設定です。このままでは使用できません。「管理ツール」-「ディスクアドミニストレータ」を使用して領域作成とフォーマットを行います。

Cドライブがデータでいっぱいになり、容量不足になったときは、Cドライブの「I386」フォルダ(約450MB)をDドライブまたは以降のドライブに移動すると、空き領域を確保できます。

Windows2000
インストールモデルのHDD構成

Windows2000インストールモデルでは、1台目のHDDをFAT32ファイルシステムを使用して領域を作成してあります。2台目以降のHDDを装着している場合は、すべての領域が未設定ですので、このままでは使用できません。「管理ツール」-「コンピュータの管理」-「ディスクの管理」を使用して領域作成とフォーマットを行ってください。

 「Windowsのヘルプ」

CD-ROMドライブを使う

CD-ROMドライブは、データCDのほかに、音楽CD、ビデオCDやフォトCDなどを使用するための装置です。これらのCD-ROMの中には、別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

CD-ROMメディアの種類によっては、再生中に振動することがありますが故障ではありません。

CD-ROMのセットと取り出し

機種によりCD-ROMドライブの形状が異なりますが、基本的な操作は同じです。



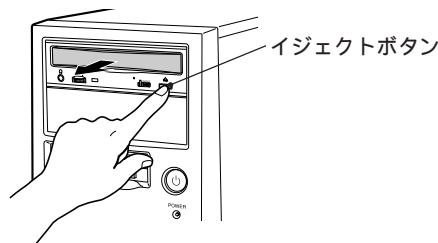
制限

CD-ROMアクセスランプ点灯中にCD-ROMを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

セット方法

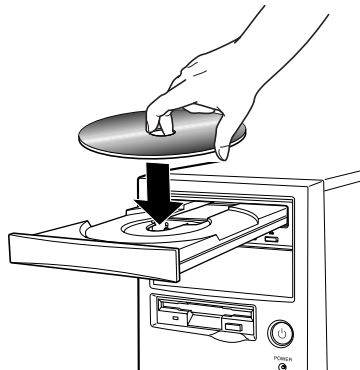
1

イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



2

印刷面を上にしてCD-ROMをディスクトレイのくぼみに上に載せます。

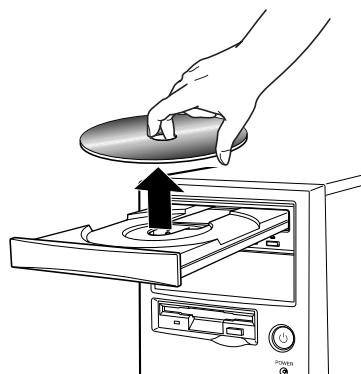


3

イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

取り出し方法

- 1 CD-ROMアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。
- 2 CD-ROMをディスクトレイから取り出します。
- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。



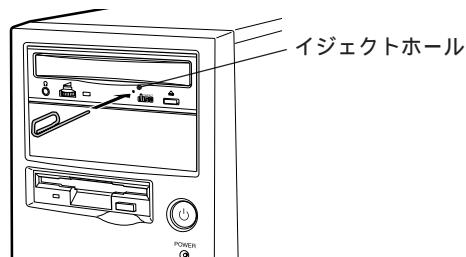
強制的なCD-ROMの取り出し

以下のような場合には、強制的にCD-ROMを取り出すことができます。

CD-ROMドライブが故障して、CD-ROMが取り出せない場合。

CD-ROMをセットしたまま、コンピュータの電源をオフにしてしまった場合。

- 1 コンピュータの電源を切ります。
- 2 イジェクトホールに丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。
機種によりイジェクトホールの位置が異なります。



- 3 ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出します。

光磁気ディスクドライブを使う

(光磁気ディスクドライブ搭載モデルのみ)

光磁気ディスクドライブ(以降、MOドライブ)は、3.5型光磁気ディスク(以降、MO)の読み書きを行う装置です。

MOは、FDのように携帯性にも優れており、画像ファイルなど大容量データやプログラムの登録、HDDのバックアップなどに利用します。

MOのセットと取り出し

機種によりMOドライブの位置や形状が異なりますが、基本的な操作は同じです。



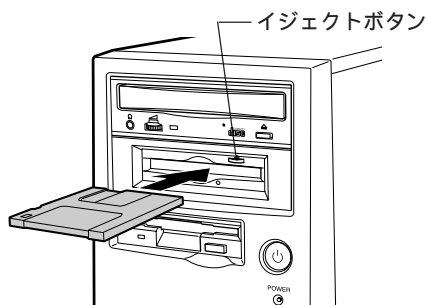
イジェクトボタン(アクセスランプ)点灯中にMOを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

コンピュータの電源をオフにする場合は、必ずMOを取り出してください。

セット方法

- 1 MOの文字が印刷されているシャッタ面を上にして、MOドライブに「カチッ」と音がするまで静かに押し込みます。

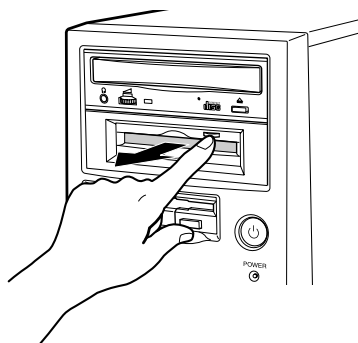
- 2 イジェクトボタンが点滅し、消灯すればMOのセットは完了です。



取り出し方法

- 1 イジェクトボタンが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。

- 2 MOが少し飛び出しますので、まっすぐに引き抜きます。



MOのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいMOを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。

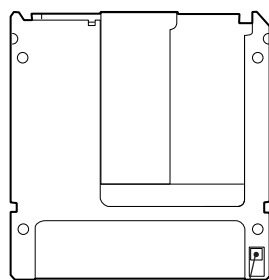


MOをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

ライトプロテクト（書き込み禁止）

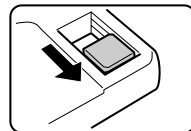
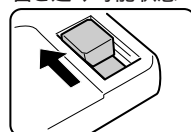
ライトプロテクトは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトしたMOには、データの書き込み、削除、フォーマットができなくなります。重要なデータを登録したMOは、ライトプロテクトしておくで安心です。ライトプロテクトするには、MO裏面のライトプロテクトタブを操作します。

窓が開いているとライトプロテクト状態です。
窓が閉じているとデータを
書き込むことができます。



ライトプロテクトタブ

書き込み可能状態



書き込み禁止状態

強制的なMOの取り出し

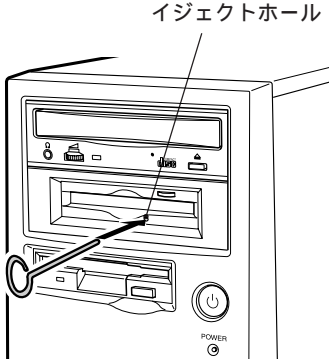
以下のような場合には、強制的にMOを取り出すことができます。

MOドライブが故障して、MOが取り出せない場合。

MOをセットしたまま、コンピュータの電源をオフにしてしまった場合。



イジェクトピンは、小さなお子様の手が届くところには保管しないでください。目をついたり、口に入れたりして、けがをする危険があります。

- 1 コンピュータの電源が入っている場合は、コンピュータの電源をオフにし、約10秒程度待ちます。
これはMOドライブのモータが停止するのを待つためです。
- 2 添付されているイジェクトピンをイジェクトホールにまっすぐ押し込みます。
機種によりイジェクトホールの位置が異なります。

- 3 MOをそのまま、まっすぐに引き抜きます。

内部のロックが外れ、MOが少し飛び出します。

解像度や表示色を変更する

(ディスプレイ機能)

本機のメインボード上には、ディスプレイ機能(Intel i815E with Integrated 2D&3D)が搭載されています。解像度の設定などの基本的な操作について説明します。ビデオカードを同時購入された場合は、ビデオカードに添付のマニュアルをご覧ください。



参考

Safeモード・VGAモードでの起動

本機のビデオ機能で表示できない解像度を選択すると、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、Safeモード(Windows98)またはVGAモード(WindowsNT4.0/Windows2000)で起動して再設定を行ってください。

 p.160「ディスプレイの不具合」



制限

本機では、p.55、p.56、P58の「解像度と表示色」に記載されている以外の設定を選択することができます。ただし、それらの設定に関しては保証していません。

Windows 98の場合

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。変更時には、「Windowsのヘルプ」も参照してください。

解像度や表示色
を変更するには

- 1 「コントロールパネル」「画面」をダブルクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「画面の領域」や「色」で設定を変更します。



- 4 項目を変更したら、[OK]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

解像度と表示色

本機のディスプレイ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

表示色 解像度	256色	High Color (16ビット)	True Color (24ビット)
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1152 × 864 ドット			
1280 × 1024 ドット			
1600 × 1200 ドット		×	×

ただし、接続しているディスプレイによっては正常に表示できない場合があります。

ディスプレイの 設定

ディスプレイの設定が正しくないと解像度を変更することができません。「コントロールパネル」-「画面」-「設定」タブ-[詳細]-「モニタ」タブで接続されているディスプレイの設定を行ってください。

WindowsNT4.0の場合

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。変更時には、「WindowsNTのヘルプ」も参照してください。

解像度や表示色
を変更するには

1

「コントロールパネル」「画面」をダブルクリックします。

2

「ディスプレイの設定」タブをクリックします。

3

「デスクトップ領域」「カラーパレット」などの項目を設定したい内容に変更します。



表示色を
設定します。

解像度を
設定します。

4

項目を変更したら、「テスト」をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

解像度と表示色

本機のディスプレイ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

表示色 \ 解像度	256色	65536色	16777216色
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1152 × 864 ドット			
1280 × 1024 ドット			
1600 × 1200 ドット		×	×

ただし、接続しているディスプレイによっては正常に表示できない場合があります。

Windows 2000の場合

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。変更時には、「Windowsのヘルプ」も参照してください。

解像度や表示色
を変更するには

- 1 「コントロールパネル」「画面」をダブルクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「画面の領域」や「画面の色」で設定を変更します。



- 4 項目を変更したら、[OK]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

解像度と表示色

本機のディスプレイ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

表示色 解像度	256色	High Color (16ビット)	True Color (24ビット)
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1152 × 864 ドット			
1280 × 1024 ドット			
1600 × 1200 ドット		×	×

ただし、接続しているディスプレイによっては正常に表示できない場合があります。

ディスプレイの 設定

ディスプレイの設定が正しくないと解像度を変更することができません。「コントロールパネル」-「画面」-「設定」タブ-[詳細]-「モニタ」タブで接続されているディスプレイの設定を行ってください。

省電力機能

省電力機能を利用すれば、コンピュータを使用していない間、ディスプレイの電源を切ったり、省電力モードに移行して、消費電力を抑えることができます。



制限

WindowsNT4.0では、省電力機能は使用できません。「BIOS Setupユーティリティ」-「Powerメニュー画面」の設定を変更しないでください。設定を変更すると、コンピュータが正常に動作しなくなる場合があります。Windows98/Windows2000インストールモデルでは、「BIOS Setupユーティリティ」での設定よりもWindowsでの設定が優先されます。ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。NetWareサーバを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに移行すると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
- ・ 再起動する。
- ・ 省電力モードを無効にする。

省電力機能の種類

省電力機能には、次の3つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。

スタンバイ

作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが緑色に点滅します。通常モードへは、数十秒で復帰できます。

休止状態(Windows2000のみ)

作業内容をHDDに保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。

休止状態を有効にする
(Windows 2000のみ)

休止状態を有効にするには、次の設定が必要です。
「コントロールパネル」-「電源オプション」-「休止状態」タブをクリックします。
「休止状態をサポートする」にチェックを付けます。購入時の設定ではチェックが付いていません。



電源ランプの表示 省電力モードの状態は、電源ランプの点灯または点滅によって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	緑点灯
HDD/ ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	緑点滅
休止状態 (Windows2000 のみ)	消 灯
電源オフ	消 灯

実行方法

省電力機能を実行するには、大きく分けて2つの方法があります。省電力モードを実行する場合は、万一正常に復帰できない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書など)を保存しておくことをお勧めします。

① 時間経過で実行

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないとディスプレイの電源を切ったり、省電力モードに移行したりします。

② 直ちに実行

席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

省電力に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

Windows98 : 「コントロールパネル」- 「電源の管理」

Windows2000 : 「コントロールパネル」- 「電源オプション」

時間経過で実行

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。



設定した時間を超えて何も操作しないと、ディスプレイまたはHDDの電源が切れます。

設定した時間を超えて何も操作しないと、スタンバイまたは休止状態に移行します。

Windows2000の場合

ディスプレイの電源が切れているときに、間違って電源スイッチを押さないよう注意してください。コンピュータの電源が切れてしまいます。

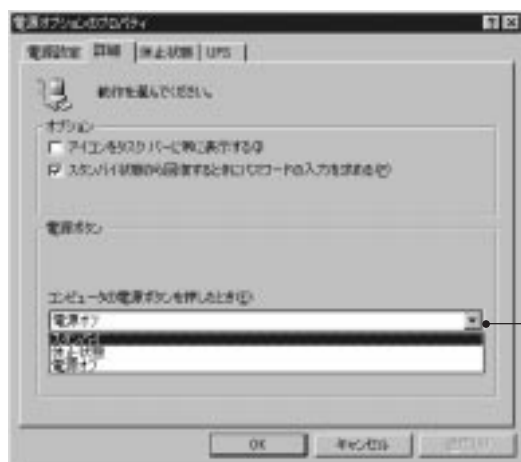
直ちに実行

次の方法でスタンバイ、または休止状態に移行します。

[スタート] - 「Windowsの終了(Windows2000では、「シャットダウン」)」から選択、実行します。

電源スイッチを押して実行します。

電源スイッチを押したときにどちらのモードに入るかを「詳細」タブで設定します。



電源スイッチを押したときの動作を設定します。

Windows2000の場合

復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD、モニタの電源が切れている状態	緑点灯	マウス、キーボードを操作する。 (誤って電源スイッチを押さないでください。)
スタンバイ	緑点滅	電源スイッチを押す。 マウス、キーボードを操作する。
休止状態 (Windows2000のみ)	消 灯	電源スイッチを押す。

その他の機能

サウンド機能

本機のメインボード上には、サウンド機能が搭載されています。背面にはライン出力、ライン入力、マイク入力とゲームポート / MIDIコネクタが用意されています。ライン出力コネクタにアンプ内蔵スピーカを接続すれば、音を鳴らすことができます。

サウンドカードを同時購入された場合は、サウンドカードに添付のマニュアルをご覧ください。

音を鳴らしたり、
録音したりするには

Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。Windows使用時に音が鳴らない、音が大きすぎるといった場合には、「ボリュームコントロール」で音量を調節します。

サウンドユーティリティは、[スタート] - 「プログラム」 - 「アクセサリ」 - 「エンターテイメント」(WindowsNT4.0の場合は「マルチメディア」)フォルダに登録されています。Windowsのサウンドユーティリティの使用方法は、『ファーストステップガイド』(Windows2000は、『クイックスタートガイド』)やヘルプをご覧ください。

ネットワーク機能

本機のメインボードには、ネットワーク機能が搭載されています。

ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。



NetWareサーバを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。

このような場合は次のいずれかの方法をとってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
- ・ 再起動する。
- ・ 省電力モードを無効にする。


ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。

パラレルコネクタ

本機背面のパラレルコネクタには、プリンタやスキャナなどを接続します。そのほか接続できるものについては、各周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

パラレルポート
の設定

本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。


 p.105「Advancedメニュー画面」 - 「I/O Device Configurationサブメニュー画面」

シリアルコネクタ

本機背面にはシリアルコネクタが1個用意されています。

シリアルポートの 設定

シリアルコネクタには、シリアルマウスや外付けのFAXモデム、TA(ターミナルアダプタ)などを接続します。本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常は、シリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.105「Advancedメニュー画面」-「I/O Device Configurationサブメニュー画面」

USBコネクタ

本機背面には、USBコネクタが2個用意されています。どちらのコネクタも同じ機能ですので、どちらを使用してもかまいません。USBコネクタを使用するには、接続する周辺機器に添付されているデバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは、接続する周辺機器のマニュアルをご覧ください。



USBコネクタは、WindowsNT4.0では使用できません。

コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「VirusScan for Windows」が添付されています。

データファイルの 更新

次々に出現する新しいコンピュータウィルスに対応するためには、ウィルス情報のデータファイルの定期的な更新が必要です。詳しくは、VirusScanオンラインヘルプまたは『VirusScan for Windowsユーザズガイド』をご覧ください。『VirusScan for Windowsユーザズガイド』は添付のユーティリティCDに登録されています。

アップデート時の 注意

デスクトップ上の「McAfee VirusScanセントラル」を起動して、「アップデート」を行う場合は、インターネットに接続している状態でアップデートを行ってください。インターネットに接続していない状態では、選択できるサーバ(接続先)が海外になってしまいます。

システムの拡張


コンピュータに内蔵オプション装置を装着して機能を拡張する方法を説明します。

拡張できる装置

本機には、次の各部に装置を増設・交換して機能を拡張することができます。


DIMMソケット

本機にはDIMMソケットが2本用意されており、内蔵メモリを512MBまで拡張することができます。

 p.73「DIMMの増設」


5.25型ドライブベイ

5.25型の装置(CD-ROMドライブなど)やマウントフレームを取り付けた3.5型の装置(MOドライブなど)を2基装着することができます。CD-ROMドライブなどが装着済みのため実際に増設できるドライブベイの数は、システムの構成により異なります。

 p.80「ドライブベイへのドライブの装着」

拡張スロット

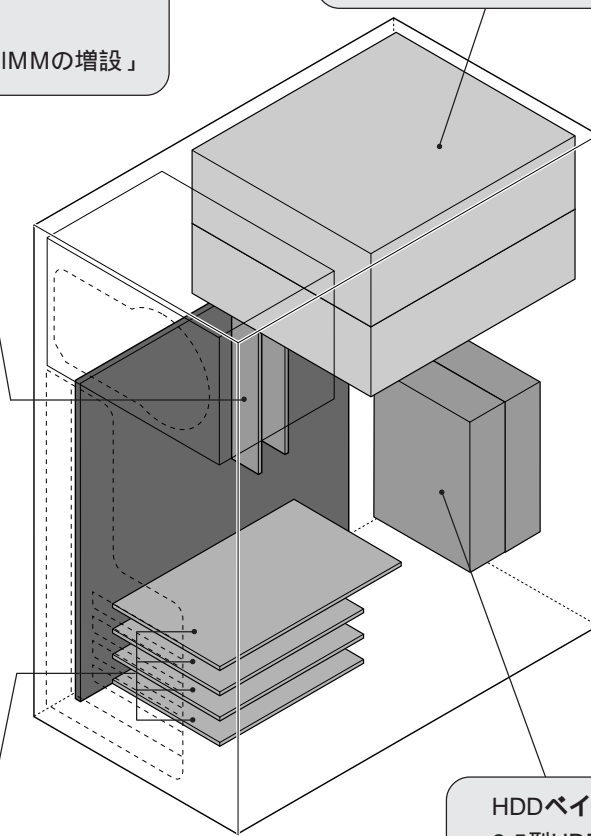
AGP仕様のカードを1枚、PCI仕様の拡張カードを3枚装着できます。工場出荷時に、いくつかの拡張カードが装着済みの場合があるため、実際に増設可能なスロットの数は、システムの構成により異なります。

 p.77「拡張カードの装着」

HDDベイ

3.5型HDDを2基装着できます。通常は、HDDが1基装着されています。

 p.82「HDDベイへの装着」



作業時の注意

コンピュータ内部に装置を装着する場合は、必ず以下の点を確認してから作業を始めてください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



DIMMの増設・交換や、拡張カードの装着などは、本製品の内部が高温時には行わないでください。やけどの危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



本機は電源をオフにしても、コンピュータ内部に微少な電流が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。

取り付ける装置に添付されているマニュアルを必ず参照してください。
コンピュータおよび接続している周辺機器の電源をオフにしてください。
作業直前までコンピュータを使用していた場合は、コンピュータ内部が高温になっています。内部が冷えるまで10分以上お待ちください。
コンピュータ背面に接続されているケーブルをすべて外してください。
装置を装着するときは、裏表や前後を間違えないでください。間違えて装着すると故障の原因になります。本書や各装置に添付のマニュアルの指示に従って、正しく装着してください。
コンピュータ内部のケースや基盤には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
作業直前には、金属のものに触れるなどして、静電気を逃がしてから作業を行ってください。

本体カバーの取り外し・取り付け



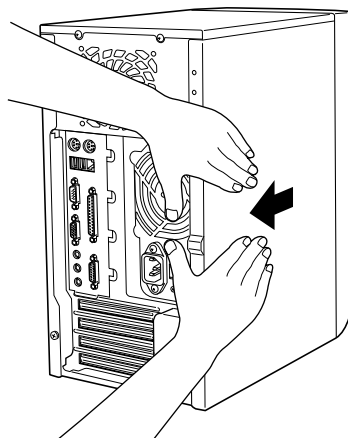
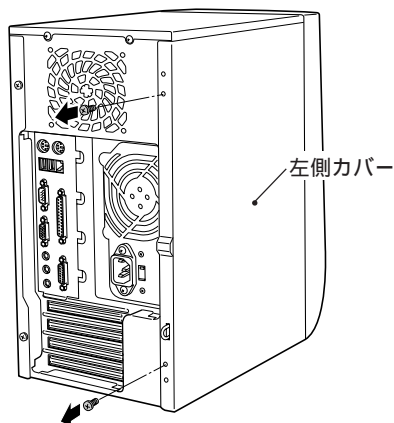
電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。

本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部に装置を装着する場合は、左側本体カバーを外す必要があります。
本体カバーは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。

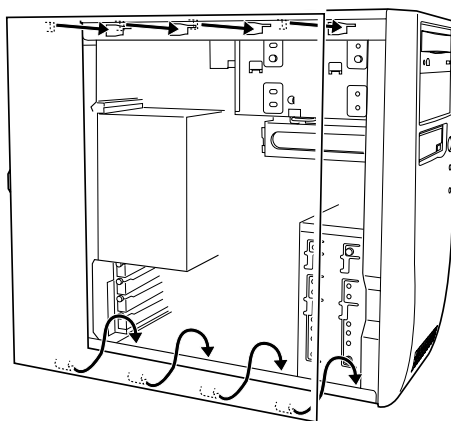
取り外し

- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 電源コード、キーボード、ケーブルなどすべてのケーブル類をコンピュータ本体から外します。
- 3 本体左背面のネジ(2本)を外します。
- 4 本体カバーを背面側にずらして取り外します。



取り付け

- 1 本体カバーを本体側面に合わせます。
本体側面の上下4個ずつある8個の穴にカバーのフックを合わせます。

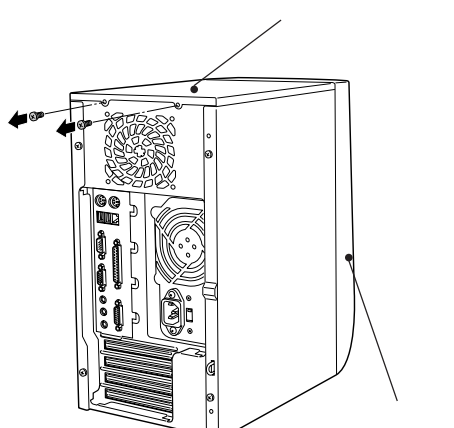
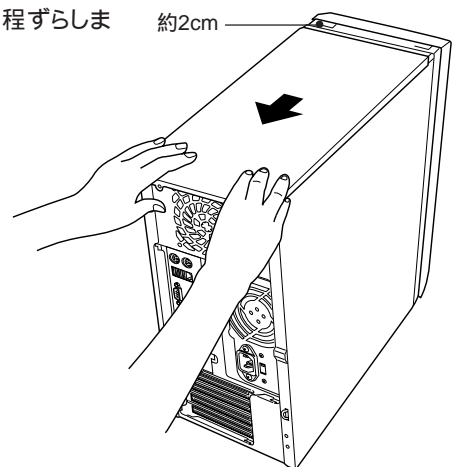
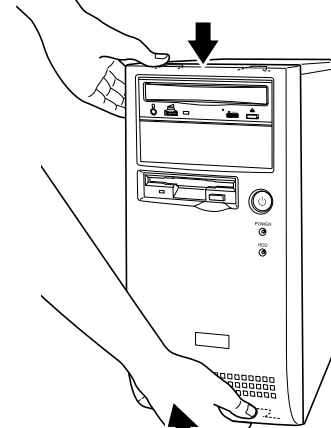
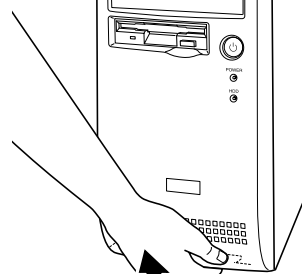


- 2 前面側にスライドさせます。
- 3 ネジ(2本)で本体カバーを固定します。
カバーを取り付けたら、ケーブル類をもとどおり接続します。

フロントパネルの取り外し・取り付け

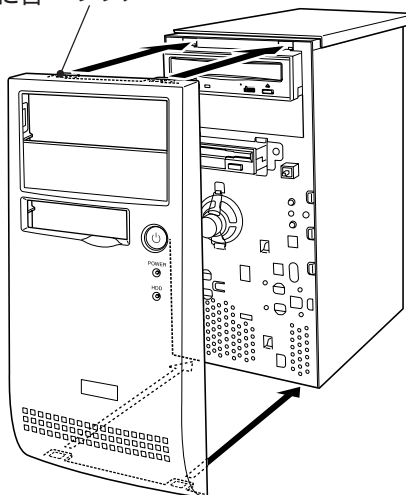
本機の内部に装置を装着する場合に、フロントパネルを取り外す場合があります。フロントパネルは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。

取り外し

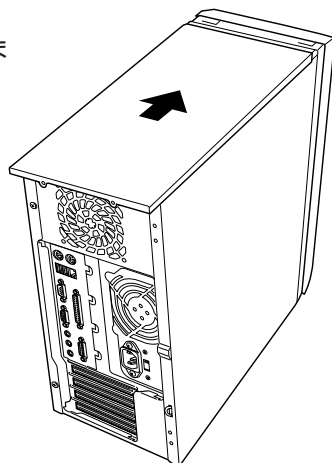
- 1 上カバーを固定している本体背面のネジ
(2本)を外します。
上カバー
フロントパネル
- 2 上カバーを背面側に約2cm程ずらし
ます。
約2cm
- 3 本体前面を机から5センチくらい突き出
して置きます。
コンピュータのバランスを崩して本体を机
から落とさないように気を付けてください。

- 4 フロントパネル上部を押しながら、フロント
パネルの下側を握って上の方に引っば
ります。


取り付け

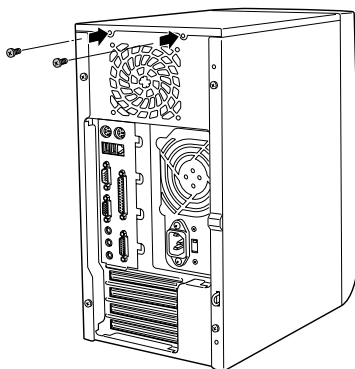
- 1 フロントパネル上部のフック(2個)を本体上部の穴に合わせます。続いてフロントパネル下部のフック(2個)を本体の穴に合
フック
わせて押し込みます。
上カバーを背面側に2cm程ずらした
状態で行います。



- 2 上カバーを本体前面側へスライドさせます。



- 3 本体背面のネジ(2本)で本体の上カバーを固定します。

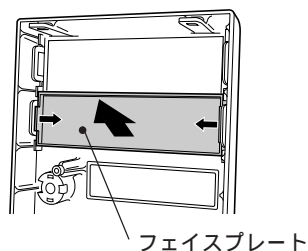


フェイスプレートの取り外し・取り付け

CD-ROMドライブのように、本体前面から記録メディアを交換するようなドライブ装置を取り付けるときは、フェイスプレートを取り外します。

取り外し

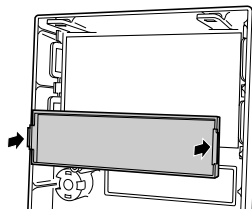
フロントパネルの裏側のフェイスプレートのツメを内側に押さえながら引き抜きます。
外したフェイスプレートは、大切に保管してください。



取り付け

ドライブ装置を外して何も取り付けない場合は、コンピュータ内部にほこりが入らないようにフェイスプレートを取り付けます。

フロントパネルの裏側からフェイスプレートを押し込みます。



DIMMの増設

本機で、使用可能なDIMM(メモリ)の仕様とDIMMの取り付け方法について説明します。

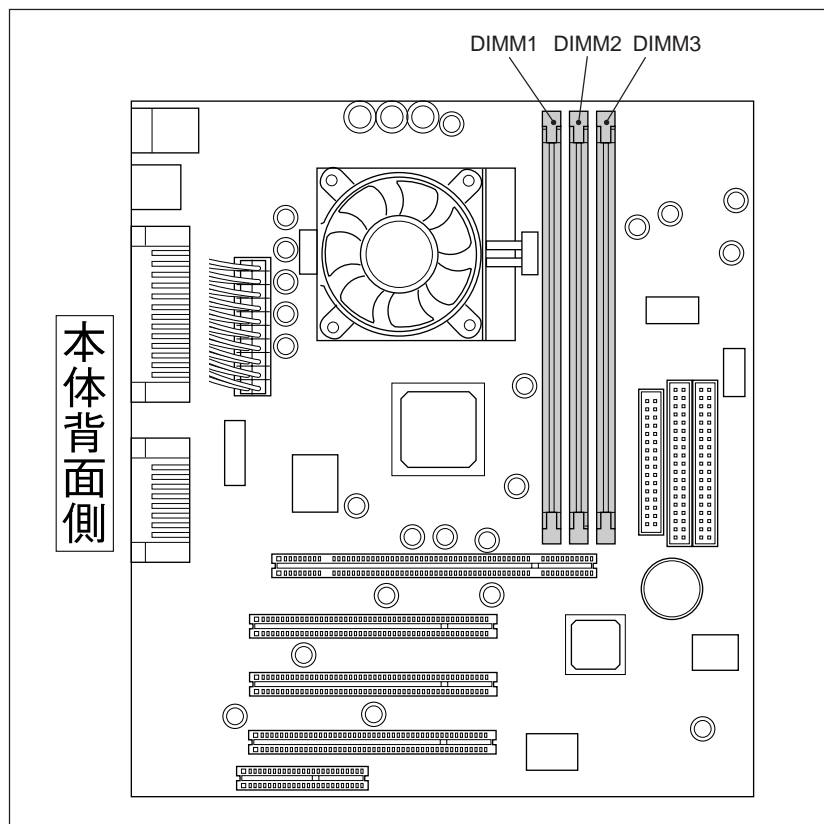
DIMMの仕様

本機には、3つのDIMMソケットが用意されており、DIMM1ソケットとDIMM2ソケットにDIMMを増やすことにより最大512MBまで拡張可能です。DIMMはDIMM1ソケットから取り付けます。工場出荷時には、DIMM1ソケットにあらかじめDIMMが取り付けられています。(容量は、購入時の仕様により異なります。)



制限

DIMM3ソケットは使用できません。



本機で使用可能なDIMMの仕様は次のとおりです。

168ピンDIMM(Dual Inline Memory Module)

3.3V SDRAM (Unbufferd SynchronousDRAM)

メモリ容量 64MB、128MB、256MB

ECC機能非対応

PC133規格対応

上記仕様と一致するDIMMを当社のオプションリストより選択してください。


DIMMの取り付け

DIMMの取り付け作業をする場合は、必要に応じて横置きにしてもかまいません。

取り付け


1

本体カバーを外します。

 p.68「本体カバーの取り外し・取り付け」

2

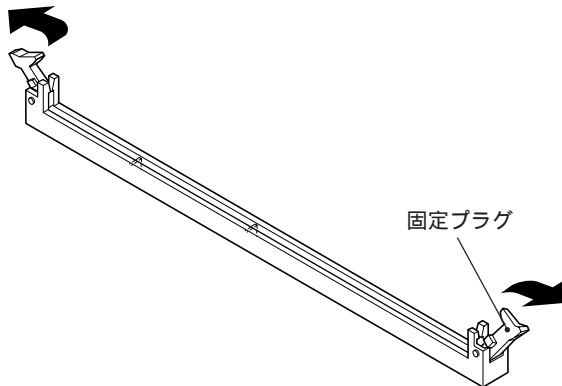
AGPスロットに拡張カードが装着されている場合は、拡張カードを外します。
そのほかの拡張カードや、HDDのドライブキャリアが取り付け作業の妨げになる場合は、必要に応じて外します。

 p.77「拡張カードの装着」

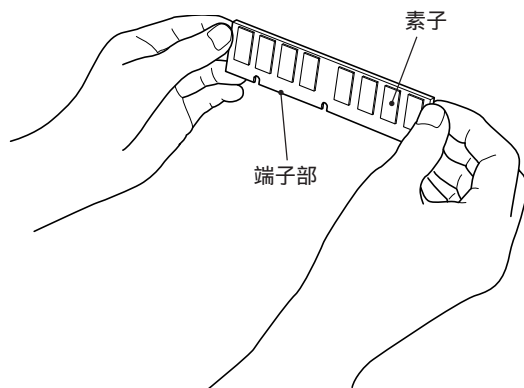
 p.82「HDDベイの装着」

3

DIMMソケットの固定プラグを開きます。

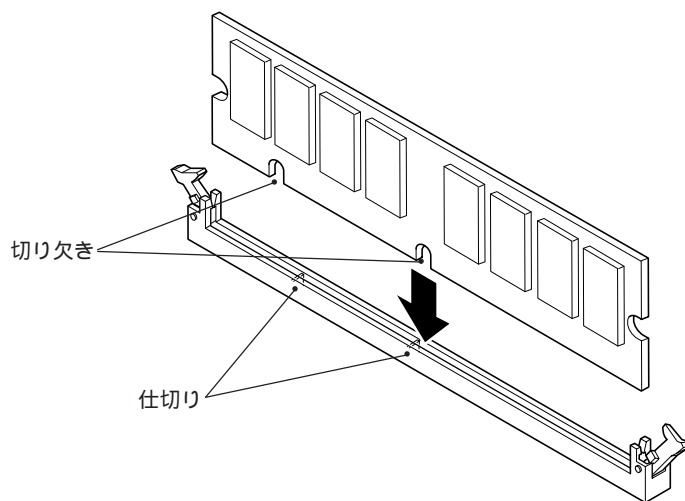


- 4 DIMMを静電防止袋から取り出します。DIMMの端子部や素子に触れないように注意します。




- 5 DIMMソケットにDIMMを差し込みます。

- ① DIMMには2つの切り欠きがあり、これをDIMMソケット内の仕切りに合わせます。
- ② さらに押し込むと、固定プラグが閉じて、DIMMが固定されます。



- 6 取り外した拡張カードなどを取り付けます。

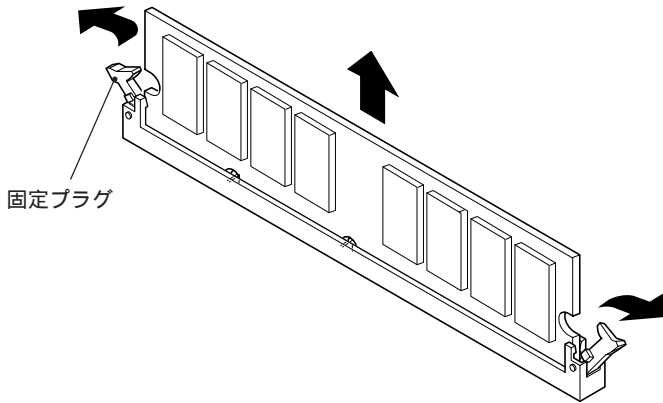
- 7 本体カバーを取り付けます。

 p.68「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 8 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。

- 9 電源を入れて、起動時に表示される総メモリ容量を確認します。
装着したDIMMの容量だけメモリ容量が増えていればDIMMは正しく取り付けられています。増えていない場合は、正しく取り付けられていないと考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付け直してください。

取り外し

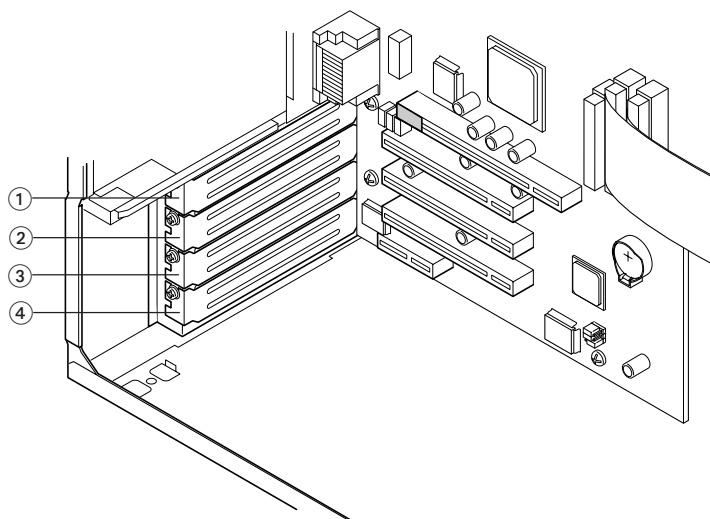
- 1 DIMMの両端を固定している固定プラグを開きます。
- 
- 固定プラグ
- 2 DIMMが外れたら静かに取り外し、静電気防止袋に入れて保管してください。

拡張カードの装着

拡張スロットの仕様と拡張カードを取り付ける方法について説明します。

拡張スロットの仕様

本機には、4つの拡張スロットがあります。各スロットの仕様は、次のとおりです。



スロット番号	コネクタ仕様	拡張カードサイズ (mm)
①	AGP	110 (W) × 175 (L)
②	PCI	110 (W) × 175 (L)
③	PCI	110 (W) × 175 (L)
④	PCI	110 (W) × 175 (L)

拡張カードの装着

拡張カードを装着する前に、必ず拡張カードに添付のマニュアルをご覧ください。
作業をする場合は、コンピュータを横置きにしてもかまいません。
AGPカード装着時にAGPスロットに貼られている黄色いシールをはがさないでください。



参考

拡張カードのコネクタ

拡張カードによっては、コンピュータ内部のコネクタとの接続が必要な場合があります。



拡張カードに添付のマニュアル

1

本体カバーを外します。

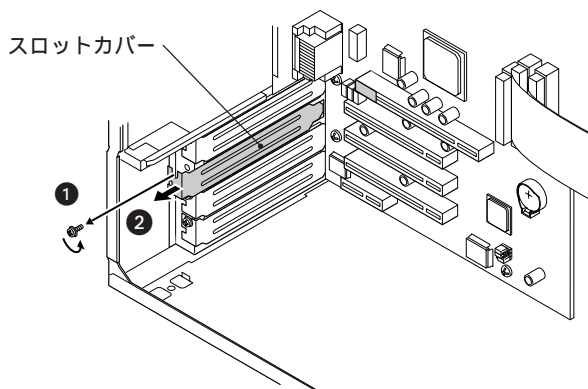


p.68「本体カバーの取り外し・取り付け」

2

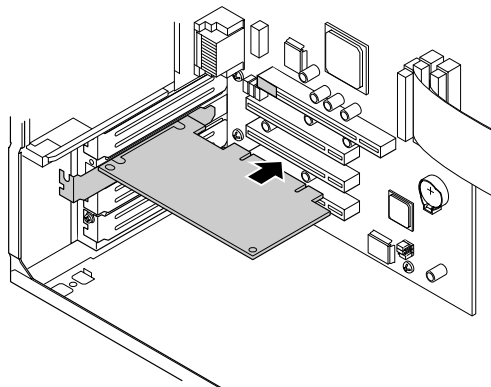
拡張カードを装着するスロットのスロットカバーを外します。

- ① スロットカバーを固定しているネジを外します。
- ② スロットカバーを手前に引き抜きます。

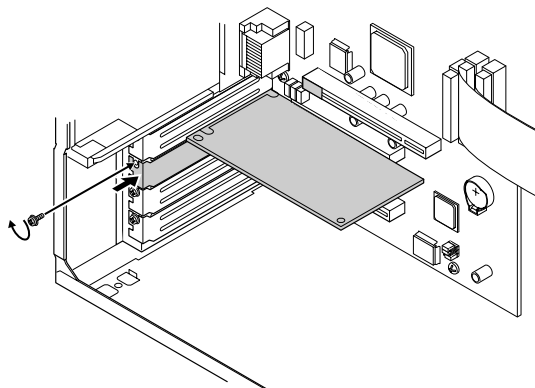



外したスロットカバーは、大切に保管してください。拡張カードを外し、別の拡張カードを装着しない場合は、本体内部にほこりなどが入らないように再び装着してください。

- 3 拡張カードを差し込みます。
拡張カードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認してゆっくり押し込みます。



- 4 拡張カードをネジで固定します。



- 5 本体カバーを装着します。
 p.68「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 6 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。

取り外し

- 1 拡張カードを固定しているネジを外し、カードを引き抜きます。
- 2 拡張カードを取り外したスロットに別の拡張カードを装着しないときは、スロットカバーを取り付けておきます。

ドライブベイへのドライブの装着




制限

3.5型ドライブベイのドライブ装置は交換できません。ただし、3.5型のMOドライブなどを5.25型マウントフレームに取り付け、5.25型ドライブベイへ装着することは可能です。


5.25型ドライブ装置への装着

取り付け


- 1 あらかじめ装着する装置に添付のマニュアルを参照して、必要に応じてジャンパススイッチやディップスイッチの設定などを行います。

 p.85「ドライブ装置の装着」

- 2 本体カバーを外します。

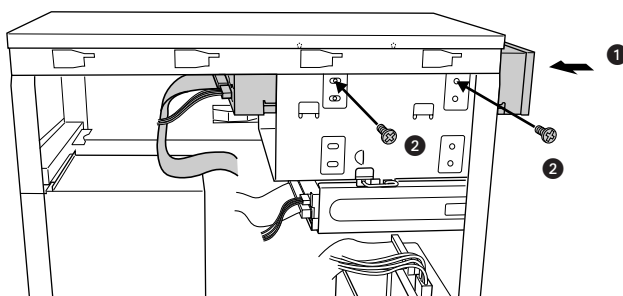
 p.68「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 3 フロントパネルを取り外します。

 p.70「フロントパネルの取り外し・取り付け」

- 4 5.25型ドライブ装置を取り付けます。

- ① 前面から挿入します。
- ② ネジ穴を合わせてネジ(2本)で固定します。





- 5 ドライブ装置にケーブル類を接続します。



 p.85「ドライブ装置の装着」

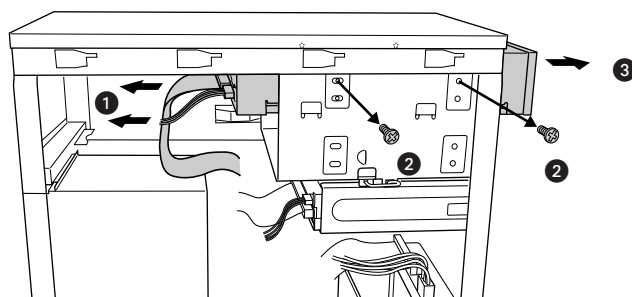
- 6 必要に応じてフロントパネルから装置を装着する位置のフェイスプレートを取り外します。



 p.72「フェイスプレートの取り外し・取り付け」

- 7 フロントパネルを取り付けます。
 p.70「フロントパネルの取り外し・取り付け」
- 8 本体カバーを取り付けます。
 p.68「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 9 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。


取り外し

- 1 本体カバーを外します。
 p.68「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 2 フロントパネルを取り外します。
 p.70「フロントパネルの取り外し・取り付け」
- 3 5.25型ドライブ装置を取り外します。
 - ① 5.25型ドライブ装置に接続されているケーブル類を外します。
 - ② ネジ(2本)を外します。
 - ③ 5.25型ドライブ装置を前面から引き抜きます。



- 4 必要に応じて、フロントパネルにフェイスプレートを取り付けます。
 p.72「フェイスプレートの取り外し・取り付け」
- 5 フロントパネルを取り付けます。
 p.70「フロントパネルの取り外し・取り付け」






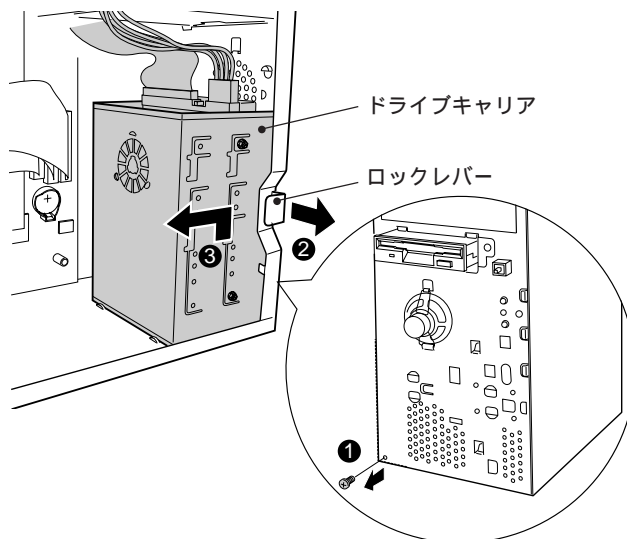
- 6 本体カバーを取り付けます。
 p.68「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 7 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。

HDDベイへの装着

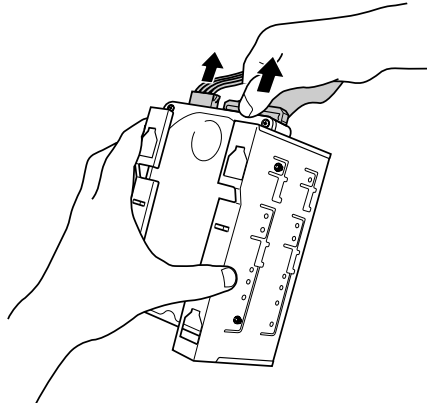
取り付け

ここでは、2台目のHDDを増設する手順を説明します。

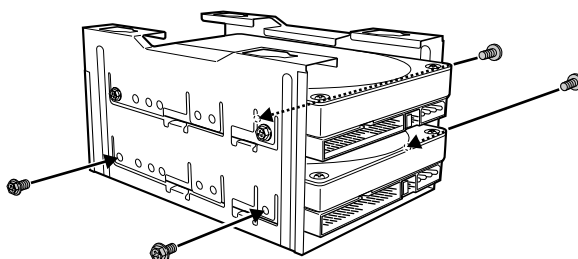
- 1 あらかじめ装着するHDDに添付のマニュアルを参照して、必要に応じてジャンプスイッチやディップスイッチの設定などを行います。
 p.85「ドライブ装置の装着」
- 2 本体カバーを外します。  p.68「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 3 フロントパネルを取り外します。  p.70「フロントパネルの取り外し・取り付け」
- 4 ドライブキャリアを本体から取り外します。
 - ① コンピュータ本体とドライブキャリアを固定しているネジ(1本)を外します。
 - ② ドライブキャリアを固定しているロックレバーを左側方向に引きます。
 - ③ ドライブキャリアを矢印のとおりにずらして取り外します。



- 5 ドライブキャリアに装着されているHDDのケーブル類を外します。
片方の手で、ドライブキャリアを持ち、もう一方の手でケーブルを外します。



- 6 ドライブキャリアにHDDを取り付けます。
ドライブキャリアとHDDのネジ穴を合わせて、ネジ(4個)で固定します。

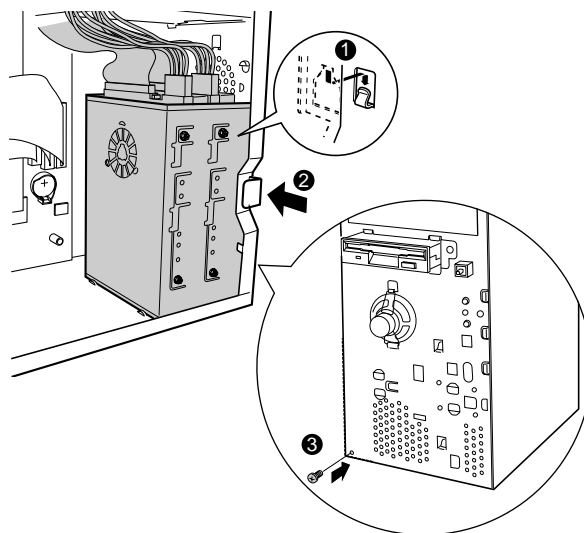


- 7 HDDのケーブル類を接続します。
☞ p.85「ドライブ装置の装着」




8 ドライブキャリアを本体に取り付けます。


- ① 本体前面側にある4個のツメをドライブキャリアの四角い穴に合わせて差し込みます。
- ② ドライブキャリアを固定するロックレバーを押し込みます。(①で4個のツメがきちんと差し込まれていないとロックレバーが押し込めません。)
- ③ ドライブキャリアをコンピュータ本体とネジ(1本)で固定します。



9 フロントパネルを取り付けます。

 p.70「フロントパネルの取り外し・取り付け」

10 本体カバーを取り付けます。

 p.68「本体カバーの取り外し・取り付け」

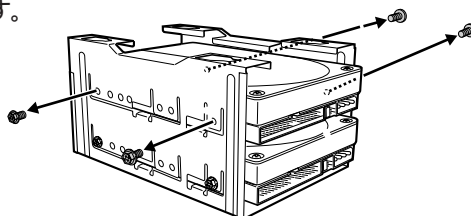
11 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。

取り外し

ドライブキャリアの取り外し方・取り付け方については、前項「HDDベイへの装着」の手順を参照してください。

ドライブキャリアからHDDを取り外します。

ドライブキャリアとHDDを固定しているネジ(4本)を外し、ドライブキャリアからHDDを外します。



ドライブ装置の装着

ドライブ装置の種類

コンピュータ内部に取り付けるドライブ装置には、IDE仕様のドライブ装置(以降、IDE装置と記載します)とSCSI仕様のドライブ装置(以降、SCSI装置と記載します)があります。IDE装置は、本機のメインボード上にあるIDEコネクタにIDEケーブルを介して接続します。SCSI装置を接続する場合は、SCSIカードが必要です。SCSI装置は、拡張スロットに取り付けたSCSIカードにSCSIケーブルを介して接続します。

IDE装置の設定

IDE装置を接続する場合は、次の点を確認してから作業を始めてください。

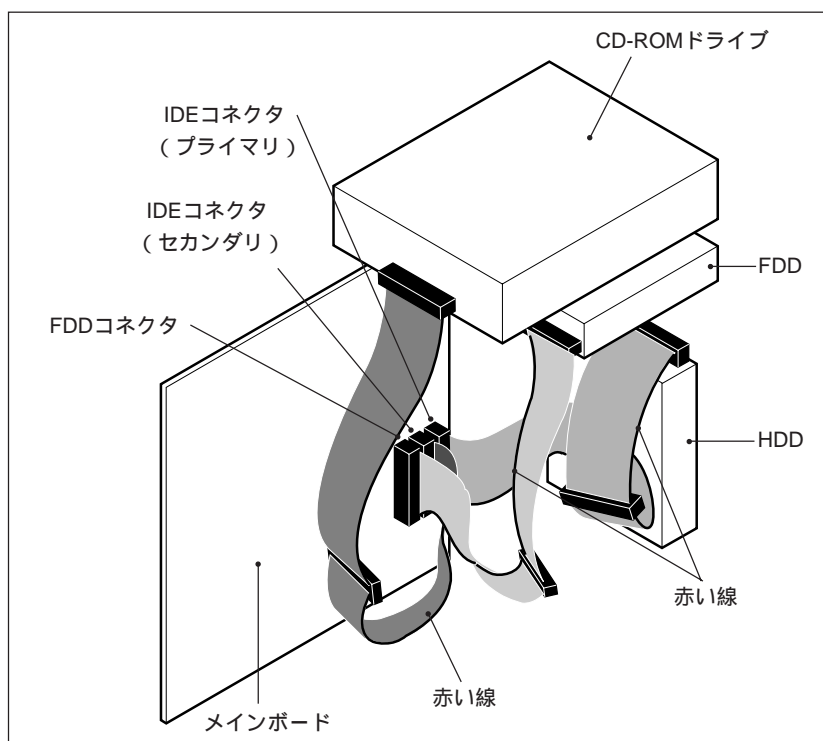
接続可能なIDE装置は合計4台です。

IDE装置の順番は、接続するIDEケーブル(プライマリとセカンダリ)と装置の設定(マスタとスレーブなど)によって決定されます。

プライマリ とセカンダリ

本機のメインボード上には、IDEケーブルを接続するためのIDEコネクタが2つあります。IDEコネクタには優先度があり優先度の高いものがプライマリコネクタ、低いものがセカンダリコネクタです。IDEケーブルには、それぞれ2台のIDE装置を接続できます。

IDE装置のメインボード側の接続は、次のとおりです。



UltraATA/66・100対応ケーブル

本機のプライマリIDEコネクタに接続しているケーブルは、Ultra ATA/66・100対応のケーブルです。メインボードのプライマリIDEコネクタには、Ultra ATA/66・100対応ケーブルの「青いコネクタ」側を接続します。

マスタ とスレイブ

IDEケーブルには、2つのIDE装置接続用のコネクタがあります。1本のIDEケーブルに接続された2つのIDE装置の優先度は、IDE装置側のジャンプスイッチなどで設定します。優先度の高い設定がマスタ、低い設定がスレイブです。

プライマリIDEケーブルにIDE装置を接続するときは、次のように接続します。

黒色のコネクタ:マスタ設定されたIDE装置に接続

灰色のコネクタ:スレイブ設定されたIDE装置に接続

IDEケーブルにIDE装置を1台しか接続しない場合は、マスタ装置によってはシングル)の設定にしてください。1台しか接続しない場合にスレイブの設定にするとIDE装置が認識されません。



参考

ケーブルセレクト

HDDによっては、ジャンプスイッチを「ケーブルセレクト」に設定することができます。

「ケーブルセレクト」とは、「マスタ」、「スレイブ」と同様にジャンプスイッチで設定する値です。「ケーブルセレクト」設定されたHDDは、Ultra ATA/66・100対応ケーブルに接続するコネクタ位置によって、次のように優先度が変わります。

黒色コネクタに接続:IDE装置は、マスタとして設定されます。

灰色コネクタに接続:IDE装置は、スレイブとして設定されます。

IDE装置の接続例

メインボード上のIDEコネクタ	IDE装置の設定	IDE装置の優先度	一般的な設定
プライマリ	マスタ	1	HDD
	スレイブ	2	-
セカンダリ	マスタ	3	CD-ROMドライブ
	スレイブ	4	-

HDDの領域を2つ以上作成した場合には、それぞれの領域にドライブ名が割り当てられます。



制限

OS(Windows)は、プライマリIDEコネクタにマスタ設定で接続されたHDDにインストールしてください。

HDDは、CD-ROMドライブよりも優先度の高い設定にしてください。CD-ROMドライブより優先度の低い設定のHDDは認識されない可能性があります。

IDE装置の増設例

メインボード上の IDEコネクタ	IDE装置の設定	IDE装置の 優先度	一般的な設定
プライマリ	マスタ	1	HDD
	スレーブ	2	増設HDD
セカンダリ	マスタ	3	CD-ROMドライブ
	スレーブ	4	MOドライブ



CD-ROMドライブとCD-R/RWドライブまたはDVD-ROMドライブを同時に接続する場合は、CD-ROMドライブをセカンダリのマスタに、CD-R/RWドライブまたはDVD-ROMドライブをセカンダリのスレーブに接続してください。

CD-R/RWドライブとDVD-ROMドライブを同時に接続する場合は、DVD-ROMドライブをセカンダリのマスタに、CD-R/RWドライブをセカンダリのスレーブに接続してください。

LS-120ドライブまたはMOドライブは、セカンダリのスレーブに接続してください。

SCSI装置の設定

SCSI装置には、コンピュータ内部に取り付けるHDDやCD-ROMドライブのほか、外部コネクタに接続するスキャナなどの装置もあります。SCSI装置の接続を行う前に、次の点を確認してください。

1枚のSCSIカードには、最大で7台(Narrow)または15台(Wide)のSCSI装置を接続することができます。

※ SCSIカードには、WideSCSI(68ピン)とNarrowSCSI(50ピン)の2種類があります。

SCSI装置は、SCSI IDにより識別されます。

SCSIケーブルの両端のSCSI装置には、SCSIターミネータと呼ばれる終端抵抗を付ける必要があります。

SCSI装置の接続やSCSIカードの詳細については、SCSI装置やSCSIカードのマニュアルをご覧ください。

SCSI ID

SCSI装置を識別するためにSCSI装置ごとに異なるSCSI IDを設定します。SCSI IDは、SCSI装置上のジャンプスイッチやディップスイッチなどで設定します。一般的なSCSI IDの設定は、以下のとおりです。

SCSI ID	ドライブ装置
0	HDD(1台目)
1	HDD(2台目)
3	CD-ROMドライブ
4	MO(光磁気ディスクドライブ)
7	SCSIカード

SCSIターミネータ

SCSIターミネータは、正常にデータの入出力を行うためにSCSIケーブル両端のSCSI装置に設定する終端抵抗です。

SCSI装置が内蔵されている製品では、コンピュータ内部のSCSIケーブルの両端に接続しているドライブ装置とSCSIカードのターミネータ設定を有効にしています。SCSIカードは、通常自動的にターミネータを有効にしたり無効にする機能を持っています。このためSCSIカードの外部コネクタにSCSI装置を接続すると、自動的にターミネータが無効になります。

SCSI装置の接続やSCSIカードの詳細については、SCSI装置やSCSIカードのマニュアルをご覧ください。

ドライブ装置の接続例

ドライブ装置のケーブル接続は、次のとおりです。増設・交換時には、ドライブ装置に添付のマニュアルもあわせてご覧ください。

Ultra ATA/66・100対応ケーブル 本機のプライマリIDEコネクタに接続されているケーブルは、Ultra ATA/66・100対応ケーブルです。Ultra ATA/66・100対応ケーブルには、マスタ用コネクタとスレーブ用コネクタがあり、各コネクタは色で区別されています。
次のとおりに接続を行ってください。
接続するコネクタを間違えると、HDDが正常に動作しない場合があります。

青	メインボードのプライマリコネクタに接続
黒	マスタ設定されたドライブ装置に接続
灰色	スレーブ設定されたドライブ装置に接続

IDE HDDのジャンプスイッチをケーブルセレクトに設定すると、Ultra ATA/66・100ケーブルのコネクタ位置で、マスタまたはスレーブに設定されます。

HDDの接続例

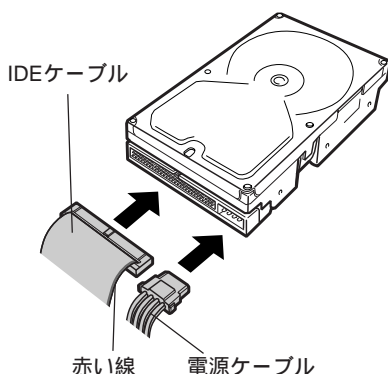
HDDの場合、次のように接続します。

1

IDEケーブルを接続します。
IDE仕様のHDDでは、IDEケーブルをHDDのインタフェースコネクタに接続します。

2

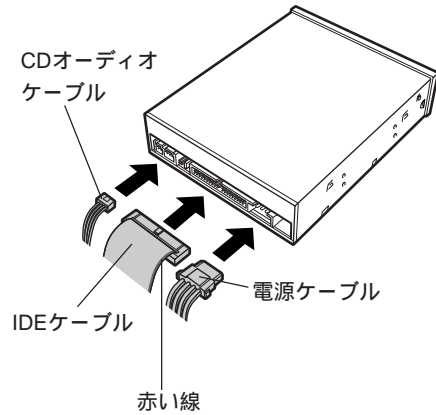
電源ケーブルを、電源コネクタに接続します。




CD-ROM ドライブの接続例

CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RWドライブなどの場合、次のように接続します。

- 1 IDEケーブルを接続します。
IDE仕様のCD-ROMドライブなどではIDEケーブルをCD-ROMドライブなどのインタフェースコネクタに接続します。
- 2 CDオーディオケーブルを接続します。
CDオーディオケーブルは、メインボードのCD-1コネクタに接続されています。このケーブルを接続しないと音楽CDを再生したときコンピュータに接続したスピーカーから音が聞こえません。
- 3 電源ケーブルを、電源コネクタに接続します。

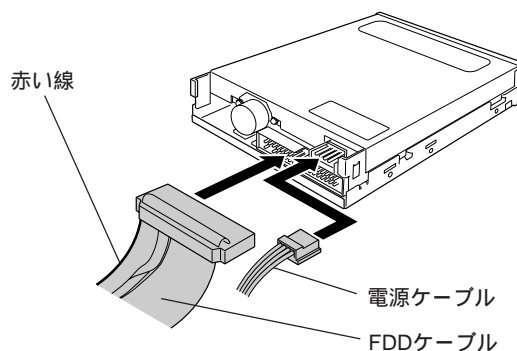


 p.188「コンピュータ内部のケーブル接続」

3.5型FDD の接続

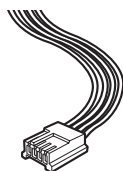
3.5型FDDの場合、次のように接続します。

- 1 FDDケーブルをFDDのインタフェースコネクタに接続します。
- 2 電源ケーブルを電源コネクタに接続します。
電源コネクタの位置は、機種によって異なります。

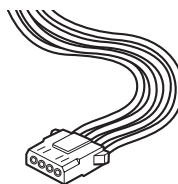


電源ケーブル

電源ユニットからは、ドライブベイに装着する装置に電源を供給するために電源ケーブルが出ています。電源ケーブルには、大小2種類の電源コネクタがあります。一般的に大きいコネクタは、HDDやCD-ROMドライブなどに、小さいコネクタは3.5型FDDなどに使用します。



3.5型FDDなど



HDDやCD-ROMドライブなど

BIOSの設定

BIOS Setupユーティリティを使用し、BIOSの設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSはコンピュータの基本的な入出力を行うプログラムの集まりで、メインボード上にROMとして搭載されています。BIOSの設定により、コンピュータの基本的な動作が決定されます。BIOSは、コンピュータのシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- 内蔵HDD(IDE仕様)を交換した場合
- パワーマネージメントの設定を変更する場合
- パスワードを設定する場合


BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」を実行して変更します。BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源をオフにしたり、リセットしても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合にはリチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

 p.176「リチウム電池の交換」



制限

BIOS Setupユーティリティで、設定を変更する場合には、必ず購入時の設定値(初期設定値)と、変更後の設定値を記録しておいてください。万一、システムが動作しなくなった場合や、リチウム電池の寿命などでCMOS RAMのデータが失われた場合でも、もとに戻すことができます。

 p.109「BIOSの設定値」

BIOS Setupユーティリティには、ハードウェアに依存した詳細な項目も含まれています。このような項目を誤って変更すると、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。万一、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になった場合には「Load Setup Defaults」(初期設定値)を実行してください。

 p.109「Exitメニュー画面」

BIOS Setupユーティリティの操作

BIOS Setupユーティリティの起動

- 1 コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合はリセットします。
- 2 画面の下の方に次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に **Delete** を押してください。 **Delete** を押さないとシステムが起動します。


Press DEL to enter SETUP

仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合は、コンピュータの電源を入れたら、次の現象が起こる場合があります。


「BIOS Setupユーティリティ」が起動する

「BIOS Setupユーティリティ」項目内容を確認または修正後に「Exit Saving Change」を実行して終了します。

 p.98「BIOS Setupユーティリティの終了」

「Press F1 to continue, DEL to enter SETUP」と表示される

Delete を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常は、そのまま「Exit Saving Change」を実行して終了します。

 p.98「BIOS Setupユーティリティの終了」

F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

BIOS Setupユーティリティの操作

BIOS Setupユーティリティの操作はキーボードで行います。BIOS Setupユーティリティが起動すると次の「メニュー画面」が表示されます。「メニュー画面」から、▶マークの付いている項目にカーソルを合わせて **↓** を押すと「サブメニュー画面」が表示されます。





<メニュー画面>

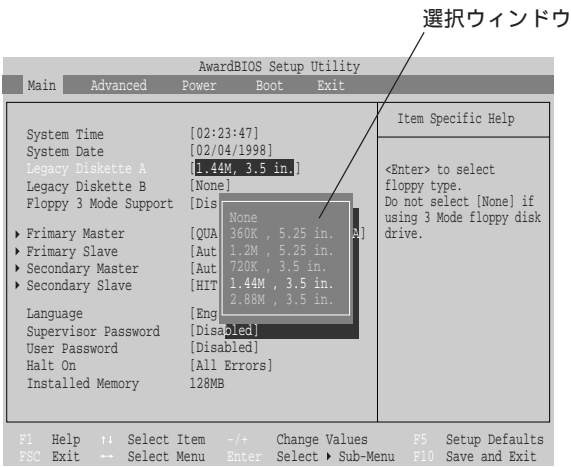
処理メニュー

<サブメニュー画面>




















選択ウィンドウ

BIOS Setupユーティリティの画面上で、設定値が黒字表示されている項目は設定の変更が可能です(青字表示されている項目は設定を変更することができません)、黒字表示の項目にカーソルを合わせて  を押すと、「選択ウィンドウ」が表示されます。  キーで移動して  を押すと、値が選択されます。



キー操作

キー	操作できる内容
 ,  + 	ヘルプを表示します。
	「EXIT」画面を表示します。 「サブメニュー画面」から「メニュー画面」に戻ります。
 , 	設定を変更する項目を選択します。
 , 	処理メニューを選択します。
 , 	項目の値を変更します。
	メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 設定値を選択します。
	全設定項目の値を、初期値に変更します。
	変更した設定値を保存して終了します。
 , 	画面の中の最初の項目に移動します。
 , 	画面の中の最後の項目に移動します。

設定値をもとに戻すには

BIOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい、万一コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を前回保存した値や初期値に戻すことができます。

Load Setup Defaults

BIOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値に変更します。

- 1 **F5**を押す、または「Exitメニュー画面」「Load Setup Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Setup Configuration	
Load default configuration now ?	
[Yes]	[No]

- 2 BIOSの設定を初期値時に戻す場合は、[Yes]を選択して **↵** を押します。
変更しない場合は[No]を選択して **↵** を押します。

工場出荷時の状態に戻す (WindowsNT4.0)

WindowNT4.0では、一部の項目の初期値と工場出荷値が異なります。

WindowsNT4.0使用時に「Load Setup Default」を実行した場合は、次の項目をWindowsNT4.0の工場出荷値に設定しなおします。そのまま使用すると正常に動作しないことがあります。

WindowsNT4.0の工場出荷値

Powerメニュー画面「Power Management」 : Disabled

Discard Changes

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exitメニュー画面」「Discard Changes」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Setup Configuration	
Load previous configuration now ?	
[Yes]	[No]

- 2 BIOSの設定を前回保存した値に戻す場合は、[Yes]を選択して **↵** を押します。
変更しない場合は[No]を選択して **↵** を押します。

BIOS Setupユーティリティの終了

BIOS Setupユーティリティを終了するには、次のどちらかの方法があります。

変更した内容を
保存し、終了する。
(Exit Saving
Changes)

- 1 **Esc** または **→** **←** を押し、[EXIT]画面を選択します。
- 2 「Exit Saving Changes」を選択し、**↵** を押します。次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Save configuration changes and exit now ?	
[Yes]	[No]
- 3 変更した設定値を保存して終了する場合は **Yes** を選択し、**↵** を押します。

変更した内容を
破棄し、終了する。
(Exit Discarding
Changes)

- 1 **Esc** または **→** **←** を押し、[EXIT]画面を選択します。
- 2 「Exit Discarding Changes」を選択し、**↵** を押します。次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Discard configuration changes and exit now?	
[Yes]	[No]
- 3 変更した設定値を保存せずに終了する場合は **Yes** を選択し、**↵** を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

Mainメニュー画面： 日付、時間、FDD、HDDやパスワードなどの設定を行います。

Advancedメニュー画面： CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。

Powerメニュー画面： パワーマネージメント(省電力)に関する設定を行います。

Bootメニュー画面： システムを起動するドライブの順番の設定やコンピュータの動作状態の設定などを行います。

Exitメニュー画面： BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期設定値に戻します。

Mainメニュー画面

■ は初期設定値

*印は項目表示のみ

System Time(hh:mm:ss)時間の設定	時刻を設定します。
System Date(mm:dd:yy)日付の設定	日付を設定します。
Legacy Diskette A (FDDの設定)	接続しているFDDのタイプを選択します。 None : FDD未接続 1.44M,3.5in. : 3.5型1.44MB対応FDD

Primary Master Primary Slave Secondary Master Secondary Slave (IDE装置の設定) 表示される詳細 項目は、選択する ドライブにより 異なります。	Type	IDE装置の仕様を設定します。 IDE装置の仕様を設定します。通常は[Auto]を指定します。[Auto]で自動的に仕様が設定されない古いIDE装置を使用する場合には[User Type HDD]などを選択して各項目を設定します。 None : IDE装置を接続しない場合に選択します。 Auto : BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。 User Type HDD : 以降のHDDに関する仕様を個別に設定することができます。 CD-ROM : CD-ROMドライブに関する項目を個別に設定することができます。 LS-120 : LS-120ドライブに関する項目を個別に設定することができます。 ZIP-100 : ZIP-100ドライブに関する項目を個別に設定することができます。 MO : MOドライブに関する項目を個別に設定することができます。 Other ATAPI Device : 上記ドライブ以外のATAPI機器に関する項目を個別に設定することができます。
	Translation Method	HDDの記憶容量のモードを設定します。 Normal : 容量が528MB以下のHDDを接続している場合に選択します。 LBA : 容量が528MB以上でLBA(Logical Block Addressing)をサポートしているHDDを接続している場合に選択します。 LARGE : 容量が528MB以上でLBAをサポートしていないHDDを接続している場合に選択します。 Match Partition Table : HDDの記憶容量のモードを自動的に判別して設定します。 Manual : 「Cylinders」、「Head」、「Sector」項目を個別に設定します。
	Cylinders	HDDのシリンダ数を設定します。
	Head	HDDのヘッド数を設定します。
	Sector	HDDのセクタ数(1シリンダ当たり)を設定します。
	*CHS Capacity	HDDの最大容量(CHS)を表示します。
	*Maximum LBA Capacity	HDDの最大容量(LBA)を表示します。
	Multi-Sector Transfers	1度に何セクタ転送するかを設定します。最適でない設定にすると、HDD転送速度が落ちる可能性があります。「Type」項目を[Auto]に設定すると自動的に設定されます。 Disabled : 複数のセクタを転送しません。 2,4,8,16,32 Sectors : 転送セクタを設定します。 Maximum : HDDがサポートする最大セクタサイズを設定します。
	SMART Monitoring	初期設定[Disable]のまま使用します。
	PIO Mode	HDDの転送モード(PIO)を設定します。 0/ 1/ 2/ 3/ 4 : 転送モードを設定します。
	ULTRA DMA Mode	Ultra DMA対応装置の転送モードを設定します。 0/ 1/ 2/ 3/ 4/ 5 : 転送モードを設定します。 Disabled : 使用しません。
	Set Device as	「Type」項目で「MO」に設定した時のみ表示されます。 Auto : BIOSが自動的にMOのモードを設定します。 Floppy : MOドライブをFDモードで使用します。 Hard Disk : MOドライブをHDDモードで使用します。

Keyboard Features	キーボードに関する設定を行います。
Boot Up NumLock Status (起動時の NumLock の設定)	起動時の NumLock の状態を設定します。 Off : NumLock が押されていない状態にします。 On : NumLock が押された状態にします。
Keyboard Auto-Repeat Rate (キーリピート回数の設定)	1 秒間のキーリピート回数を選択します。 6 8 10 12 15 20 24 30 Sec
Keyboard Auto-Repeat Delay (ストローク間隔の設定)	最初のキー入力から次のキー入力を受け付けるまでの時間を選択します。 1/4 1/2 3/4 1 Sec
Supervisor Password User Password	コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。初期設定値は[Disabled]です。p.101「Passwordの設定」
Halt ON (エラーチェックの設定)	システム起動時にチェックするエラーの種類を選択します。指定したエラーが発生するとシステムは起動を停止します。 All Errors : すべてのエラーチェックを行います。 No Error : エラーチェックを行いません。 All but Keyboard : キーボード関連以外のエラーチェックを行います。 All but Disk : FDD関連以外のエラーチェックを行います。 All but Disk/Keyboard : キーボード/FDD関連以外のエラーチェックを行います。
*Installed Memory	メモリ容量を自動的に表示します。

Passwordの設定

Supervisor /User Password

この機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。システム起動時などにパスワードの入力が要求され、正しいパスワードを入力しないとコンピュータを使用することができません。

パスワードには「Supervisor Password(管理者パスワード)」と「User Password(ユーザーパスワード)」の2種類があります。この機能は「Main メニュー画面」の「Supervisor Password」および「User Password」項目で設定します。それぞれの「Password」の詳細は以下のとおりです。

	パスワード項目	設定値	BIOS Setup ユーティリティ 起動時	起動時 Windows
1	Supervisor Password	Enabled	○ (全項目*1変更可能)	○
	User Password	Enabled	○ (一部項目*2のみ変更可能)	○
2	Supervisor Password	Enabled	○ (全項目*1変更可能)	×
	User Password	Disabled		
3	Supervisor Password	Disabled	○ (全項目*1変更可能)	○
	User Password	Enabled		

○: パスワード要求あり ×: パスワード要求なし

*1: BIOS Setup ユーティリティの変更可能な全項目を指します。


*2: 次の項目を指します。

「Main メニュー画面」- 「System Time」, 「System Date」, 「User Password」

「Exit メニュー画面」- 「Exit Saving Changes」, 「Exit Discarding Changes」

パスワードの 設定・変更

パスワードの設定・変更方法は次のとおりです。

- 1 「Supervisor Password」または「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 パスワードを入力し、 を押します。
「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの
大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。
- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入
力し、 を押します。
同じパスワードを入力しないと、手順1のメッセージに戻ります。

Confirm Password:
- 4 パスワードの設定が完了すると、設定したパスワード項目の値が「Enabled」に変
わります。




制限


登録したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは、書き移して保管して
おくことをおすすめします。

万一、パスワードを忘れた場合は、CMOS RAMを初期化することでパスワードをクリ
アすることができます。CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報は、す
べてクリアされます。

 p.178「CMOS RAMの初期化」

パスワード の削除

- 1 「Supervisor Password」または「User Password」を選択して  を
押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 何も入力せずに  を押すと、選択したパスワード項目の値が「Disabled」に
変わります。これでパスワードが削除されます。

Advancedメニュー画面

CPU Internal Frequency (CPUのスピードの設定)	コンピュータに搭載されているCPUの周波数を表示します。 初期設定のまま使用します。
*CPU Frequency Multiple	コンピュータに搭載されているCPUの倍率を表示します。
*FSB:SDRAM : PCI Freq. Ratio	コンピュータに搭載されているシステム、メモリ、PCIスロットの転送レートを表示します。
*FSB/SDRAM/PCI Freq. (MHz)	コンピュータに搭載されているシステム、メモリ、PCIスロットの周波数を表示します。
*CPU Vcore	コンピュータに搭載されているCPUの動作電圧を表示します。
CPU Level 1 Cache (1次キャッシュメモリの設定)	CPUの1次キャッシュの有効/無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
CPU Level 2 Cache (2次キャッシュメモリの設定)	CPUの2次キャッシュの有効/無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
CPU Level 2 Cache ECC Check (2次キャッシュメモリのECCの設定)	CPUの2次キャッシュのECCの設定をします。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
Processor Serial Number (プロセッサ・シリアル・ナンバーの設定)	プロセッサ・シリアル・ナンバーの有効/無効を設定します。Celeron CPU使用時には、表示されません。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
PS/2 Mouse Function Control (PS/2マウスの設定)	PS/2マウスを使用するかどうかを設定します。この場合、IRQ12が常にPS/2マウス用に確保されます。 Enabled : PS/2マウスを使用します。 Auto : 自動的に設定します。

Chip Configurationサブメニュー画面

*SDRAM Capability	装着しているメモリの規格・仕様を表示します。
*SDRAM Operating Mode	装着しているメモリの動作スピードを表示します。
Onboard VGA (ディスプレイ機能の設定)	メインボード上のディスプレイ機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
Graphics Window Size (ディスプレイ機能の設定)	初期設定[64MB]のまま使用します。
High Priority PCI Mode (PCI スロット 1 の設定)	拡張スロット (PCI) を最優先にするかどうかを設定します。拡張カードで指示があるときに[Enable]に設定します。 Disabled : 最優先にしません。 Enabled : 最優先にします。

I/O Device Configurationサブメニュー画面

Onboard AC97 Audio Controller (オーディオ機器の設定)	<p>メインボード上のオーディオ機能を使用するかどうかを設定します。サウンドカード使用時は、[Disabled]に設定します。</p> <p>Disabled : 使用しません。</p> <p>Auto : 使用します。</p>
Floppy Disk Access Control (FDのアクセス設定)	<p>フロッピーディスクのアクセス方法を設定します。この設定はBIOSを使用しないFormatコマンドなどでは機能しません。</p> <p>R/W : 読み込み/書き込み可能</p> <p>Read Only : 読み込みのみ可能</p>
Onboard Serial Port 1 (シリアルポートの設定)	<p>シリアルポートのアドレスと IRQ 信号を設定します。</p> <p>3F8H/IRQ4, 2F8H/IRQ3, 3E8H/IRQ4, 2E8H/IRQ10</p> <p>Disabled : シリアルポートを使用しません。</p>
Onboard Parallel Port (パラレルポートの設定)	<p>パラレルポートが使用するアドレスを設定します。</p> <p>Disabled : パラレルポートを使用しません。</p> <p>378H/IRQ7, 278H/IRQ5, 3BCH/IRQ7</p>
Parallel Port Mode (パラレルポートの設定)	<p>パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。</p> <p>Normal : 標準の設定です。</p> <p>EPP : EPP モードに設定します。</p> <p>ECP : ECP モードに設定します</p> <p>ECP+EPP : EPP+ECP モードに設定します。</p>
Onboard Game Port (ゲームポートの設定)	<p>メインボードのゲームポートで使用するアドレスを設定します。サウンドカード使用時は、[Disabled]に設定します。</p> <p>Disabled : 使用しません。</p> <p>200H - 207H 208H - 20FH : 設定したアドレスを使用します。</p>
Onboard MIDI I/O (MIDIの設定)	<p>メインボードの MIDI で使用するアドレスを設定します。サウンドカード使用時は、[Disabled]に設定します。</p> <p>Disabled : 使用しません。</p> <p>330H - 331H 300H - 301H : 設定したアドレスを使用します。</p>
Onboard MIDI IRQ (MIDI IRQ信号の設定)	<p>メインボードの MIDI で使用する IRQ 信号を設定します。</p> <p>3 4 5 7 9 10 11 12 14 15</p>

PCI Configurationサブメニュー画面

Slot x IRQ (PCIスロットのIRQ設定) x=1 2 3	PCIスロットごとで使用する割り込み(IRQ)を設定します。 Auto : 自動設定します。 NA : 使用しません。 3/4/5/7/9/10/11/12/14/15 : IRQ3/4/5/7/9/10/11/12/14/15を使用します。
USB Function (USB機能の設定)	USB機能の有効/無効を設定します。 Disabled : USB機能を無効にします。 Enabled : USB機能を有効にします。
VGA BIOS Sequence (ビデオカードの優先順位の設定)	初期設定[AGP/PCI]のまま使用します。

Power メニュー画面

省電力機能の設定を行います。



制限

WindowsNT4.0では「Powerメニュー画面」の「Power Up Control」以外の設定は機能しません。工場出荷時の設定のままでお使いください。

Windows98/Windows2000では、省電力に関する設定は、Windowsでの設定が優先されます。

省電力に関する設定は、Windows98の「電源の管理」またはWindows2000の「電源オプション」で設定を行ってください。

p.59「省電力機能」

Power Management (省電力機能の設定)	省電力モードに移行する時間を設定します。 Max Saving : 省電力モードを有効にします。Min Savingと比べて省電力モードへの移行時間が短くなります。 Min Saving : 省電力モードを有効にします。Max Savingと比べて省電力モードへの移行時間が長くなります。 Disabled : 省電力モードを無効にします。 User Define : 省電力モードへの移行時間を設定します。 WindowsNT4.0は、工場出荷時には、「Disabled」に設定されていますが、「Load Setup Defaults」を実行した場合は、「User Define」に設定されます。「Load Setup Defaults」実行後は、「Disabled」に設定を戻します。
Video Off Option (ビデオ信号の設定)	ビデオ信号を停止するタイミングを選択します。 Suspend->Off : 省電力モード時に停止します。 Always On : ビデオ信号を停止しません。

Video Off Method (ビデオ信号の設定)	ビデオ信号を停止する方法を選択します。 V/H SYNC+Blank : 垂直/水平同期信号を停止し、ビデオ信号をブランク信号にします。 DPMS Standby / DPMS Suspend / DPMS OFF DPMSに従ってビデオ信号を停止します。 Blank Screen : ビデオ信号をブランク信号にします。DPMSなどの省電力機能に対応していないディスプレイを使用する場合に選択します。
HDD Power Down (HDDモータの停止時間の設定)	HDDのモータを停止する時間を設定します。内蔵IDE HDDのみ有効です。SCSI HDDには機能しません。 Disabled : HDDを停止しません。 1 ~ 15 Min : 1分から15分を選択します。
Suspend Mode (サスペンドモードの設定)	サスペンドモードに移行する時間を設定します。 Disabled : 省電力モードに移行しません。 1Min ~ 1Hour : 1分から1時間を選択します。
PWR Button < 4 Secs (電源OFFの設定)	電源OFFのタイミングを設定します。 Soft Off : 4秒以下電源スイッチを押した時に、電源OFFになります。 Suspend : 4秒以下電源スイッチを押した時に、サスペンドモードになります。
Power Up Control (電源投入方法の設定)	電源をONにする方法や条件を設定します。
AC PWR Loss Restart (再起動時の電源の設定)	電源スイッチを押さずに、AC電源供給時に起動するかどうかを設定します。 Enabled : 電源ON時に電源断状態になった後、電源が再投入されるとシステムが起動します。 Disabled : 電源OFFの状態です。 Previous State : 電源断状態前と同じ状態で再起動します。
PWR Up On External Modem Act: (モデム自動受信の設定)	電源OFF時、シリアルポートに接続したモデムに着信した時に電源ONするかどうかを設定します。 Enabled : 自動的に受信します。 Disabled : 設定しません。
Wake On LAN or PCI Modem: (LANからの起動設定)	電源OFF時、ネットワークまたはPCIモデムからの信号により、電源ONするかどうかを設定します。AC電源が切れると無効になります。 Enabled : 設定します。 Disabled : 設定しません。
Automatic Power Up (自動電源ONの起動設定)	設定した日付と時間に応じて、自動的に電源をONにします。AC電源が切れると無効になります。この機能は、Windows98/Windows2000では使用できません。 Disabled : 設定しません。 Everyday : 設定した時間に、毎日電源がONします。 By Date : 設定した日付と時間に、電源がONします。

Bootメニュー画面

「Bootメニュー画面」では、システムを起動するドライブの順番を設定することができます。初期設定は、[1.Removable Device]、[2. IDE Hard Drive]、[3.ATAPI CD-ROM]、[4.Other Boot Device]です(ただし、システムの構成により異なる場合があります)。ドライブを選択して **+** を押すと、そのドライブの順番が1つ上がります。ドライブを選択して **-** を押すと、そのドライブの順番が1つ下がります。

1. Removable Device	この項目で設定したドライブから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したい時は、順番を上げます。 Disabled /Legacy Floppy /LS120
2. IDE Hard Drive	IDE HDDから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したい時は、順番を上げます。
3. ATAPI CD-ROM	ATAPI CD-ROM から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したい時は、順番を上げます。
4. Other Boot Device	SCSI装置から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したい時は、順番を上げます。 Disabled /SCSI Boot Device
Plug & Play O/S (Plug & Play対応OSの設定)	初期設定は、Windows98が[Yes]、WindowsNT4.0/Windows2000が[No]です。 No : 非Plug & Play対応OS Yes : Plug & Play対応OS 使用するOSに合わせて正しく設定しないと、OSによっては正常に動作しない場合があります。
Boot Virus Detection (ウィルスチェックの設定)	ブートセクタに感染するウィルスをチェックします。 Disabled : チェックしません。 Enabled : チェックします。
Quick Power On Self Test (POSTの設定)	システム起動時のPower On Self Test(POST)の実行回数を選択します。 Disabled : 複数回実行します。 Enabled : 1回だけ実行します。起動時間を短くすることができます。
Boot Up Floppy Seek (シークの設定)	起動時にFDDのシーク動作を行うかを選択します。 Disabled : シーク動作を行いません。 Enabled : シーク動作を行います。

Exitメニュー画面

「Exitメニュー画面」は、BIOS Setupユーティリティの終了方法などを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Exit Saving Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit Discarding Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Save Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を保存します。

BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Main メニュー画面

項目	購入時の設定			変更内容	
Legacy Diskette A	None 1.44M 3.5 in 2.88M 3.5 in 720K 3.5 in 360K 5.25 in 1.2M 5.25 in			None 1.44M 3.5 in 2.88M 3.5 in 720K 3.5 in 360K 5.25 in 1.2M 5.25 in	
Primary	Master	Slave		Master	Slave
Type					
Translation Method					
Cylinders					
Head					
Sector					
Multi-Sector Transfers					
PIO Mode					
ULTRA DMA Mode					
Set Device as					

項目	購入時の設定		変更内容	
Secondary	Master	Slave	Master	Slave
Type				
Translation Method				
Cylinders				
Head				
Sector				
Multi-Sector Transfers				
PIO Mode				
ULTRA DMA Mode				
Set Device as				
Keyboard Features				
Boot Up NumLock Status	Off	On	Off	On
Keyboard Auto-Repeat Rate	()sec.	()sec.
Keyboard Auto-Repeat Delay	()sec.	()sec.
Halt On	All Errors All but Disk	No error All but Keyboard All but Disk/Keyboard	All Errors All but Disk	No error All but Keyboard All but Disk/Keyboard

Advanced メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
CPU Level 1 Cache	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
CPU Level 2 Cache	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
CPU Level 2 Cache ECC Check	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Processor Serial Number	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
PS/2 Mouse Function Control	Enabled	Auto	Enabled	Auto

Chip Configuration サブメニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Onboard VGA	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
High Priority PCI Mode	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

I/O Device Configuration サブメニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Onboard AC97 Audio Controller	Disabled	Auto	Disabled	Auto
Floppy Disk Access Control	R/W	Read Only	R/W	Read Only
Onboard Serial Port 1	3F8H/IRQ4 2F8H/IRQ3 3E8H/IRQ4 2E8H/IRQ10 Disabled		3F8H/IRQ4 2F8H/IRQ3 3E8H/IRQ4 2E8H/IRQ10 Disabled	
Onboard Parallel Port	Disabled	378H/IRQ7 278H/IRQ5 3BCH/IRQ7	Disabled	378H/IRQ7 278H/IRQ5 3BCH/IRQ7
Parallel Port Mode	Normal	EPP ECP ECP+EPP	Normal	EPP ECP ECP+EPP
Onboard Game Port	Disabled	200H-207H 208H-20FH	Disabled	200H-207H 208H-20FH
Onboard MIDI I/O	Disabled	330H-331H 300H-301H	Disabled	330H-331H 300H-301H
Onboard MIDI IRQ	3 4 5 7 9 10 11 12 14 15		3 4 5 7 9 10 11 12 14 15	

PCI Configuration サブメニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Slot 1 IRQ	Auto	NA 3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	Auto	NA 3/4/5/7/9/10/11/12/14/15
Slot 2 IRQ	Auto	NA 3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	Auto	NA 3/4/5/7/9/10/11/12/14/15
Slot 3 IRQ	Auto	NA 3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	Auto	NA 3/4/5/7/9/10/11/12/14/15
USB Function	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Power メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Power Management	Max Saving	Min Saving Disabled User Define	Max Saving	Min Saving Disabled User Define
Video Off Option	Suspend->Off	Always On	Suspend->Off	Always On
Video Off Method	V/H SYNC+Blank DPMS Standby DPMS Suspend DPMS OFF	Blank Screen	V/H SYNC+Blank DPMS Standby DPMS Suspend DPMS OFF	Blank Screen
HDD Power Down	Disabled	()Min	Disabled	()Min
Suspend Mode	Disabled	()Min/Hour	Disabled	()Min/Hour
PWR Button < 4 Secs	Soft Off	Suspend	Soft Off	Suspend
Power Up Control	AC PWR Loss Restart	Disabled Enabled Previous State	Disabled	Enabled Previous State
	PWR Up On External Modem Act:	Disabled Enabled	Disabled	Enabled
	Wake On LAN or PCI Modem	Disabled Enabled	Disabled	Enabled
	Automatic Power Up	Disabled Everyday By Date	Disabled	Everyday By Date

Boot メニュー画面

項目	購入時の設定			変更内容		
()Removable Device	LegacyFloppy	LS 120	Disabled	LegacyFloppy	LS 120	Disabled
()IDE Hard Drive	Disabled	()		Disabled	()	
()ATAPI CD-ROM	Disabled	()		Disabled	()	
()Other Boot Device	Disabled	SCSI Boot Device		Disabled	SCSI Boot Device	
Plug & Play O/S	No	Yes		No	Yes	
Boot Virus Detection	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
Quick Power On Self Test	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
Boot Up Floppy Seek	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	

ソフトウェアの 再インストール

ソフトウェアを再インストールする
手順について説明します。

Windows 98のインストール


Windows98 やユーティリティソフトのインストール方法を説明します。
インストールは、お客様の使用条件に合わせて行うことができます。購入時とまったく同じ状態には戻りませんので注意が必要です。

インストールの準備

再インストールが必要な場合 Windows98の再インストールが必要なのは、次の場合です。

何らかの原因でWindows98が起動しなくなった場合

お客様の好みに応じてデバイスドライバやソフトウェアなどをインストールし直したい場合

HDD領域の構成を変更したあと  p.179「HDD領域の変更」

本章のインストール手順は、工場出荷時のシステム構成を前提にしています。本機を購入後に市販の拡張カードなどを取り付けた場合には、インストール手順が異なる可能性があります。正常にインストールできない場合には、購入時のシステム構成に戻して実行してみてください。

必要なメディア

ソフトウェアをインストールするには、次のFDとCD-ROMが必要です。
これらは、購入時に「バックアップFD作成ユーティリティ」で作成したFD、または添付されていたディスクです。

Windows98起動ディスク

FDISKコマンドやFORMATコマンドなどが登録されているディスクです。

Windows98 CD-ROMセットアップ起動ディスク

Windows98のインストール時に使用します。

Windows98 CD-ROM

Windows98が登録されているリカバリCD-ROMです。

EPSONドライバCD

各種デバイスドライバが登録されているCD-ROMです。

マウスドライバCD

マウスドライバが登録されているCD-ROMです。

3モードFDDドライバディスク

3モードFDDドライバが登録されているディスクです。

ユーティリティCD

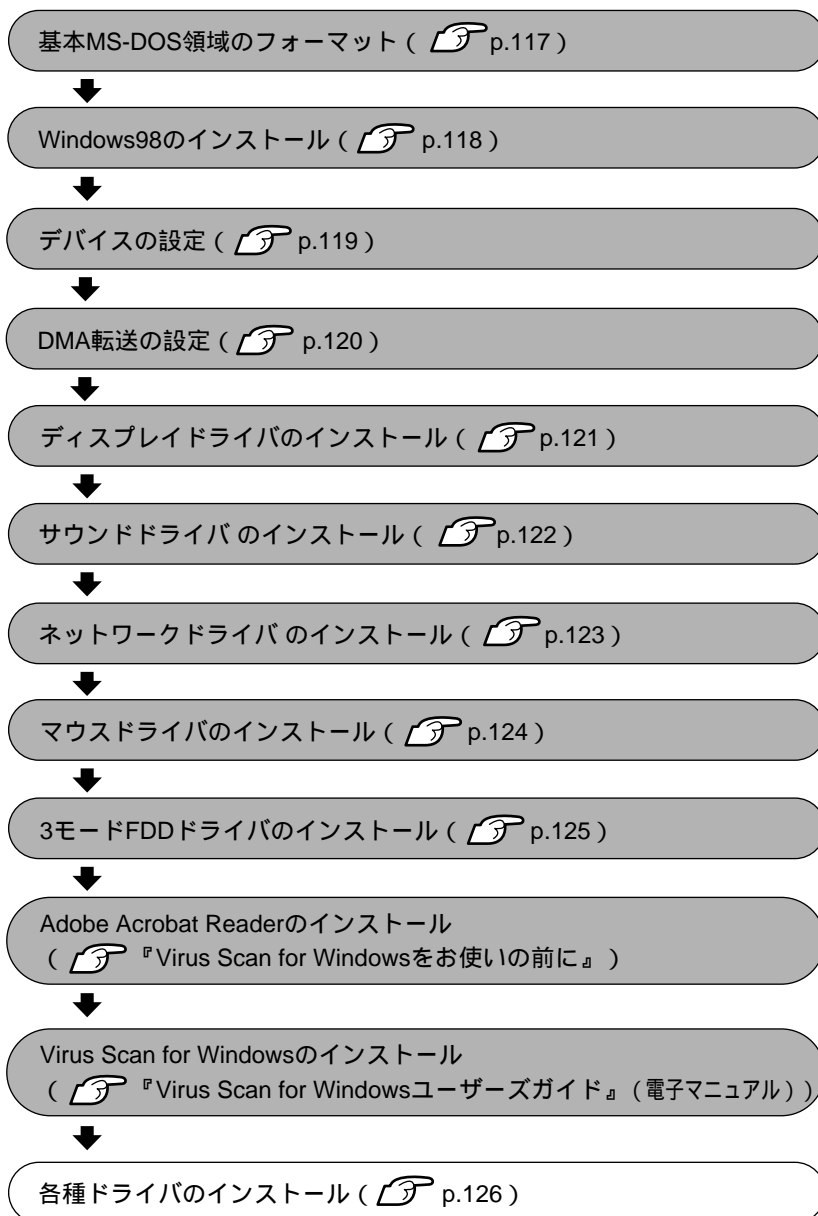
Virus Scan for WindowsとAdobe Acrobat Readerが登録されているCD-ROMです。

使用するオプション類に必要な各種ドライバディスク

必要なドライバディスクは、お使いになるシステム構成によって異なります。


インストールの順番

ソフトウェアのインストールは次の順番で行います。



インストール時の注意

インストールを始める前に、次の点に注意してください。

- | | |
|-------------------------|--|
| HDD領域のサイズ | 購入時のHDDは、FAT32ファイルシステムを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしてあります。
Windows98のインストールは、必ずFAT32ファイルシステムを使用してください。ファイルシステムを変更するとWindows98を再インストールすることができません。 |
| ドライブ名 | 本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。
Aドライブ:FDD
Cドライブ:HDD(基本MS-DOS領域)
Dドライブ:CD-ROMドライブ |
| プロダクトキー | Windows98をインストールするには、プロダクトキーの入力が必要です。プロダクトキーは、コンピュータ本体に貼付されている『COAラベル』に記載されています。 |
| 入力文字 | 本書の記載では、キーボードから入力する文字は、すべて大文字で記載してありますが、入力する際は大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。 |
| CD-ROMセットアップ起動ディスク | 「Windows98CD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使うときは、ライトプロテクトをかけた状態では使用できません。ライトプロテクトをはずして書き込み可能状態にしてください。
 p.45「ライトプロテクト」 |
| Windows98 CD-ROMを要求されたら | ドライバ類のインストール時に「Windows98 CD-ROM」が要求されることがあります。本書に何も記載がない場合は、「Windows98 CD-ROM(リカバリCD)」をセットせずに、「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」を指定してください。(Cドライブに「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」がある場合) |
| メーカー情報 | Windows98を再インストールすると、「コントロールパネル」「システムのプロパティ」に表示されていたメーカーロゴとサポート情報は消去されますので、あらかじめご了承ください。 |



弊社製以外のBIOSを使用すると、Windows98を再インストールすることができません。

基本MS-DOS領域のフォーマット

Windows98をインストールする領域(MS-DOS領域)をフォーマットします。
必ず基本MS-DOS領域をフォーマットしてからWindows98をインストールしてください。




領域をフォーマットすると、その領域のデータはすべて消失します。必要なデータは、あらかじめバックアップを取ってからフォーマットを行ってください。

基本MS-DOS領域をフォーマットするには、FORMATコマンドを使用します。
FORMATコマンドは、「Windows98起動ディスク」に登録されています。

- 1 「Windows98起動ディスク1」をFDDにセットして、コンピュータを起動させます。
- 2 「Microsoft Windows98 Startup Menu」が表示されたら「2.Start computer without CD-ROM support」を選択して を押します。
- 3 「キーボードのタイプを判定します。」と表示されたら、 を押します。
- 4 メッセージに従って、「Windows98起動ディスク2」に入れかえます。
- 5 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FORMAT C: (_ はスペースを意味します。)
- 6 「フォーマットしますか(Y/N)?」と確認のメッセージが表示されたら、 を押して を押します。フォーマットが開始されます。
- 7 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して を押します。
ボリュームラベルの初期設定は「WINDOWS_98」です。(_ は + を押します。) 必要のない場合は、そのまま を押します。コマンドプロンプト(A:¥>)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

Windows 98のインストール

Windows98のインストールは、次の手順で行います。

- 1 「Windows 98 CD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットし、コンピュータを再起動または電源を入れます。
- 2 「コンピュータを再起動します」と表示されたら、どれかキーを押します。
コンピュータを購入後、「Windows 98 CD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使用するときのみ表示されます。
- 3 「供給されているリカバリCD-ROMをドライブにセットして下さい。」と表示されたら、「Windows 98 CD-ROM」をCD-ROMドライブにセットしてどれかキーを押します。
手順4の画面が表示されるまで数分かかります。
- 4 「Windowsのセットアップを開始します。フロッピードライブからフロッピーディスクを抜いてください」と表示されたら、FDを抜いてどれかキーを押します。
- 5 コンピュータが再起動し、自動的に「Windows 98セットアップ」が実行されます。
- 6 ファイルのコピーが終了すると、再びコンピュータが再起動します。
- 7 コンピュータが再起動したら、各項目の設定をします。
 - ユーザー情報
「名前」を必ず入力してください。
 - 使用許諾契約
画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。
 - プロダクトキー
『COAラベル』に記載されている「Product key」を入力します。
- 8 「ウィザードの開始」が表示されたら、[完了]をクリックします。
- 9 画面の指示に従って「Windows 98セットアップ」を行います。
接続しているディスプレイによっては、「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されます。
モニタに添付のディスクを使用してデバイスドライバのインストールを行います。
 ディスプレイに添付のマニュアル
- 10 Windowsのセットアップが終了すると、Windowsが自動的に再起動します。
これでWindows 98のインストールは終了です。

デバイスの設定(Intel i815Eチップセット用ドライバの設定)

Windows98が標準でサポートしている内容では本機が十分に機能しないため、メインボード上のデバイスが正常に使用できるように設定します。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に「D:¥INFUPDATE¥SETUP」と入力して、[OK]をクリックします。
- 4 「ようこそ」画面が表示されます。[次へ]をクリックします。
- 5 「製品ライセンス契約」画面で[はい]をクリックします。
- 6 「Readme情報」画面で[次へ]をクリックします。
- 7 「セットアップの完了」画面で「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」にチェックが付いた状態で[完了]をクリックします。
- 8 Windowsの再起動時に「システム設定の変更」画面で「今すぐ再起動しますか?」と表示されます。[はい]をクリックします。
Windowsが再起動するとデバイスの設定は終了です。

DMA転送の設定

IDE HDDとIDE CD-ROMドライブへの転送処理速度を上げるために、次の設定を行います。HDDやCD-ROMドライブのほかにATAPI IDE機器が接続されている場合も、同様の手順で設定を行ってください。

- 1 [スタート]「設定」「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「コントロールパネル」「システム」アイコンをダブルクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「ディスクドライブ」項目をダブルクリックします。
- 5 「GENERIC IDE DISK TYPE47」をダブルクリックします。
- 6 「設定」タブをクリックします。
- 7 オプションの「DMA」にチェックを付けると、「サポートされていないハードウェアの注意」画面が表示されます。[OK]をクリックします。
- 8 もう一度 [OK] をクリックして、プロパティ画面を閉じます。
- 9 「CD-ROM」項目をダブルクリックします。
- 10 表示されたデバイス名をダブルクリックします。
デバイス名は、使用しているモデルにより異なります。
- 11 「設定」タブをクリックします。
- 12 オプションの「DMA」にチェックを付けると、「サポートされていないハードウェアの注意」画面が表示されます。[OK]をクリックします。
- 13 もう一度 [OK] をクリックしてプロパティ画面を閉じます。
- 14 [閉じる] をクリックすると、「今すぐ再起動しますか?」とメッセージが表示されます。[はい] をクリックします。
Windowsが再起動するとDMA転送の設定は終了です。

ディスプレイドライバのインストール



制限

ビデオカードを使用している場合は、下記の「EPSONドライバCD」の中の「ディスプレイドライバ」のインストールではなく、ビデオカードに添付のデバイスドライバをインストールをしてください。



ビデオカードに添付のマニュアル

ディスプレイドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート] - 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に「D:¥VGA¥WIN9X¥SETUP」と入力して、[OK]をクリックします。
- 4 「ようこそ」画面で「次へ」をクリックします。
- 5 「製品ライセンス契約」表示内容を確認し、「はい」をクリックします。
- 6 「インストール先の選択」画面で「次へ」をクリックします。
- 7 「セットアップの完了」画面で、「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」にチェックが付いた状態で「完了」をクリックします。
Windowsが再起動するとディスプレイドライバのインストールは終了です。

サウンドドライバのインストール



制限

サウンドカードを使用している場合は、下記の「EPSONドライバCD」の中の「サウンドドライバ」のインストールではなく、サウンドカードに添付のデバイスドライバをインストールしてください。



サウンドカードに添付のマニュアル

サウンドドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に「D:¥AUDIO¥WDM¥SETUP」と入力して[OK]をクリックします。
- 4 「ようこそ」画面で、[次へ]をクリックします。
- 5 「Windowsの再起動」画面で「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」にチェックが付いた状態で[OK]をクリックします。
- 6 Windowsが再起動したら、[スタート]-「Windowsの終了」をクリックし、「再起動する」にチェックマークを付けて[OK]をクリックし、再びWindowsを再起動します。
サウンドドライバのインストールが終了すると、画面右下にスピーカーアイコンが表示されます。

ネットワークドライバのインストール

ネットワークドライバのインストールは、次の手順で行います。

インストールの前に、ネットワーク用ケーブルが本機のネットワークコネクタに接続されていることを確認します。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「システム」アイコンをダブルクリックします。
- 4 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 5 「その他のデバイス」の下にある「PCI Ethernet Controller」をダブルクリックします。
- 6 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」をクリックします。
- 7 「デバイスドライバの更新ウィザード」画面で「次へ」をクリックします。
- 8 「現在使用している...」にチェックマークが付いた状態で「次へ」をクリックします。
- 9 「検索場所の指定」にチェックを付けて「D:¥LAN」と入力し「次へ」をクリックします。
- 10 「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」と表示されます。「次へ」をクリックします。
- 11 「...インストールが完了しました。」と表示されたら「完了」をクリックします。
- 12 「今すぐ再起動しますか?」と表示されたら「はい」をクリックします。
Windowsが再起動するとネットワークドライバのインストールは終了です。

マウスドライバのインストール

マウスドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「マウスドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
正しくセットされると自動的にセットアップ画面が表示されます。
もし自動的にセットアップ画面が表示されない場合は、[スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「名前」に「D:\SETUP」と入力し[OK]をクリックします。
- 2 「インストール先の選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 3 「プログラムフォルダの選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 4 「セットアップの完了」画面で「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」にチェックを付けて[完了]をクリックします。
- 5 Windowsが再起動すると「新しいホイールマウスがPS/2ポート上で検出されました。…」と表示されます。[はい]をクリックしてマウスの設定を行います。
これでマウスドライバのインストールは終了です。

3モードFDDドライバのインストール

3モードFDDドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「ハードウェアの追加」アイコンをダブルクリックします。
- 3 「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 4 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。…」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 5 「...新しいハードウェアを自動的に検出しますか?」と表示されたら、「いいえ(一覧から選択する)」をクリックし、[次へ]をクリックします。
- 6 「ハードウェアの種類」の表示をスクロールして「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、[次へ]をクリックします。
- 7 [ディスク使用]をクリックします。
- 8 「3モードFDDドライバディスク」をFDDにセットし、[OK]をクリックします。
- 9 「モデル」欄でお使いの機種用のドライバ名をクリックし、[次へ]をクリックします。
- 10 「ハードウェアのインストールを正常に続行します。」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 11 「今すぐ再起動しますか?」と表示されたらFDを抜き、[はい]をクリックします。
Windowsが再起動すると3モードFDDドライバのインストールは終了です。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティのインストールが必要です。本機でお使いになるオプション類のマニュアルをご覧になって、各ドライバのインストール作業を行ってください。



参考

インストールが必要なドライバの例

お客様がお使いになる仕様によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

FAXモデムカードを装着する場合 : FAXモデムドライバ

SCSIカード・SCSI機器を装着する場合 : SCSIドライバやSCSIユーティリティなど

WindowsNT4.0のインストール

WindowsNT4.0やユーティリティソフトのインストール方法について説明します。インストールは、お客様の使用条件に合わせて行うことができます。購入時とまったく同じ状態には戻りません。

インストールの準備

再インストールが必要な場合

WindowsNT4.0の再インストールが必要なのは、次の場合です。

何らかの原因でWindowsNT4.0が起動しなくなった場合。

お客様の好みに応じてデバイスドライバやソフトウェアなどをインストールし直したい場合。

本章のインストール手順は、工場出荷時のシステム構成を前提にしています。本機を購入後に市販の拡張カードなどを取り付けた場合には、インストール手順が異なる可能性があります。正常にインストールできない場合には、購入時のシステム構成に戻して実行してみてください。

必要なメディア

ソフトウェアをインストールするには、次のFDとCD-ROMが必要です。

これらは、購入時に「バックアップFD作成ユーティリティ」で作成したFD、または添付されていたディスクです。

WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ起動ディスク

Windowsのインストールに使うほか、FORMATコマンドなどが登録されているディスクです。

WindowsNT4.0 CD-ROM

WindowsNT4.0が登録されているリカバリCD-ROMです。

WindowsNT4.0 Service Pack6a CD-ROM

WindowsNT4.0を最新版にアップデートするCD-ROMです。

EPSONドライバCD

各種デバイスドライバが登録されているCD-ROMです。

マウスドライバCD

マウスドライバが登録されているCD-ROMです。

3モードFDDドライバディスク

3モードFDDドライバが登録されているディスクです。

ユーティリティCD

VirusScan for Windows とAdobe Acrobat Readerが登録されているCD-ROMです。

使用するオプション類に必要な各種ドライバディスク

必要なドライバディスクは、お使いになるシステム構成によって異なります。


インストールの順番




制限

ネットワークドライバをインストールする場合は、ネットワークドライバをインストール後に必ず「Service Pack 6a」のインストールを行ってください。


ソフトウェアのインストールは、次の順番で行います。

基本MS-DOS領域のフォーマット ( p.130)




WindowsNT4.0のインストール ( p.132)




ネットワークドライバのインストール ( p.134)




WindowsNT4.0のアップデート ( p.135)




ディスプレイドライバのインストール ( p.137)




サウンドドライバのインストール ( p.138)



マウスドライバのインストール ( p.139)




3モードFDDドライバのインストール ( p.140)




Acrobat Readerのインストール
( 『VirusScan for Windowsをお使いの前に』)



VirusScan for Windowsのインストール
( 『VirusScan for Windowsをお使いの前に』)



各種ドライバのインストール ( p.141)



WindowsNT4.0 Option Packのインストール


必要に応じてインストールを行ってください。

インストール時の注意

インストールを始める前に、次の点に注意してください。

- | | |
|--------------|---|
| HDD領域のサイズ | <p>購入時のHDDは、FAT16ファイルシステムを使用して先頭の2GBに基本MS-DOS領域を作成してあります。Windowsは、この領域にインストールしてあります。</p> <p>WindowsNT4.0のインストールは、必ずFAT16ファイルシステムを使用してください。ファイルシステムを変更するとWindowsNT4.0を再インストールすることができません。</p> <p>8GBを越える容量のHDDを装着している場合、WindowsNT4.0上でHDDの容量が8GBと表示されます。この表示は、「ServicePack6a」をインストールすると正しく表示されます。</p> |
| ドライブ名 | <p>本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。</p> <p>Aドライブ:FDD</p> <p>Cドライブ:HDD(基本MS-DOS領域)</p> <p>Dドライブ:CD-ROMドライブ</p> |
| プロダクトID | <p>WindowsNT4.0をインストールする際には、プロダクトIDの入力が必要です。プロダクトIDは、コンピュータ本体に貼付されている『COAラベル』に記載されています。</p> |
| 入力文字 | <p>本書の記載では、キーボードから入力する文字は、すべて大文字で記載してありますが、入力する際は、大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。</p> |
| 複数のCD-ROM装着時 | <p>本機に、IDE接続のCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ、DVD-ROMドライブなどを複数装着している場合、WindowsNT4.0のインストールは、必ずマスタ設定されたドライブから行ってください。スレーブ設定されたCD-ROMドライブからは、インストールすることができません。</p> |

CD-ROMセット 「WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使うときは、ライ
アップ起動ディスク トプロテクトをかけた状態では使用できません。ライトプロテクトをはずして
書き込み可能状態にしてください。

 p.45「ライトプロテクト」

WindowsNT4.0 ドライバ類のインストール時に「WindowsNT4.0 CD-ROM」が要求されることが
CD-ROMを要求 あります。本書に何も記載がない場合は、「WindowsNT4.0 CD-ROM(リカバリ
されたら CD)」をセットせずに、「C:\i386」を指定してください。(Cドライブに「i386」フォルダがある場合)



制限

弊社製以外のBIOSを使用すると、WindowsNT4.0を再インストールすることができません。

基本MS-DOS領域のフォーマット

WindowsNT4.0をインストールする領域(基本MS-DOS領域)をフォーマットします。必ず基本MS-DOS領域をフォーマットしてからWindowsNT4.0をインストールしてください。



制限

領域をフォーマットすると、その領域のデータはすべて消失します。必要なデータは、あらかじめバックアップを取ってからフォーマットを行ってください。

HDD領域の設定 本機に添付の「Windows NT 4.0 CD-ROM」は、FAT16ファイルシステム以外では
使用できません。お使いのHDDの基本MS-DOS領域をFAT16ファイルシステム
以外に変更してある場合は、基本MS-DOS領域をFAT16ファイルシステムに設定
してからフォーマットを行ってください。







 p.179「HDD領域の変更」

基本MS-DOS領域のフォーマット 基本MS-DOS領域をフォーマットするには、FORMATコマンドを使用します。FORMATコマンドは、「WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ起動ディスク」に登録されています。

- 1 「WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットして、コンピュータの電源を入れます。
- 2 「コンピュータを再起動します。…」と表示されたら、どれかキーを押します。コンピュータを購入後、「WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使用するときのみ表示されます。
- 3 「供給されているリカバリCD-ROMをドライブにセットして下さい。」と表示されたら、 + を押します。
- 4 「バッチ処理を終了しますか(Y/N) ?」と表示されたら、 を押します。
- 5 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FORMAT C: (はスペースを意味します。)
- 6 「…フォーマットしますか(Y/N) ?」と表示されたら、 を押して を押します。
- 7 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して を押します。
必要のない場合は、そのまま を押します。コマンドプロンプト(A:¥>)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

WindowsNT4.0のインストール

WindowsNT4.0のインストールは、次の手順で行います。

- 1 「WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットし、コンピュータを再起動または電源を入れます。
- 2 「供給されているリカバリCD-ROMをセットして下さい。」と表示されたら、「WindowsNT4.0 CD-ROM」をCD-ROMドライブにセットしてどれかキーを押します。
手順3の画面が表示されるまで数分かかります。
- 3 「セットアッププログラムのMS-DOS実行部は完了しました...」と表示されたら、FDを抜き  を押します。
- 4 コンピュータが再起動して「セットアップへようこそ」画面が表示されたら、 を押して続行します。
- 5 大容量記憶装置を追加して指定するかどうかを選択します。通常は  を押します。
- 6 「WindowsNT4.0ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するか、しないかを選択します。
「同意しない」を選択するとWindowsNT4.0のインストールが中止されます。
- 7 「キーボードの種類を特定するために、以下のいずれかのキーを押してください」と表示されたら、 を押します。
- 8 コンピュータ内のハードウェアとソフトウェアの確認を行います。
一覧の項目がすべて正しい場合は「上記の一覧は使用中のコンピュータと一致します。」を選び、 を押します。
- 9 「Windowsをインストールするパーティションを選択してください...。」と表示されます。「C:」を選択して  を押します。

- 10 ファイルシステムを選択します。「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択し、 を押します。
- 11 WindowsNT4.0のインストール先を指定します。「WINNT」と表示されている状態のまま を押します。
- 12 「セットアップはハードディスクに壊れたファイルがあるかどうか検査します。」と表示されます。
 詳細な二次検査を実行する場合は 、スキップする場合は を押します。
- 13 「ここまでのセットアップは正常に終了しました」と表示されたら、CD-ROMを取り出して を押し、Windowsを再起動します。
- 14 「WindowsNT Workstation セットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従ってセットアップを行います。おもな流れは次のとおりです。
- 名前と組織名
「名前」を必ず入力してください。
 - 登録
『COAラベル』に記載されている「Product ID」を入力します。
 - コンピュータ名
必ず入力してください。
 - パスワード
 - システム修復ディスク*の作成
「システム修復ディスク」は、使用できません。「いいえ」を選択します。
 *現在のWindowsシステムの設定に関する情報が含まれているディスク。
 - ネットワークへの参加
「まだネットワークに接続しない」を選択して「次へ」をクリックします。
 - 検出されたディスプレイ
「OK」をクリックして「画面のプロパティ」を閉じます。
- 15 「Windows NT 4.00は正常にインストールされました。」と表示されたら、コンピュータを再起動します。
 これでWindowsNT4.0のインストールは終了です。

ネットワークドライバのインストール

ネットワークドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- 4 「WindowsNTネットワークがインストールされていません。今すぐインストールしますか?」とメッセージが表示されたら、[はい]をクリックします。
- 5 「ネットワークセットアップウィザード」画面で「このコンピュータをネットワークに参加させる方法を指定してください。」と表示されたら、「ネットワークに接続」にチェックマークが付いている状態で [次へ] をクリックします。
- 6 [一覧から選択] をクリックして、続けて [ディスク使用] をクリックします。
- 7 「D:¥LAN」と入力して [OK] をクリックします。
- 8 「OEMオプションの選択」画面で「3Com EtherLink PCI NIC」を選択して [OK] をクリックします。続けて [次へ] をクリックします。
- 8 以降はネットワーク管理者の指示に従って操作します。
「いくつかのWindowsNTファイルをコピーする必要があります...」と表示されたら、CD-ROMをセットせずに「C:¥i386」を指定します。
- 9 「このコンピュータにネットワークがインストールされました...」とメッセージが表示されたら、[完了] をクリックします。
- 10 「...今すぐコンピュータを再起動しますか?」と表示されたら [はい] をクリックし、Windowsを再起動します。Windowsが再起動するとネットワークドライバのインストールは終了です。

WindowsNT4.0のアップデート



ネットワークドライバのインストールは、必ずWindowsNT4.0のアップデートの前に行ってください。

WindowsNT4.0を最新版にアップデートします。

Service Pack6aのインストール

- 1 「WindowsNT4.0 Service Pack 6a CD Disk 1」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 自動的に「Microsoft Windwos NT4.0 Servise Pack 6-Microsoft インターネット エクスプローラ」の画面が表示されます。
- 3 画面右上の ☐ をクリックし、「Windows NT4.0 Service Pack 6」の画面を閉じます。
- 4 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 5 「名前」に「D:¥I386¥UPDATE¥UPDATE」と入力し、[OK]をクリックします。（¥I386の「I」はアルファベット）
- 6 画面の指示に従ってセットアップを行います。
「WindowsNT Service Pack セットアップ」画面下の「後でこのService Packをアンインストールできるように・・・。」には、次のとおりチェックを付けます。
WindowsNT4.0のインストール後に初めて「Service Pack 6a」をインストールする場合
:チェックを付けます。
ドライバなどをインストール後に再度「Service Pack 6a」をインストールする場合
:チェックを付けません。
- 7 「Windows NT4.0 Service Pack 6のインストールが完了しました。…」と表示されたら[再起動]をクリックして、Windowsを再起動します。

Internet
Explorer5.0の
インストール

- 1 「WindowsNT4.0 Service Pack 6a CD Disk1」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に「D:¥VALUEADD¥MSIE5¥I386¥JA¥IE5¥IE5SETUP」と入力し、[OK]をクリックします。(¥MSIE5、¥I386、¥IE5、¥IE5SETUPの「I」はアルファベット)
- 4 画面の指示に従ってセットアップを行います。
「Internet Explorerとインターネットツールのセットアップへようこそ!」画面で「追加使用許諾契約書」の内容を確認してから[同意する]にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
「Windows Update:Internet Explorerとインターネットツール」画面が表示されます。通常は、「標準インストール - コンポーネントの標準構成」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
- 5 「コンピュータの再起動」と表示されたら[完了]をクリックします。
Windowsが再起動するとInternet Explorer5.0のインストールは終了です。

ディスプレイドライバのインストール



制限

ビデオカードを使用している場合は、下記の「EPSONドライバCD」の中の「ディスプレイドライバ」のインストールではなく、ビデオカードに添付のデバイスドライバをインストールしてください。



ビデオカードに添付のマニュアル

ディスプレイドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート] - 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に「D:¥VGA¥NT40¥SETUP」と入力して、[OK]をクリックします。
- 4 「ようこそ」画面で[次へ]をクリックします。
- 5 「製品ライセンス契約」内容を確認し、[はい]をクリックします。
- 6 「インストール先の選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 7 「セットアップの完了」画面で、「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」にチェックが付いた状態で[完了]をクリックします。
Windowsが再起動するとディスプレイドライバのインストールは終了です。

サウンドドライバのインストール



制限

サウンドカードを使用している場合は、下記の「EPSONドライバCD」の中の「サウンドドライバ」のインストールではなく、サウンドカードに添付のデバイスドライバをインストールしてください。



サウンドカードに添付のマニュアル

サウンドドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に「D:\¥AUDIO¥NT40¥SETUP」と入力して、[OK]をクリックします。
- 4 「ようこそ」画面で[次へ]をクリックします。
- 5 「About SoundMAX Integrated Digital Audio」画面で[OK]をクリックします。
- 6 「セットアップの完了」画面で「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」にチェックマークが付いた状態で[完了]をクリックします。
サウンドドライバのインストールが終了すると、画面右下にスピーカアイコンが表示されます。

マウスドライバのインストール

マウスドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「マウスドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
正しくセットされると自動的にセットアップ画面が表示されます。
もし自動的にセットアップ画面が表示されない場合は、[スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「名前」に「D:¥SETUP」と入力し[OK]をクリックします。
- 2 「インストール先の選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 3 「プログラムフォルダの選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 4 「セットアップの完了」画面で「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」にチェックを付けて[完了]をクリックします。
- 5 Windowsが再起動すると「新しいホイールマウスがPS/2ポート上で検出されました。…」と表示されます。[はい]をクリックしてマウスの設定を行います。
これでマウスドライバのインストールは終了です。

3モード FDD ドライバのインストール

3モードFDDドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「スタート」-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。名前に「C:¥WINNT¥SYSTEM32¥DRIVERS」と入力して[OK]をクリックします。
- 2 「drivers」フォルダの中の「floppy.sys」を「floppy.org」にファイル名を変更します。
「floppy.sys」が表示されていない場合は、「表示」メニューの「オプション」-「表示」タブをクリックして、「すべてのファイルを表示」をクリックし、表示させます。
- 3 「3モードFDDドライバディスク」をFDDにセットします。
- 4 ドライバディスクの中の「floppy.sys」をHDDの「¥WINNT¥SYSTEM32¥DRIVERS」にコピーします。
- 5 FDを抜いてWindowsを再起動します。これで3モードFDDドライバが有効になります。
3モードFDDドライバを無効にする場合は、「floppy.sys」を削除したのちに、もとのFDDドライバ「floppy.org」を「floppy.sys」にファイル名を変更してWindowsを再起動してください。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティのインストールが必要です。本機でお使いになるオプション類のマニュアルをご覧になって、各ドライバのインストール作業を行ってください。



参考

インストールが必要なドライバの例

お客様がお使いになる仕様によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

FAXモデムカードを装着する場合 : FAXモデムドライバ

SCSIカード・SCSI機器を装着する場合 : SCSIドライバやSCSIユーティリティ
など

ServicePack6a のインストール ドライバをインストールしたあとには、必ず「Service Pack6a」を再インストールしてください。



p.135「WindowsNT4.0のアップデート」

Windows2000のインストール

Windows2000やユーティリティソフトのインストール方法について説明します。
インストールは、お客様の使用条件に合わせて行うことができます。購入時とまったく同じ状態には戻りません。

インストールの準備

再インストールが必要な場合 Windows2000の再インストールが必要なのは、次の場合です。
何らかの原因でWindows2000が起動しなくなった場合。

お客様の好みに応じてデバイスドライバやソフトウェアなどをインストールしたい場合。

HDD領域を変更したい場合。  p.179「HDD領域の変更」

本章のインストール手順は、工場出荷時のシステム構成を前提にしています。本機を購入後に市販の拡張カードなどを取り付けた場合には、インストール手順が異なる可能性があります。正常にインストールできない場合には、購入時のシステム構成に戻して実行してみてください。

必要なメディア

ソフトウェアのインストールには、次のFDとCD-ROMが必要です。
これらは、購入時に「バックアップFD作成ユーティリティ」で作成したFD、または添付されていたディスクです。

Windows2000リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク

Windowsのインストールに使うほか、FORMATコマンドなどが登録されているディスクです。

Windows2000リカバリCD-ROM

Windows2000が登録されているリカバリCD-ROMです。

EPSONドライバCD

各種デバイスドライバが登録されているCD-ROMです。

マウスドライバCD

マウスドライバが登録されているCD-ROMです。

3モードFDDドライバディスク

3モードFDDドライバが登録されているディスクです。

ユーティリティCD

VirusScan for WindowsとAdobe Acrobat Readerが登録されているCD-ROMです。

使用するオプション類に必要な各種ドライバディスク

必要なドライバディスクは、お使いになるシステム構成によって異なります。

インストールの順番


ソフトウェアのインストールは、次の順番で行います。

「ネットワークドライバ」は、Windows2000インストール時に自動的にインストールされます。



インストール時の注意

インストールを始める前に、下記の点に注意してください。

- HDD領域のサイズ** 購入時のHDDは、FAT32ファイルシステムを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしてあります。
Windows2000のインストールは、必ずFAT32ファイルシステムを使用してください。ファイルシステムを変更するとWindows2000を再インストールすることができません。
- ドライブ名** 本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。
Aドライブ:FDD
Cドライブ:HDD(基本MS-DOS領域)
Dドライブ:CD-ROMドライブ
- プロダクトキー** Windows2000をインストールする際には、プロダクトキーの入力が必要です。プロダクトキーは、コンピュータ本体に貼付されている『COAラベル』に記載されています。
- 入力文字** 本書の記載ではキーボードから入力する文字は、すべて大文字で記載してありますが、入力する際は、大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。
- CD-ROMセットアップ起動ディスク** 「Windows2000リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使うときは、ライトプロテクトをかけた状態では使用できません。ライトプロテクトをはずして書き込み可能状態にしてください。
 p. 45「ライトプロテクト」
- Windows2000 CD-ROMを要求されたら** ドライブ類のインストール時に「Windows2000 CD-ROM」を要求されることがあります。本書に何も記載がない場合は、「Windows2000リカバリCD-ROM」をセットせずに、「C:\i386」を指定してください。(Cドライブに「C:\i386」フォルダがある場合)
- メーカー情報** Windows2000を再インストールすると、「コントロールパネル」-「システムのプロパティ」に表示されていたメーカーロゴとサポート情報は消去されますので、あらかじめご了承ください。



弊社製以外のBIOSを使用すると、Windows2000を再インストールすることができません。

基本MS-DOS領域のフォーマット

Windows2000をインストールする領域(MS-DOS領域)をフォーマットします。
必ず基本MS-DOS領域をフォーマットしてからWindows2000をインストールしてください。



制限






領域をフォーマットすると、その領域のデータはすべて消失します。必要なデータは、あらかじめバックアップを取ってからフォーマットを行ってください。

基本MS-DOS領域をフォーマットするには、FORMATコマンドを使用します。
FORMATコマンドは、「Windows2000リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」に登録されています。

- 1 「Windows2000リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットして、コンピュータを起動します。
- 2 「コンピュータを再起動します。…」と表示されたら、どれかキーを押します。
コンピュータを購入後、「Windows2000リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使用するときのみ表示されます。
- 3 「Windows2000の再インストールを行います。…」と表示されたら、を押します。
- 4 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FORMAT C: (はスペースを意味します。)
- 5 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して を押します。
必要のない場合は、そのまま を押します。コマンドプロンプト(A:¥>)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

Windows2000のインストール

Windows2000のインストールは、次の手順で行います。

- 1 「Windows2000リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットし、コンピュータを再起動または電源を入れます。
- 2 「Windows2000の再インストールを行います。…」と表示されたら、「Windows2000リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットして、どれかキーを押します。
手順3の画面が表示されるまで数分かかります。
- 3 「セットアッププログラムのMS-DOS実行部は完了しました。…」と表示されたら、FDを抜き  を押します。
- 4 「セットアップへようこそ」画面が表示されたら、 を押して続行します。
- 5 「Windows2000ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するか、しないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindows2000のインストールが中止されます。
- 6 「以下のいずれかのキーを押して、キーボードの種類を特定してください。」と表示されたら、 を押します。
- 7 「...一覧からパーティションを選択してください。」と表示されます。通常は「C:」を選択して  を押します。
- 8 「...にWindows2000をインストールします。」と表示されたら、「現在のファイルシステムをそのまま使用」を選択し、 を押します。
購入時のHDDは、FAT32ファイルシステムを使用しています。
- 9 ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピーが終了すると、自動的にWindowsが再起動します。

- 10 「Windows2000セットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従ってセットアップを行います。
- 地域
- 通常は、[次へ]をクリックします。
- ソフトウェアの個人用設定
- ここでは「名前」を必ず入力してください。
- プロダクトキー
- 『COAラベル』に記載されている「Product Key」を入力します。
- コンピュータ名とAdministratorのパスワード
- コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力します。
- 日付と時刻の設定
- コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
- ネットワークの設定
- 通常は、「標準設定」にチェックマークを付けて[次へ]をクリックします。
- ワークグループまたはドメイン名
- 管理者の指示に従って「ワークグループまたはドメイン名」を入力します。
- 11 「Windows2000セットアップウィザードの完了」と表示されたら、CD-ROMを取り出し[完了]をクリックすると、Windowsが再起動します。
- 12 「ネットワーク識別ウィザードの開始」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 13 「このコンピュータのユーザー」画面で「ユーザーはこのコンピュータを使用するとき、ユーザー名とパスワードを入力する必要がある」にチェックを付けて、[次へ]をクリックします。
- 14 「ネットワーク識別ウィザードの終了」と表示されたら[完了]をクリックします。
- これでWindows2000のインストールは終了です。

デバイスの設定(Intel i815Eチップセット用ドライバの設定)

Windows2000が標準でサポートしている内容では本機が十分に機能しないため、メインボード上のデバイスが正常に使用できるように設定します。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に「D:¥INFUPDATE¥SETUP」と入力して、[OK]をクリックします。
- 4 「ようこそ」画面が表示されます。[次へ]をクリックします。
- 5 「製品ライセンス契約」画面で[はい]をクリックします。
- 6 「Readme情報」画面で[次へ]をクリックします。
- 7 「セットアップの完了」画面で「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」にチェックが付いた状態で[完了]をクリックします。
Windowsが再起動するとデバイスの設定は終了です。

DMA転送の設定

IDE HDDやIDE CD-ROMドライブへの転送処理速度を上げるために、次の設定を行います。HDDやCD-ROMドライブのほかにATAPI IDE機器が接続されている場合も同様の手順で設定を行ってください。

- 1 [スタート]「設定」のサブメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「システム」アイコンをダブルクリックします。
- 3 「ハードウェア」タブ [デバイスマネージャ]をクリックします。
- 4 「IDE ATA/ATAPIコントローラ」をダブルクリックします。
- 5 「セカンダリIDEチャンネル」をダブルクリックします。
- 6 「詳細設定」タブをクリックします。
- 7 「デバイス0」、「デバイス1」の「転送モード」から「DMA」を転送します。ただし、「現在の転送モード」が「無効」と表示されている場合は、デバイスが接続されていないので設定を行う必要はありません。
- 8 [OK]をクリックします。
- 9 「今再起動しますか？」とメッセージが表示されます。[はい]をクリックします。
Windowsが再起動すると、DMA転送の設定は終了です。

ディスプレイドライバのインストール



ビデオカードを使用している場合は、下記の「EPSONドライバCD」の中の「ディスプレイドライバ」のインストールではなく、ビデオカードに添付のデバイスドライバをインストールしてください。

 ビデオカードに添付のマニュアル

ディスプレイドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「システム」アイコンをダブルクリックします。
- 4 「ハードウェア」タブ-[デバイスマネージャ]をクリックします。
- 5 「その他のデバイス」の下で「ビデオコントローラ(VGA互換)」をダブルクリックします。
- 6 「ビデオコントローラ(VGA互換)のプロパティ」画面で「ドライバ」タブをクリックします。[ドライバの更新]をクリックします。
- 7 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」と表示されます。[次へ]をクリックします。
- 8 「ハードウェア デバイスドライバのインストール」と表示されたら、「このデバイスの既知の...」にチェックマークを付けて[次へ]をクリックします。
- 9 「ハードウェアの種類」から「ディスプレイアダプタ」をクリックして[次へ]をクリックします。
- 10 [ディスク使用]をクリックします。
- 11 「製造元のファイルのコピー元」に「D:\¥VGA¥WIN2K¥WIN2000」と入力し、[OK]をクリックし、続けて[次へ]をクリックします。
- 12 「ドライバの更新警告」画面が表示されます。[はい]をクリックします。

- 13 「デバイスドライバのインストールの開始」と表示されたら[次へ]をクリックします。
- 14 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されたら[完了]をクリックします。続けて[閉じる]をクリックします。
- 15 「システム設定の変更」画面で「今コンピュータを再起動しますか?」と表示されたら[はい]をクリックします。
Windowsが再起動するとディスプレイドライバのインストールは終了です。

サウンドドライバのインストール



制限

サウンドカードを使用している場合は、下記の「EPSONドライバCD」の中の「ディスプレイドライバ」のインストールではなく、サウンドカードに添付のデバイスドライバをインストールしてください。



サウンドカードに添付のマニュアル

サウンドドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に「D:¥AUDIO¥WDM¥SETUP」と入力して[OK]をクリックします。
- 4 「ようこそ」画面で、[次へ]をクリックします。
- 5 「デジタル署名が見つかりませんでした。」画面が表示されたら[はい]をクリックします。
- 6 「Windowsの再起動」画面で「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」にチェックが着いた状態で[OK]をクリックします。
Windowsが再起動すると、サウンドドライバのインストールは終了です。

マウスドライバのインストール

マウスドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「マウスドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
正しくセットされると自動的にセットアップ画面が表示されます。
もし自動的にセットアップ画面が表示されない場合は、[スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「名前」に「D:¥SETUP」と入力し[OK]をクリックします。
- 2 「インストール先の選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 3 「プログラムフォルダの選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 4 「セットアップの完了」画面で「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」にチェックを付けて[完了]をクリックします。
- 5 Windowsが再起動すると「新しいホイールマウスがPS/2ポート上で検出されました。…」と表示されます。[はい]をクリックしてマウスの設定を行います。
これでマウスドライバのインストールは終了です。

3モードFDDドライバのインストール

3モードFDDドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「3モードFDDドライバディスク」をFDDにセットします。
 - 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
 - 3 「名前」に「A:¥SETUP」と入力して、[OK]をクリックします。
 - 4 「セットアップ」画面で「3mode フロッピードライバのセットアップを開始します。よろしいですか?」と表示されたら、[はい]をクリックします。
 - 5 「セットアップ完了」画面で「今コンピュータを再起動しますか?」と表示されたら、FDを抜き[はい]をクリックします。
- Windowsが再起動すると、3モードFDDドライバのインストールは終了です。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティのインストールが必要です。本機でお使いになるオプション類のマニュアルをご覧になって、各ドライバのインストール作業を行ってください。



参考

インストールが必要なドライバの例

お客様がお使いになる仕様によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

FAXモデムカードを装着する場合 : FAXモデムドライバ

SCSIカード・SCSI機器を装着する場合 : SCSIドライバやSCSIユーティリティなど



こんなときは

困ったときに
警告メッセージが表示されたら

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。

起動時の不具合



制限

電源をオフしてからオンにする場合は、オンにするまで20秒程度の間隔を開けてください。本機には、電源電圧などを管理するシステム管理機能が搭載されています。このため20秒以内に電源をオンにすると、電源が異常と判断され、正常にシステムが起動しなくなることがあります。

現象

電源ランプが点灯しない。

確認と対処

電源コードが正しく接続されているか確認します。

 p.9「コンピュータの設置」

電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を接続して確認してください。

電源コード、電源コンセントに問題がない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

ディスプレイに何も表示されない。

確認と対処

ディスプレイの電源ランプが点灯しているか確認します。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの接続コードがコンピュータに正しく接続されているか確認します。

 p.9「コンピュータの設置」

ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。


現象

画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。

確認と対処

コンピュータの電源をオフにしてから20秒以内に電源をオンにすると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源をオフにして、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

起動時にエラーメッセージが表示される場合には、起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。

 p.170「警告メッセージが表示されたら」

起動時にエラーメッセージが表示される場合には、エラーメッセージを確認してください。問題点が解決できない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行なった場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。

BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期設定値に戻してください。

 p.97「設定値をもとに戻すには」

BIOSを初期設定値に戻しても問題が解消されない場合は、CMOS RAMを初期化してみてください。

 p.178「CMOS RAMの初期化」

起動時の自己診断テスト終了後(OSの起動中)に警告メッセージが表示されている場合には、OSが正常に動作していない可能性があります。エラーメッセージの内容をメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

ピープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。


現象


次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。


Enter Password:

確認と対処

「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。

 p.101「Mainメニュー画面」-「Passwordの設定」

パスワードを正しく入力しているか確認します。 の状態により数値が正しく入力されていない場合があります。

 p.38「キーボードを使う」

パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。

 p.178「CMOS RAMの初期化」

現象

次のようなメッセージが表示されてWindowsなどのOSが起動しない。

DISK BOOT FAILURE,INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER

確認と対処

システムが登録されたFDをセットして、HDDが正常に認識されているか確認してください。

 p.164「HDDの不具合」


HDDを増設したあと起動しなくなった場合には、HDDが正しく装着されているか確認してください。

 p.164「HDDの不具合」

キーボードの不具合


現象 数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処 数値キーは  の状態により機能が変わります。

 p.38「キーボードを使う」




現象 どのキーを押しても応答がない。

確認と対処 キーボードが正しく接続されているか確認します。キーボードの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.9「コンピュータの設置」

アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

マウスを操作してください。マウスで操作できる場合もあります。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。このような場合には、 +  +  でリセットしてください。

リセットしても反応がない場合には、電源スイッチを押して電源をオフにして再起動してください。


 p.33「電源の切り方」

電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。

 p.33「電源の切り方」

現象 キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処 日本語キーボードドライバの特性によりキートップに刻印されている一部の文字は入力できません。

 p.38「キーボードを使う」

OS上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。Windows上で次のキーボードが選択されていることを「コントロールパネル」-「システム」アイコン(WindowsNT4.0/Windows2000は、「キーボード」アイコン)をダブルクリックして確認します。

Windows98 : 106日本語(A01)キーボード(Ctrl+英数)

WindowsNT4.0 : PC/AT106日本語(A01)キーボード

Windows2000 : 101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2
キーボード

マウスの不具合

現象 OSやアプリケーションソフトでマウスカーソルが表示されない。


確認と対処 マウスが正しく接続されているか確認します。

 p.9「コンピュータの設置」

MS-DOSアプリケーションでマウスを使用する場合は、専用のマウスマイバをインストールする必要があります。本機にはMS-DOS用のマウスマイバは添付されていません。

現象 マウスカーソルの動きが悪い。

確認と対処 マウスのクリーニングを行ってください。

 p.174「マウスのお手入れ」

ディスプレイの不具合

現象 使用中に何も表示されなくなった。

確認と対処 コンピュータの電源をオフにしてから20秒以内に電源をオンにすると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源をオフにして、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

ディスプレイが省電力モードになっている可能性があります。キーボードまたはマウスを操作すると復帰します。

 p.59「省電力機能」

ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの接続コードがコンピュータに正しく接続されているか確認します。

 p.9「コンピュータの設置」

ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売会社などにご確認ください。

ピープ音が鳴った場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示しなくなった。

確認と対処

ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。

使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。Windows98の場合はSafeモードで、Windows NT4.0/Windows2000の場合はVGAモードで起動し直してみてください。

Safeモードでの 起動（Windows 98の場合）

Windows98をSafeモードで起動する方法は、次のとおりです。Safeモードは、Windows98を基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に、**Ctrl**を押したまましばらく待ちます。
- 3 「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されたら、「3.Safe mode」を選択し、**Enter**を押します。

VGAモードでの 起動（Windows NT4.0の場合）

Windows NT4.0をVGAモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れます。
- 2 「オペレーティングシステムの起動」が表示されたら「Windows NT...[VGA mode]」を選択します。

VGAモードでの
起動 (Windows
2000の場合)

Windows2000をVGAモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置後、電源を入れます。
- 2 画面の下の方に次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に **F8** を押します。押さない場合は通常のモードでWindowsが起動します。
「Windows2000の問題解決と拡張オプションについてはF8を押してください」
- 3 「Windows2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「VGAモードを有効にする」を選択し、**←**を押します。

FDDの不具合

現象

FDに正常にアクセスできない。

確認と対処

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

A:¥
デバイスの準備ができていません。
[OK]

A:¥にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
[再試行] [キャンセル]

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性があります。

ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか？
[はい] [いいえ]

新しいFDを使用する場合は、フォーマットする必要があります。FDをフォーマットする前には、必ず重要なデータが登録されていないことを確認してください。

使用しているFDが、本機で利用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。1.25MBフォーマットのFDを使用する場合には、3モードFDDドライバがインストールされているか確認してください。

 p.46「1.25MBのFDを使う」

別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、FDに異常があることが考えられます。

別のFDでも読み書きできない場合には、「BIOS Setupユーティリティ」のFDDに関する項目がすべて初期設定値となっているか確認してください。


起動ディスクなどのシステムが組み込まれているFDから起動できるか確認してください。起動できない場合、FDDが故障している可能性があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

現象

FDに書き込みできない。

確認と対処

ライトプロテクトされていないか確認します。

 p.45「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

現象

FDDから異常な音がする。


確認と対処

販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

HDDの不具合

現象 それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

確認と対処 HDDに問題が発生している可能性があります。IDE HDDの場合は、「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。

 p.99「Mainメニュー画面」

現象 特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

確認と対処 ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。

上記の処置を行ってもこの現象が頻繁に発生する場合は、必要なファイルのバックアップを取ってから、HDDをフォーマットし直してください。HDDをフォーマットしても改善されない場合には販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

現象 増設したHDDが使用できない。

確認と対処 HDDを使用する場合にはHDDを初期化する必要があります。初期化には領域確保とフォーマットがあります。また確保した領域は「使用可能」状態に設定する必要があります。


 p.179「HDD領域の変更」

増設したHDDの設定(マスタ/スレイブ)、接続しているコネクタ(プライマリ/セカンダリ)、HDDの電源ケーブルを確認します(IDE HDDの場合)。

 p.85「ドライブ装置の装着」

ケーブル類が逆差しされていないか確認します。ケーブルは、赤い線のある側をコネクタの1番に差します。

IDE HDDを増設した場合は、「BIOS Setupユーティリティ」でHDDの設定を確認します。「BIOS Setup ユーティリティ」の「Mainメニュー」で増設したHDDのTypeが「None」になっている場合は「Auto」に変更します。

 p.99「Mainメニュー画面」

CD-ROMドライブの不具合

現象

セットしたCDにアクセスできない。

確認と対処

CD-ROMなどのメディアを挿入した直後、アクセスランプの点灯中は読み込みの準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。

CD-ROMなどのメディアの表面に傷などがないか確認してください。

コンピュータに添付されていたCD-ROM(「EPSONドライバCD」など)にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD-ROMメディアに問題がある可能性があります。

特殊なフォーマット形式のCD-ROMメディアの場合、アクセスできない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。

セットしたCDが書き込み済みのCD-RメディアまたはCD-RWメディアの場合、CD-ROMドライブとCD-R/CD-RWメディアとの相性によりアクセスできない可能性があります。他社メーカーのCD-R/CD-RWメディアを使用してみてください。

現象

セットしたCDが読み込めない。

確認と対処

CDには、CD-ROM、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどがあります。コンピュータの記録メディアとしてそのまま利用可能なのはCD-ROMだけです。そのほかのCDをアクセスするためには専用のソフトウェアが必要になります。Windowsには音楽CDを再生するソフトウェアとして「CDプレイヤー」が標準で添付されています。

現象


音楽用CDの音が聞こえない。

確認と対処

ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル0」に設定されていないか確認します。

音を鳴らすためには、アンプ内蔵スピーカを本体背面のライン出力コネクタに接続する必要があります。

CD-ROMドライブのオーディオコネクタがメインボードの「CD-1」コネクタに接続されているか確認します。

 p.188「コンピュータ内部のケーブル接続」

省電力機能に関する不具合

現象

正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない

確認と対処

使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。

省電力モードから復帰できない場合は、**Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前のデータはすべて消失します。

アプリケーションソフトの不具合

現象

アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。

確認と対処

過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。

ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやほこり、電源の出力不安定、もしくはその他の部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

現象

アプリケーションソフトが起動しない。

確認と対処

アプリケーションソフトの起動に必要なとされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。

アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

メモリの不具合

現象 メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処 DIMMを増設した場合は、DIMMのタイプが合っているか、ソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。

購入時から不具合がある場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

拡張カード、周辺機器の増設に関する不具合

現象 拡張カード、周辺機器を増設したらコンピュータの動作がおかしくなった。

確認と対処 増設した装置が対応する拡張スロットおよびコネクタに正しく装着されているか確認してください。

増設した装置のジャンプスイッチやディップスイッチの設定が正しいことを確認してください。例えば、同じIRQ信号を2つ以上の拡張カードで重複して設定しているとコンピュータは正しく動作しないことがあります。詳細は拡張カード、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

Windows98では、「コントロールパネル」-「システム」-「デバイスマネージャ」でIRQ信号やDMAがどのように設定されているか確認することができます。

Windows2000では、「コントロールパネル」-「システム」-「ハードウェア」タブ - [デバイスマネージャ]でIRQ信号やDMAがどのように設定されているか確認することができます。

周辺機器を追加するために拡張カードを装着した場合、周辺機器と拡張カードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。

拡張カードによっては、拡張スロットに装着するだけでなく、メインボードやコンピュータのコネクタとの接続が必要な場合があります。拡張カードのマニュアルを確認してください。

拡張カードを使用するアプリケーションソフトが正しく実行されているか確認してください。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プリンタの不具合

現象

印刷できない。

確認と対処

プリンタの電源および印刷するための準備が完了していることを確認してください。

プリンタのディップスイッチまたはコントロールパネルの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。

Windowsでは、プリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法については、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

スピーカの不具合

現象

システムは正常に動作しているのにブザーの音がしない。

確認と対処

内蔵スピーカのコネクタが接続されているか確認します。

スピーカの不良が考えられます。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。


その他の不具合

現象

「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処

本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。

 p.176「リチウム電池の交換」

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内部の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明
BIOS ROM checksum error - System halted.	BIOS ROM内のアドレスF0000H-FFFFFHの領域に不具合があります。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。それでもこのエラーが生じるときは、内蔵リチウム電池の残量が少なくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してみてください。p.176「リチウム電池の交換」
CMOS BATTERY HAS FAILED	データ保持用の内蔵リチウム電池の残量が少なくなっており、交換が必要です。リチウム電池を交換してみてください。p.176「リチウム電池の交換」
CMOS CHECKSUM ERROR	CMOS RAM設定値のエラー検出のためのチェックサムと、実際の設定値のチェックサムが違っています。BIOS Setupユーティリティを実行してください。それでもこのエラーが生じるときは、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
FLOPPY DISK(S) fail(80)	FDDが初期化できません。コンピュータの電源をオフにし、約20秒待ってから再起動してみてください。
FLOPPY DISK(S) fail(40)	BIOS Setupユーティリティで指定したFDDのドライブタイプと、装着されているFDDが異なっています。BIOS Setupユーティリティを起動し、FDDのドライブタイプを正しく設定し直してください。
Hard Disk(s) fail(80)	HDDの初期化に失敗しました。コンピュータの電源をオフにし、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(40)	HDDコントローラに異常が見つかりました。コンピュータの電源をオフにし、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(20)	HDD初期化ができません。コンピュータの電源をオフにし、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(10)	HDDのキャリブレーションができません。コンピュータの電源をオフにし、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(08)	HDDのセクタのベリファイができません。コンピュータの電源をオフにし、約20秒待ってから再起動してみてください。
Keyboard error or no keyboard present	キーボードを初期化できません。キーボードが正しく接続されているか確認してください。コンピュータの起動中はキーボードのキーは押さないでください。意図的にキーボードなしで使用する場合には、BIOS Setupユーティリティで、エラーチェックの設定を「Halt On: All But Keyboard」(キーボード関連以外のエラーチェックを行う)に設定します。これで、キーボードが接続されていなくてもコンピュータは正常に起動します。

警告メッセージ	説 明
Memory test fail	メモリのテスト中にエラーが発生しました。コンピュータの電源をオフにし、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hardware Monitor found an error, Enter Power setup menu for details	電源電圧に異常が発生しました。コンピュータの電源をオフにし、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源をオンにしてください。それでもこのエラーが生じるときは、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

付 録

お手入れ方法、CMOS RAMの初期化、リチウム電池の交換、HDD領域の変更方法、仕様などについて説明しています。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体やキーボード、マウスなどの外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

マウスのお手入れ

マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたらクリーニングを行ってください。

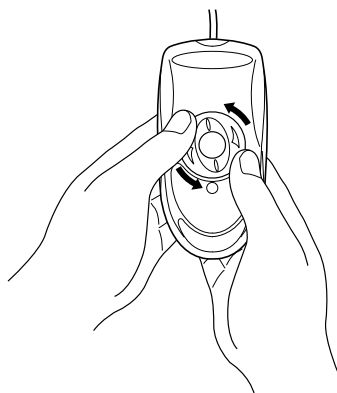
クリーニングはコンピュータ本体の電源を切ったあと、マウスをコンピュータから取り外した状態で行ってください。

クリーニングの手順は、次のとおりです。

1

マウス底面のボールフレームを外します。

ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。



2

マウスボールを取り出します。

マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。

- 3 マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。
マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。
クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。
- 4 マウスボールをマウス底面の穴に入れます。
- 5 ボールフレームをもとどおりに取り付けます。
右回りに回してマウス本体に装着します。



マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、本体内部のリチウム電池により保持されます。

本機のリチウム電池の寿命は数年です。リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、設定した値が何もしないのに変わってしまいます。このような場合、リチウム電池を交換してください。


本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

CR2032 または同等品



制限

リチウム電池を交換したら、「BIOS Setupユーティリティ」を実行して、日時、時刻を設定してください。続けて「Load Setup Defaults」などから、設定値をもとの値に戻します。

 p.95「BIOS Setupユーティリティの操作」




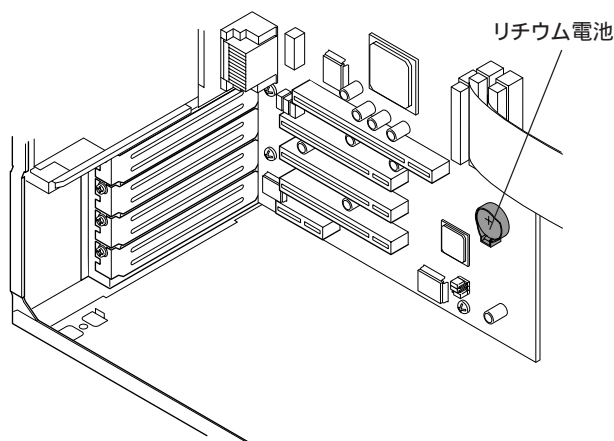
警告

小さなお子様手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。

リチウム電池の交換は、次の手順で行います。必要に応じてコンピュータを横置きにしてもかまいません。

- 1 本体カバーを外します。必ず電源コードも外します。
 p.68「本体カバーの外し方」
- 2 リチウム電池の位置を確認します。
リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります。



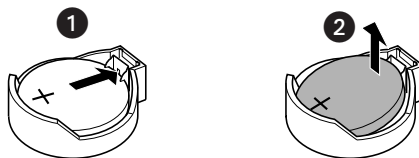
- 3 電池の取り外しの妨げになる拡張カードなどが装着されている場合は、拡張カードなどを取り外します。

 p.77「拡張カードの装着」

- 4 リチウム電池を抜きます。

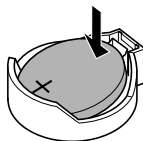
① 電池ホルダの留め金を押します。(電池ホルダの形状は、機種により違う場合があります。)

② リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。



- 5 新しいリチウム電池を取り付けます。


刻印面(+)が上側にくるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。取り付ける時には、「カチッ」と音が鳴ります。



- 6 拡張カードなどを取り外した場合は、もとどおりに取り付けます。


 p.77「拡張カードの装着」

- 7 本体カバーを装着します。

 p.68「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 8 外したケーブル類をもとどおり接続します。

- 9 コンピュータの電源を入れます。**[Delete]** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

 p.95「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 10 **[F5]** を押して「Load Setup Defaults」(工場出荷値)を実行します。

- 11 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。

- 12 「Exitメニュー」画面 「Exit Saving Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。しかし「BIOS Setupユーティリティ」で設定したパスワードを忘れたり、BIOSの設定を誤ったりして、コンピュータが起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になる場合があります。






制限

CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報がクリアされます。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをお勧めします。

 p.109「BIOSの設定値」

CMOS RAMの初期化の手順は、以下のとおりです。作業を始める前には、必ず p.67「作業時の注意」をお読みください。

- 1 本体カバーを外します。
 p.68「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 2 作業の妨げになる拡張カード、ケーブル類や電源コネクタなどを外します。
- 3 リチウム電池を外します。
 p.176「リチウム電池の交換」
- 4 約1分間放置します。
- 5 リチウム電池を取り付けます。
 p.176「リチウム電池の交換」
- 6 外した拡張カード、ケーブル類や電源コネクタなどを取り付けます。
- 7 本体カバーを装着します。
- 8 電源ケーブルや外したケーブル類を接続します。
- 9 コンピュータの電源を入れます。再起動すると、「CMOS checksum error-Defaults loaded」とメッセージが表示されます。**Delete** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行し、内容を保存してから終了します。

HDD領域の変更

MS-DOS領域の種類

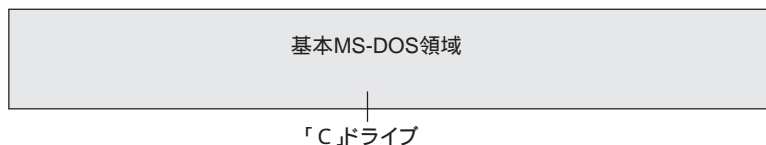
MS-DOS領域には、「基本MS-DOS領域」と「拡張MS-DOS領域」の2種類があります。Windowsの起動は基本MS-DOS領域からしか行えません。拡張MS-DOS領域は、HDD上に複数のドライブを作成する場合には必要になります。

Windowsを使用する場合には、これらの領域は「C」ドライブや「D」ドライブなどの論理ドライブ名で区別されます。これらの論理ドライブもMS-DOS領域の作成時に決められます。

基本MS-DOS領域は、必ず「C」ドライブです。基本MS-DOS領域にHDDの最大サイズを割り当てた場合は、基本MS-DOS領域のみが作成され、HDD上はすべて「C」ドライブとなります。(Windows NT4.0の場合、Cドライブの最大サイズは、2GBです。)これに対して、「C」「D」「E」ドライブなどの複数のドライブをHDD上に作成したい場合は、使用できる最大サイズを割り当てずにHDDの領域を残しておき、この残った領域を拡張MS-DOS領域に割り当てます。拡張MS-DOS領域は、さらに論理MS-DOSドライブとして分けられ、「D」「E」などの論理ドライブになります。

基本・拡張MS-DOS領域および論理MS-DOSドライブの関係をまとめると次のようになります。

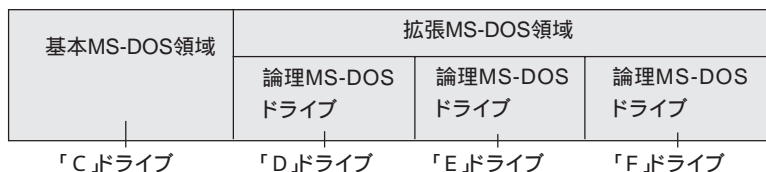
基本MS-DOS領域のみを作成した場合



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に1つの論理MS-DOSドライブを作成した場合



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に複数の論理MS-DOSドライブを作成した場合



HDD領域の変更

HDD領域の変更は、次のような場合に行います。通常は、HDD領域の変更を行う必要はありません。HDD領域の変更が必要なのは、次のような場合です。

MS-DOS領域のドライブ数や、各ドライブのサイズを変更したいとき。
フォーマットの形式を変更したいとき。

HDD領域の設定を変更するには、いったんHDD上の領域を削除してから、新たに領域を確保しなくてはなりません。

HDD領域の設定を変更する手順の概要は、次のとおりです。



領域を削除したりフォーマットする前に、必ずプロダクトキー(プロダクトID)を確認してください。Windowsをインストールする際には、プロダクトキー(プロダクトID)の入力が必要です。プロダクトキー(プロダクトID)は、『COAラベル』に記載されています。

領域を削除すると、その領域上のデータは消失します。必要なデータは、あらかじめバックアップを取ってから、次の作業を行ってください。

MS-DOS領域の削除

最初に既存の領域を削除します。HDD領域は「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」「拡張MS-DOS領域」「基本MS-DOS領域」の順番で削除します。

MS-DOS領域の作成

使用環境に合わせてMS-DOS領域を作成します。HDD領域は「基本MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」の順番で作成します。

MS-DOS領域のフォーマット

フォーマットはFORMATコマンドを使用します。

FDISKコマンド

HDD領域の設定を変更するには、FDISKコマンドを使用します。FDISKコマンドは、次のディスクに登録されています。

Windows98 : Windows98起動ディスク

 p.21「Windows98起動ディスクの作成」

WindowsNT4.0 : WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ起動ディスク

Windows2000 : Windows2000 リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク

大容量ディスク サポートとは

FDISKコマンドを起動すると「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されます。「大容量ディスクのサポート」とは、大容量HDDを効率的に管理する方法で、FAT32ファイルシステムのことです。

大容量ディスクサポートを行わない場合(FAT16ファイルシステム)の基本MS-DOS領域の最大サイズは、2GBです。そのため2GBを超えるHDDに対しては複数のドライブ作成が必要です。FAT32ファイルシステムでは、2GBを超えたHDDでも1つのHDD領域で使用できます。

本機の工場出荷時のHDDは、次のファイルシステムを使用してWindowsがインストールされています。ファイルシステムを変更すると、Windowsを再インストールすることができません。

Windows98 : FAT32ファイルシステム

WindowsNT4.0 : FAT16ファイルシステム



Windows2000 : FAT32ファイルシステム

既存領域の削除

起動方法

(Windows98の
場合)

次の方法でWindows98を起動し、コマンドプロンプトを表示させます。

- 1 「Windows98起動ディスク1」をFDDにセットして、Windowsを起動します。
- 2 「Microsoft Windows98 Startup Menu」が表示されたら「2. Start Computer Without CD-ROM Support」を選択して  を押します。
- 3 「キーボードのタイプを判定します。」と表示されたら、 を押します。
- 4 メッセージに従って、「Windows98 起動ディスク2」に入れかえます。
- 5 コマンドプロンプト(A:¥)が表示されたら、「Windows98起動ディスク1」に入れかえます。

起動方法
(WindowsNT4.0
の場合)

次の方法でWindowsNT4.0を起動し、コマンドプロンプトを表示させます。

- 1 「WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットして、コンピュータの電源を入れます。
- 2 「コンピュータを再起動します」と表示されたら、どれかキーを押します。
コンピュータを購入後、「WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使用するときのみ表示されます。
- 3 「供給されているリカバリCD-ROMをドライブにセットして下さい。」と表示されたら、 + を押します。
- 4 「バッチ処理を終了しますか(Y/N)? 」と表示されたら、を押します。
- 5 コマンドプロンプト(A:¥)が表示されます。

起動方法
(Windows2000
の場合)

次の方法でWindows2000を起動し、コマンドプロンプトを表示させます。

- 1 「Windows2000 リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットして、コンピュータの電源を入れます。
- 2 「コンピュータを再起動します」と表示されたら、どれかキーを押します。
コンピュータを購入後、「Windows2000 リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使用するときのみ表示されます。
- 3 「Windows2000の再インストールを行います。…」と表示されたら、を押します。
- 4 コマンドプロンプト(A:¥)が表示されます。

既存領域の 削除




- 1 コマンドプロンプト(A:¥)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FDISK
- 2 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y / N)」と表示されます。 または を押して を押します。
通常は、「Y」を選択します。ただし、WindowsNT4.0をインストールする領域を作成する場合は、「N」を選択します。
- 3 処理メニューから「3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選択します。 を押してから を押します。
- 4 「MS-DOS 領域または拡張MS-DOSドライブを削除」画面で、削除する領域を指定します。
基本MS-DOS 領域は、拡張MS-DOS領域があると削除できません。「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」「拡張MS-DOS 領域」「基本MS-DOS 領域」の順番で削除することができます。
ここでは基本MS-DOS 領域を削除する手順を説明します。(基本MS-DOS 領域以外の削除については画面のメッセージに従ってください。)
 を押してから を押します。
- 5 削除する領域の確認メッセージが表示されます。「1」と表示されていることを確認して を押します。
- 6 削除する領域のボリュームラベルを入力し、 を押します。
Windows98インストールモデルの初期設定は、次のとおりです。
WINDOWS_98 (_は + を押します。)
- 7 確認メッセージが表示されたら、 を押して を押します。
基本MS-DOS領域が削除されます。
- 8 を押して「FDISKオプション」画面に戻ります。
領域を作成する場合は、「MS-DOS領域の作成(p. 184 手順4)に移ります。



- 9 FDISKを終了する場合は、 を押します。
- 10 Windows起動ディスクをセットしたまま、 + + を押して、Windowsを再起動させます。
これでMS-DOS領域の削除は終了です。

MS-DOS領域の作成

基本MS-DOS 領域の作成

- 1 「Windows98起動ディスク」または「Windows CD-ROMセットアップ起動ディスク」を使ってWindowsを起動します。
 p.181「起動方法(Windows98の場合)」
 p.182「起動方法(WindowsNT4.0の場合)」
 p.182「起動方法(Windows2000の場合)」
- 2 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FDISK
- 3 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか？」と表示されます。
 または を押して を押します。
通常は、「Y」を選択します。ただしWindowsNT4.0をインストールする領域を作成する場合は、「N」を選択します。
- 4 処理メニューから「1.MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。 を押してから を押します。
- 5 「MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」画面で、「1. 基本MS-DOS領域を作成」を選択します。 を押してから を押します。
- 6 「基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを…」とメッセージが表示されます。
最大サイズは、大容量ディスクサポートを行った場合は全容量、行っていない場合は、2GBです。

7 を入力した場合と を入力した場合で次のように作業が異なります。

を入力して を押した場合

基本 MS-DOS領域が最大サイズで作成され、アクティブに設定されます。
FDISKを終了させてから + + を押して、Windowsを再起動します。

大容量ディスクサポートを行った場合は、再起動後にフォーマットを行います。「基本MS-DOS領域フォーマット」に進みます。

大容量ディスクサポートを行っていない場合に、拡張MS-DOS領域を作成するには、再起動後に手順12に進みます。

を入力して を押した場合

を押すと「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。割り当てるサイズを入力し、手順8に進みます。

8 基本 MS-DOS 領域が作成されます。 を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。

9 処理メニューから「2. アクティブな領域を設定」を選択します。 を押してから を押します。

10 「アクティブにしたい…」とメッセージが表示されます。 を押してから を押します。

11 「領域1がアクティブになりました」とメッセージが表示されます。 を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。











拡張MS-DOS領域と
論理MS-DOS
ドライブの
作成

- 1 2 再び、処理メニューから「1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。を押してから を押します。
- 1 3 「2. 拡張 MS-DOS領域を作成」を選択します。を押してから を押します。
- 1 4 「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。MS-DOS以外のOSをインストールするような場合を除いて、ここではそのまま を押してください。
- 1 5 拡張 MS-DOS 領域が作成されます。を押すと、論理ドライブの定義画面が表示されます。
- 1 6 「論理ドライブのサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。論理ドライブを複数(基本 MS-DOS 領域と合わせて3つ以上)設定する場合は、ここですべてを割り当てないようにします。使い方に合わせてサイズを入力し、を押します。
- 1 7 すべての拡張 MS-DOS 領域に論理ドライブを割り当てたら、を数回押して、FDISKを終了します。
- 1 8 Windows98起動ディスクまたは、「Windows CD-ROMセットアップ起動ディスク」をセットしたまま + + を押して、Windowsを再起動させます。これでMS-DOS領域の作成は終了です。

MS-DOS領域のフォーマット

HDD領域の変更をした場合は、各領域のフォーマットが必要です。フォーマットの手順は、次のとおりです。

- 1 「Windows98起動ディスク」または、「Windows CD-ROMセットアップ 起動ディスク」を使ってWindowsを起動します。
 p.181「起動方法(Windows98の場合)」
 p.182「起動方法(WindowsNT4.0の場合)」
 p.182「起動方法(Windows2000の場合)」
- 2 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して  を押します。(Cドライブをフォーマットする場合)
FORMAT C: (はスペースを意味します。)
- 3 「フォーマットしますか(Y/N)? 」と確認のメッセージが表示されたら、
 を押して  を押します。フォーマットが開始されます。
- 4 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して  を押します。
必要のない場合は、そのまま  を押します。コマンドプロンプト(A:¥>)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

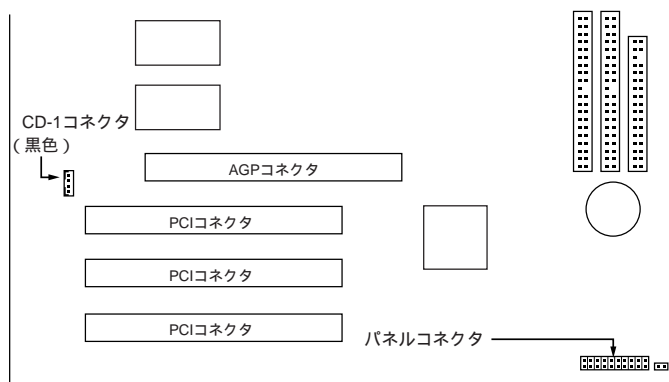
コンピュータ内部のケーブル接続

コンピュータ内部には何本かのケーブルがあり、メインボードなどと接続されています。通常はこれらのケーブルを外したり接続したりする必要はありません。誤って、これらのケーブルを外してしまった場合には本項の内容に従って正しく接続してください。



各種ケーブルは、本書で指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、ケーブルが異常発熱し故障の原因となります。

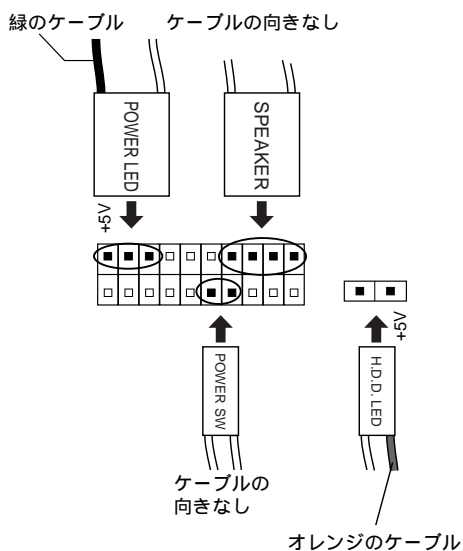
コネクタ位置
(メインボード上)



本体内部ケーブル
との接続

パネルコネクタ

パネルコネクタには、次のようにケーブルを接続します。



CD-1コネクタ

CDオーディオケーブルでCD-ROMドライブのCDオーディオコネクタと接続します。

コネクタの向きに合わせて接続します。

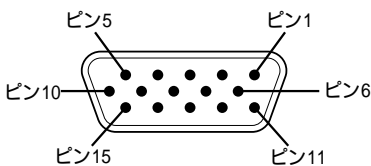
コネクタ仕様

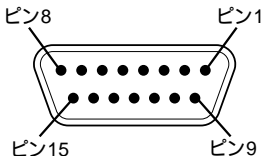
キーボード・マウスコネクタ 	ピン番号	信号	意味
	1	DATA	データ信号
	2	Reserved	システム予約
	3	GND	接地
	4	+5V	電源
	5	CLK	クロック
	6	Reserved	システム予約

パラレルコネクタ 	ピン番号	信号	意味
	1	STROBE	D0 ~ D7有効信号
	2	D0	Data Bit0 (印字データ)
	3	D1	Data Bit1
	4	D2	Data Bit2
	5	D3	Data Bit3
	6	D4	Data Bit4
	7	D5	Data Bit5
	8	D6	Data Bit6
	9	D7	Data Bit7
	10	ACK	データ受信
	11	BUSY	データ受信不可
	12	PE	用紙切れ
	13	SLCT	プリンタセレクト
	14	AUTFD	オートフィードモード
	15	ERROR	エラー
	16	INIT	初期化
	17	SLCTIN(DIR)	プリンタセレクトイン(データ方向)
	18 ~ 25	GND	接地

シリアルコネクタ 	ピン番号	信号	意味
	1	DCD	キャリア検出
	2	RXD	受信データ
	3	TXD	送信データ
	4	DTR	データ端末レディ
	5	GND	各信号線の接地
	6	DSR	データセットレディ
	7	RTS	送信要求
	8	CTS	送信可
	9	RI	被呼表示

LANコネクタ(100BASE-TX/10BASET) 	ピン番号	信号	意味
	1	TD +	送信データ+
	2	TD -	送信データ-
	3	RD +	受信データ+
	4	NC	未接続
	5	NC	未接続
	6	RD -	受信データ-
	7	NC	未接続
	8	NC	未接続

VGAコネクタ 	ピン番号	信号	意味
	1	Red Video	赤映像信号
	2	Green Video	緑映像信号
	3	Blue Video	青映像信号
	4	NC	未使用
	5	GND	接地
	6	Red GND	接地(赤)
	7	Green GND	接地(緑)
	8	Blue GND	接地(青)
	9	NC	未使用
	10	GND	接地
	11	NC	未使用
	12	DDCSTD	DDCデータ
	13	HSYNC	水平同期信号
	14	VSNC	垂直同期信号
	15	DDCSLK	DDCクロック

<p>ゲームポート / MIDIコネクタ</p> 	ピン番号	信号	意味
	1	+5V DC	電源
	2	Button 4	ジョイスティックAボタン1
	3	Position 0	ジョイスティックAのX座標
	4	GND	接地
	5	GND	接地
	6	Position 1	ジョイスティックAのY座標
	7	Button 5	ジョイスティックAボタン2
	8	+5V DC	電源
	9	+5V DC	電源
	10	Button 6	ジョイスティックBボタン1
	11	Position 2	ジョイスティックBのX座標
	12	MIDI OUT	MIDI送信データ
	13	Position 3	ジョイスティックBのY座標
	14	Button 7	ジョイスティックBのボタン2
	15	MIDI IN	MIDI受信データ

<p>USBコネクタ</p> 	ピン番号	信号	意味
	1	VCC	電源
	2	- Data	信号
	3	+ Data	信号
	4	Ground	グラウンド

機能仕様一覧

CPU		Pentium IIIまたはCeleronプロセッサ
	セカンドキャッシュ	Pentium IIIプロセッサ : 256KB Celeronプロセッサ : 128KB
メモリ	ROM	BIOS 他 512KB EPPROM
	メインメモリ	最大512MBまで増設可能
ビデオコントローラ		Intel i815E with Integrated 2D&3D(切り離し可能)
サウンドコントローラ		AC'97 CODEC(切り離し可能)
キーボード		日本語対応109キー
マウス		ホイール付きPS/2マウス
記憶装置	内蔵FDD	3.5型FDDを1基内蔵 3モード対応1.44MB/1.25MB/720KB
	内蔵HDD	IDE HDD1基内蔵 Ultra ATA/66およびUltra ATA/100対応
	CD-ROMドライブ	CD-ROMドライブを1基内蔵 最大40倍速
インタフェース	パラレルインタフェース	1(セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート)
	シリアルインタフェース	1(RS-232C準拠 D-SUB 9ピン)
	VGAインタフェース	1(アナログRGB D-SUB 15ピン)
	キーボードインタフェース	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)
	マウスインタフェース	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)
	サウンドインタフェース	ライン出力コネクタ×1、ライン入力コネクタ×1、 マイク入力コネクタ×1、ゲームポート/MIDIコネクタ×1
	USBインタフェース	2
ドライブ ベイ	3.5型ドライブベイ	1(FDDで使用済み)
	5.25型ドライブベイ	2(CD-ROMドライブで1基使用済み)
	HDDドライブベイ	2(HDDで1基使用済み)
外部拡張スロット		AGP対応スロット×1(110 [W] × 175 [L] mm) PCI対応スロット×3 (110 [W] × 175 [L] mm)
カレンダー時計		内蔵(内蔵電池によりバックアップ)
電源容量		142W(最大230W)
入力電圧		AC 100 V ± 10% 50/60 Hz
温湿度条件		温度: 10 ~ 35
		湿度: 20 ~ 80%(ただし、結露しないこと)
外形寸法		本体: 約170(幅) × 345(奥行) × 357(高さ) mm(突起部除く)
重量		本体: 約9.0Kg(本体のみ)
省エネ法に基づくエネルギー消費効率		35W(待機時消費電力)

用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

ACPI

Advanced Configuration and Power Interfaceの略。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

AGP

CPUとビデオチップを接続するための拡張ポート。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化している。

BIOS(バイオス)

Basic Input Output Systemの略。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたもの。コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。

使用例 BIOSの設定を行ってください。
= BIOS Setupユーティリティを実行して設定を変更してください。

類義語 CMOS RAM

BIOS Setupユーティリティ

コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラム。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOS Setupユーティリティで設定した値はCMOS RAMに保存されます。

CPU

Central Processing Unitの略。コンピュータの処理の中心、頭脳。

DIMM

Dual Inline Memory Moduleの略。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

DMA転送

Direct Memory Accessの略。CPUを介さずに、周辺装置とメモリ間で直接データ転送を行うこと。

使用例 DMA転送により高速なデータの出入りが可能。

DMAチャネル

DMAでデータを転送する場合の通り道のこと。複数のDMA転送を行う装置が接続されている場合には、別々のチャネルを使用するように設定する必要があります。

使用例 サウンドカードで使用するDMAチャネルを設定する。

DRAM(ディーラム)

メモリの種類。Dynamic Random Access Memoryの略。コンピュータで最も一般的に使用されるメモリです。

メインメモリには、DRAMが使用されます。コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。DRAMにはFastPageモード、EDOモードなどの種類があります。

FAT16

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を16ビットに拡張したファイルシステム。FAT16ファイルシステムでは、基本MS-DOS領域の最大サイズは、2GBで、その容量を超えるHDDに対しては、複数のドライブの作成が必要です。

FAT32

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を32ビットに拡張したファイルシステム。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます(FAT16では2GBまで)。

I/Oポート(Input/Outputポート)

CPUとデバイス間でデータをやりとりするポートです。

IDE

Integrated Device Electronicsの略。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種。

使用例 IDEインタフェースのHDD(IDE HDD)

IRQ

Interrupt Requestの略。周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0～IRQ15の16種類が用意されています。

使用例 サウンドカードではIRQ7を使用します。

MIDI

演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

OS

Operating Systemの略。コンピュータ全体を管理するソフトウェアのこと。WindowsやMS-DOSなどのことです。

PCIバス

拡張バス的一种。一般的に採用されている拡張バス。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応などメリットが多い。

高速性を要求される拡張カードに使用される。

RAM(Random Access Memory)

RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

ROM(Read Only Memory)

読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持しつづけます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

RS232C

シリアルインタフェースとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

SCSI

Small Computer System Interfaceの略。コンピュータと周辺装置間のデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種。良く使用されるものとして大容量HDD、MOドライブ、スキャナなどがあります。

使用例 SCSIインタフェースのHDD(SCSI HDD)

SDRAM

外部バスインタフェースが、一定周期のクロック信号に同期して動作するように改良されたDRAMです。

USB

Universal Serial Busの略。比較的低速な装置をシリアル通信で接続するための規格。今後キーボードやマウス、ジョイスティックなどがUSBに接続される。

Ultra ATA/66・100

IDEインタフェース上において66MB/sまたは100MB/sでデータを転送できるデータ入出力方法のこと。

使用例 Ultra ATA/66・100対応ケーブル

VGA

640×480ドット16色を表示するビデオ表示機能。DOS/V機の基本的な表示機能。Windowsなどで高解像度表示が可能なコンピュータでも起動時には必ずこのモードで表示されます。

アクセス

データの読み書きなど、入出力動作一般のこと。

使用例 HDDにアクセスする。=HDDのデータを読み書きする。

アクセスランプ

HDDやFDDにアクセスしていることを示すランプのこと。

使用例 HDDアクセスランプ

アドレス

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のこと。一般的に16進数で示されます。

使用例 メモリアドレス、I/Oポートアドレス

アプリケーションソフト

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算など目的のはっきりしたソフトウェアのこと。

インストール

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

【使用例】 サウンドドライバをインストールします。

インタフェース

コンピュータと周辺装置の間でデータを入力出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

【使用例】 IDEインタフェース、インタフェースコネクタ、インタフェースケーブル

解像度

画面表示の細かさのことです。

【使用例】 1024×768ドットの解像度で表示する。

外部キャッシュメモリ

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。

【類義語】 キャッシュRAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

拡張スロット

拡張カードを装着するためのスロットです。拡張カードには、ISAバス用拡張カード、PCIバス用拡張カードがあります。

カーソル

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

【使用例】 マウスカーソル

起動する

コンピュータの電源スイッチを入れて、コンピュータを使用できる状態にすることを「起動する」と言います。

【類義語】 立ち上げる。

キャッシュ処理、キャッシュ機能

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

【使用例】 メモリキャッシュ、ディスクキャッシュ

コマンド

コンピュータに与える命令です。

命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

【使用例】 次のコマンドを入力してください。

サーバ

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

システム

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

【使用例】 システムを起動する。=コンピュータの電源スイッチを入れて、OSを立ち上げてコンピュータを使用できる状態にすることです。

ジャンパスイッチ

コンピュータの機能を制御する基板上の小さなスイッチのこと。ジャンパスイッチの設定はジャンパクリップと呼ばれる部品を差し替えて変更します。

ディスプレイ

表示装置のことです。

類義語 CRTディスプレイ、モニタ

ドット

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

使用例 1024×768ドットの解像度＝画面上に1024×768個の点を表示することができます。

内部キャッシュ

CPU内部のキャッシュ

バス

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のこと。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

使用例 PCIバス、AGPバス

パラメータ

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

使用例 パラメータを設定します。

ハングアップ

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

ヒートシンク

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のこと。CPUの発熱量は大きいので熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回す(強制空冷)のものがあります。

ファイル

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

使用例 ファイルをコピーする。データファイルを作成する。

物理ドライブ

HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

プラグアンドプレイ

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)こと。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。拡張カードや周辺装置などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能。

この機能により、従来拡張カード上で設定していたI/Oポート、IRQ、DMAの設定などが不要になります。

完全なプラグアンドプレイを実現するためには拡張カードや周辺装置、BIOSやOSなど、それぞれでサポートする必要があります。PCIバス用拡張カードではプラグアンドプレイに対応していますが、古いISAバス用拡張カードは対応していないものがあります。

プログラム

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのこと。

類義語 ソフトウェア、アプリケーションソフト

プロトコル

ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

ポート

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

メッセージ

コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

メインメモリ

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのこと。主記憶。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

使用例 メインメモリは64MBです。

メモリ

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

メモリチェック

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

モデム

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

リソース

拡張カードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語。

類義語 システム資源

論理ドライブ

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

索引

英数字

1.25MBフォーマットFD	46
2HD(FDD)	42
2DD(FDD)	42
3モードFDDドライバのインストール (Windows98インストールモデル)	125
(WindowsNT4.0インストールモデル)	140
(Windows2000インストールモデル)	153
3.5 型フロッピーディスクドライブ	7
5.25型ドライブ装置 ~の取り付け	80
~の取り外し	81

A

Adobe Acrobat Reader (Windows98インストールモデル)	4
(WindowsNT4.0インストールモデル)	5
(Windows2000インストールモデル)	6
AGP	77

B

BIOSの設定	93
BIOS Setupユーティリティの操作	95
Mainメニュー	99
Advancedメニュー	103
Powerメニュー	106
Bootメニュー	108
Exitメニュー	109
BIOSセットアップユーティリティの終了	98

C

CapsLock	39
CD-ROM	49
~の強制取り出し	50
~のセットと取り出し	49
CD-ROMイジェクトホール	7

CD-ROMイジェクトボタン	7
CD-ROMドライブ	7
~の不具合	165
CD-1コネクタ	188
CMOS RAM	94
CMOS RAMの初期化	178
COAラベル	13
CPU	3

D

DMA転送の設定 (Windows98インストールモデル)	120
(Windows2000インストールモデル)	149
DIMM (メモリ)	73
~の仕様	73
~の取り付け	74
~の取り外し	76
~の不具合	168

F

FAT16	17
FAT32	17
FD (フロッピーディスク)	42
データのバックアップ	45
~のセットと取り出し	43
~のフォーマット	44
ライトプロテクト (書き込み禁止)	45
FDD (フロッピーディスクドライブ)	42
~の不具合	162
FDDアクセスランプ	7
FDDイジェクトボタン	7
FDDケーブル	92
FDISK	180

H

HDD (ハードディスクドライブ)	47
データのバックアップ	47
~のフォーマット	48
~領域の変更	179
~の不具合	164
HDDアクセスランプ	7
HDDベイ	66
~の取り付け	82
~の取り外し	84

I

IDEケーブル	86
IDE装置	85
~の設定	86
~の接続例	87
~の増設例	88

M

MIDIコネクタ	8
MO	51
~の強制取り出し	53
~のセットと取り出し	51
~のフォーマット	52
ライトプロテクト (書き込み禁止)	52
MOドライブ	80
MS-DOS領域のフォーマット	187
MS-IME	39

N

NumLock	39
---------------	----

P

Passwordの設定	101
-------------------	-----

S

Safeモード	161
Scroll Lock	39
SCSI装置	89
SCSI ID	89
SCSIターミネータ	89
Supervisor Password	101

U

Ultra ATA/66・100ケーブル	86
USBコネクタ	64
User Password	101

V

VGAコネクタ	8
VGAモード	161
Virus Scan for Windows	64

W

Windows98	(7)
~のセットアップ	18
~起動ディスクの作成	21
~のインストール	118
WindowsNT4.0	(7)
~のアップデート	135
~のセットアップ	22
~のインストール	132
~ Service Pack6aのインストール	141
~ Internet Explorer5.0のインストール	136
~ OptionPackのインストール	128
Windows2000	(7)
~のセットアップ	26
~のインストール	146
Windowsキー	40

50音順

あ

アイコン (8)

い

インストール

(Windows98のインストール) 118

(WindowsNT4.0のインストール) 132

(Windows2000のインストール) 146

う

ウィルス 64

お

お手入れ 174

本機のお手入れ 174

マウスのお手入れ 174

か

解像度の変更

(Windows98インストールモデル) 54

(WindowsNT4.0インストールモデル) .. 56

(Windows2000インストールモデル) 57

拡張カードの装着 78

拡張スロットの仕様 77

拡張MS-DOS領域 179

き

キーボード 38

キーの種類と役割 38

キーロック表示ランプ 39

記号の入力 39

日本語変換プログラム 39

～の接続 11

～を使う 38

～の不具合 159

キーボードコネクタ 8

起動方法 181

基本MS-DOS領域のフォーマット

(Windows98インストールモデル) 117

(WindowsNT4.0インストールモデル) .. 130

(Windows2000インストールモデル) .. 145

機能キー 38

機能仕様一覧 192

休止状態 59

強制取り出し

CD-ROM 50

MO 53

く

クリック 41

け

警告メッセージ 170

ケーブルセレクト 87

ゲームポート・MIDIコネクタ 8

こ

コネクタ仕様 189

コンピュータウィルス 64

さ

再インストール

(Windows98のインストール) 118

(WindowsNT4.0のインストール) 132

(Windows2000のインストール) 146

サウンド機能 63

サウンドドライバのインストール

(Windows98インストールモデル) 122

(WindowsNT4.0インストールモデル) .. 138

(Windows2000インストールモデル) .. 151

し

システムの拡張	65
フロントパネルの取り外し・取り付け	70
フェイスプレートの取り外し・取り付け ..	72
本体カバーの取り外し・取り付け	68
DIMMの増設	73
拡張カードの装着	77
ドライブベイへのドライブの装着	80
IDE装置の設定	86
SCSI装置の設定	89
接続例	90
シリアルコネクタ	64
仕様	192
省電力機能	59
休止状態	59
スタンバイ	59
~の実行方法	61
~からの復帰方法	62

す

数値キー	38
スーパーバイザーパスワード	101
スクロール	41
スタンバイ	59
スピーカの不具合	169
スレイブ	87

せ

セカンダリ	86
セットアップ	13
(Windows98インストールモデル)	18
(WindowsNT4.0インストールモデル) ..	22
(Windows2000インストールモデル)	26
セットアップブートディスクの作成	31

た

大容量ディスクサポート	181
タスクバー	(8)
タブ	(8)
ダブルクリック	41

て

ディスプレイ	54
~ドライバのインストール	
(Windows98インストールモデル)	121
(WindowsNT4.0インストールモデル) ..	137
(Windows2000インストールモデル) ..	150
~の接続	10
~の不具合	160
デスクトップ	(8)
デバイスの設定	
(Windows98インストールモデル)	119
(Windows2000インストールモデル) ..	148
電源コードの接続	12
電源コネクタ	8
電源スイッチ	7
電源の入れ方	13
電源の切り方	33
(Windows98の場合)	33
(WindowsNT4.0の場合)	34
(Windows2000の場合)	34
添付ソフトウェア	4

と

ドライブキャリア	82
ドライブ装置の装着	85
HDDの接続	90
CD-ROMドライブの接続	91
3.5型FDDの接続	92
ドライブベイへの装着	80
ドラッグアンドドロップ	41

に

日本語変換プログラム	39
入力キー	38

ね

ネットワーク

～機能	63
～ドライバのインストール	
(Windows98インストールモデル)	123
(WindowsNT4.0インストールモデル) ..	134
～に接続する	12
ネットワークコネクタ	8

は

ハードディスクドライブ (HDD)	47
データのバックアップ	47
～のフォーマット	48
～の領域について	48
～の不具合	164
パスワード	101
Supervisor Password	101
User Password	101
～の設定	101
～の変更	102
～の削除	102
～の初期化	178

バックアップディスクの作成

(Windows98インストールモデル)	20
(WindowsNT4.0インストールモデル) ..	25
(Windows2000インストールモデル)	29
パネルコネクタ	188
パラレルコネクタ	63
ハングアップ	35

ひ

光磁気ディスク (MO)	51
表示色の変更	
(Windows98インストールモデル)	54
(WindowsNT4.0インストールモデル) ..	56
(Windows2000インストールモデル)	57

ふ

フェイスプレート

～の取り外し	72
～の取り付け	72
プライマリ	86
プリンタの不具合	169
フロッピーディスクドライブ (FDD)	42
フロッピーディスク (FD)	42
1.25MBのFDを使用する	46
3モードFDDドライバ	46
データのバックアップ	45
～のセットと取り出し	43
～のフォーマット	44
ライトプロテクト (書き込み禁止)	45
プロダクトキー	13
フロントパネル	
～の取り外し	70
～の取り付け	71

へ

ヘッドフォンジャック	7
------------------	---

ほ

ボタン	(8)
ボリューム	7
本体カバー	68
～の外し方	68
～の装着	69
本体内部ケーブル	188

ま

マイク入力コネクタ	8
マウス	41
~ コネクタ	8
~ ドライバのインストール	
(Windows98インストールモデル)	124
(WindowsNT4.0インストールモデル)	139
(Windows2000インストールモデル) ..	152
~ のお手入れ	174
~ の接続	12
~ の操作	41
~ の設定変更	41
~ の不具合	160
マスタ	87
マニュアルディスク	20

め

メモリ (DIMM)	73
--------------------	----

ゆ

ユーザーパスワード	101
-----------------	-----

ら

ライトプロテクト (書き込み禁止)	
FD	45
MO	52
ライン出力コネクタ	8
ライン入力コネクタ	8

り

リセット	35
リチウム電池の交換	176

れ

冷却ファン	8
-------------	---

ろ

論理MS-DOSドライブ	179
--------------------	-----

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器などの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。が、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

Windows NT4.0インストールモデルは、本プログラムの対象外となります。

漏洩電流自主規制について

本装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NT は 米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Celeron は Intel Corporation の商標です。

Adobe Acrobat Reader は Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

PS/2 は International Business Machines の登録商標です。

その他の社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。



エプソン販売 株式会社



大豆油インキを
使用しています。



このユーザーズマニュアルは
再生紙を使用しています。

C77108001 00.08-30.10(SO)